男 女 共同参画社会

についての

市民意識調査報告書

令和７年３月

南九州市　まちづくり推進課　共生・協働推進係

Ⅰ．調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ．回答者の属性【問10,11，問34～問41】 ・・・・・・3
問３４ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
問３５ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
問１０ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
問１１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
問３６ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
問３７ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
問３８・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
問３９・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
問４０・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
問４１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

Ⅲ．調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
１．男女共同参画社会への取り組み・・・・・・・・・・14
２．家庭生活の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・14
３．女性活躍・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
４．地域活動への参画・・・・・・・・・・・・・・・・16
５．教育現場での啓発・・・・・・・・・・・・・・・・16
６．セクハラ･DV・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
７．多様性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

Ⅳ．調査結果の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
問１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
問２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
問３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
問４・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
問５・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
問６・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
問７・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
問８・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
問９・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
問１２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
問１３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
問１４・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
問１５・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
問１６・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
問１７・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
問１８・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
問１９・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
問２０・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
問２１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
問２２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
問２３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
問２４・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
問２５・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
問２６・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
問２７・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
問２８・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
問２９・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
問３０・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
問３１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
問３２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
問３３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
その他意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65

Ⅴ．集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

Ⅵ．男女共同参画社会についての市民意識調査原稿・・・・・85

Ⅰ．調査の概要

Ⅰ．調査の概要

１．調査の目的

前回調査から5年経過するにあたり，男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握し，今後の男女共同参画に関する施策の推進を図るための基礎資料とする。

２．調査の設計

⑴ 調査地域：南九州市全域

⑵ 調査対象：南九州市在住の18歳以上の市民２，０００人

（単位：人）

	女性	男性	年代別	年代別比
18歳～29歳	74	59	133	6.7%
３０歳代	75	104	179	9.0%
４０歳代	118	140	258	12.9%
５０歳代	133	120	253	12.7%
６０歳代	201	177	378	18.9%
７０歳以上	471	328	799	40.0%
計	1072	928	2,000	100.0%
性別比	54%	46%	100.0%	

（令和６年4月1日現在）

⑶ 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出

⑷ 調査方法：郵送による配布回収，QRコードからの電子申請

⑸ 調査期間：令和６年12月９日から令和７年１月10日まで

３．回収状況

配布件数：2,000　　回収数：615（有効回収率：30.75　%）

４．集計にあたっての留意事項

① グラフ中では，母数となるサンプル（回答者数）を「n=」で示すこととする。

② 集計結果は百分率で算出し，四捨五入の関係上100%にならない場合がある。

③ 本調査の結果分析にあたり，各調査との比較を行っているが，次のとおりとする。

・調査結果【問１】の国・県比較に用いたデータについては，「令和３年度　男女共同参画に関する県民意識調査報告書（鹿児島県）」「令和４年度　男女共同参画社会に関する世論調査の概要（内閣府）」から引用している。

・調査結果中，「平成３０年度調査」とあるのは，「第2次南九州市男女共同参画基本計画」策定時に基礎資料として用いた「男女共同参画についての市民意識調査」の結果を示している。

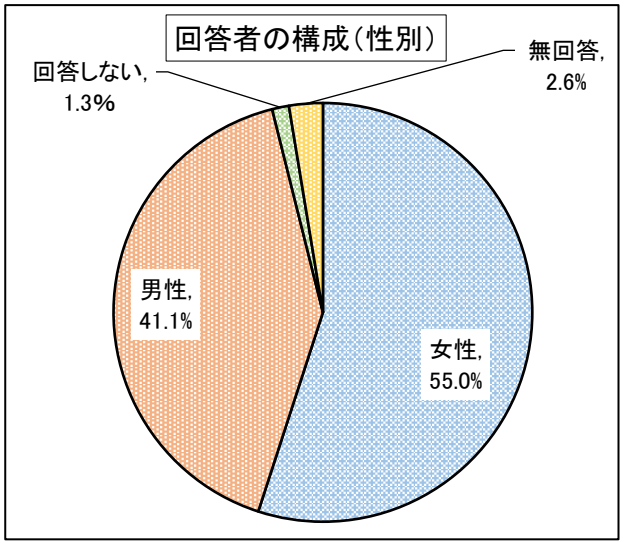
Ⅱ．回答者の属性

【問10.問11，問34～問41】

Ⅱ．回答者の属性【問10，問11，問34～問41】

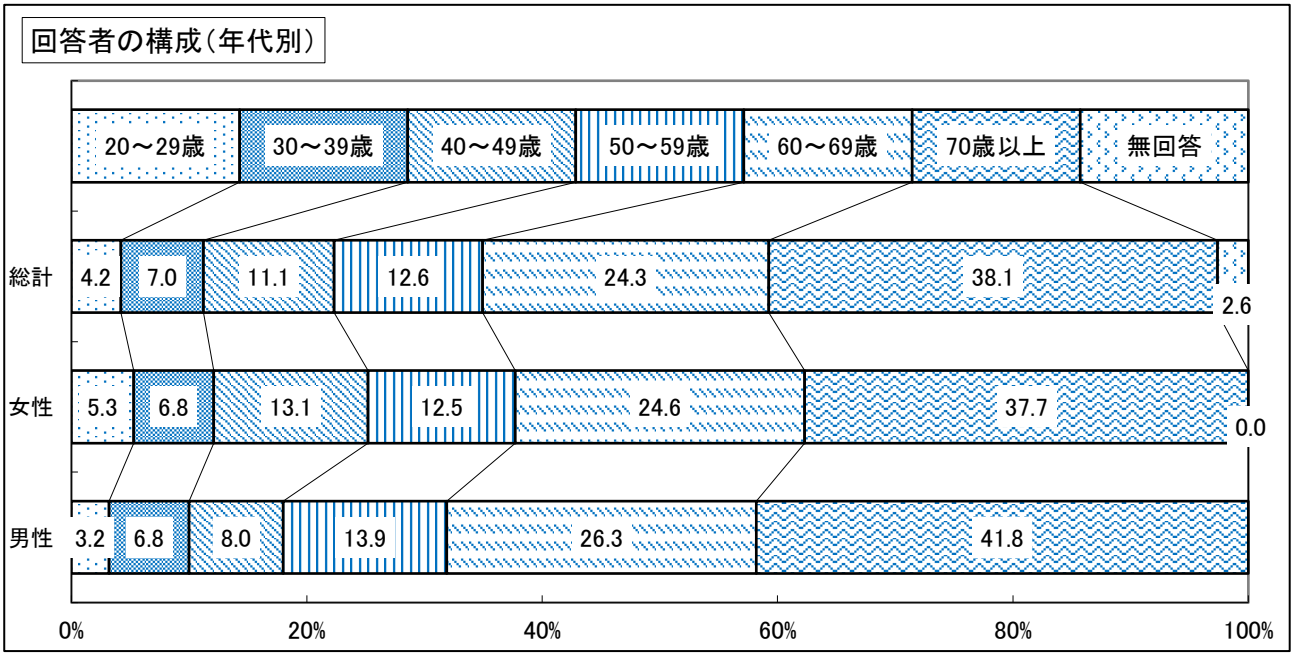
●1　あなたの性別を教えてください。（ＬＧＢＴの方は自己の主観で可）　【問34】

	人数	構成比
女性	338	55.0%
男性	253	41.1%
回答しない	8	1.3%
無回答	16	2.6%
合計	615	100.0%



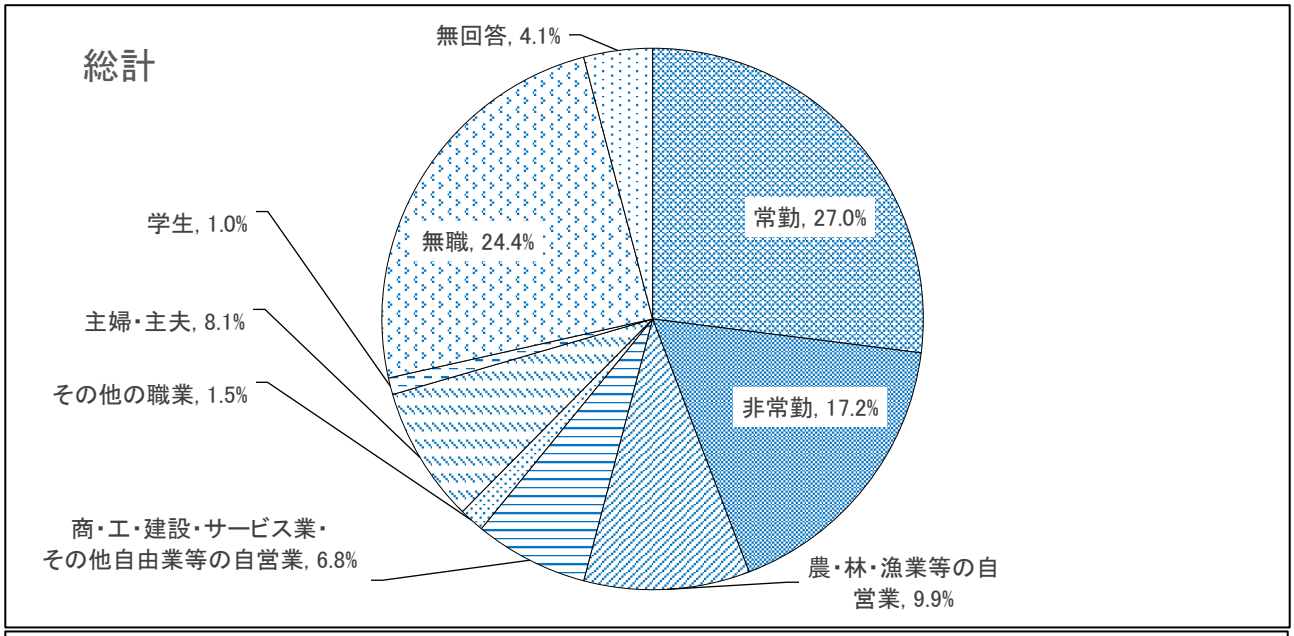
●2　あなたの年齢を教えてください。【問35】

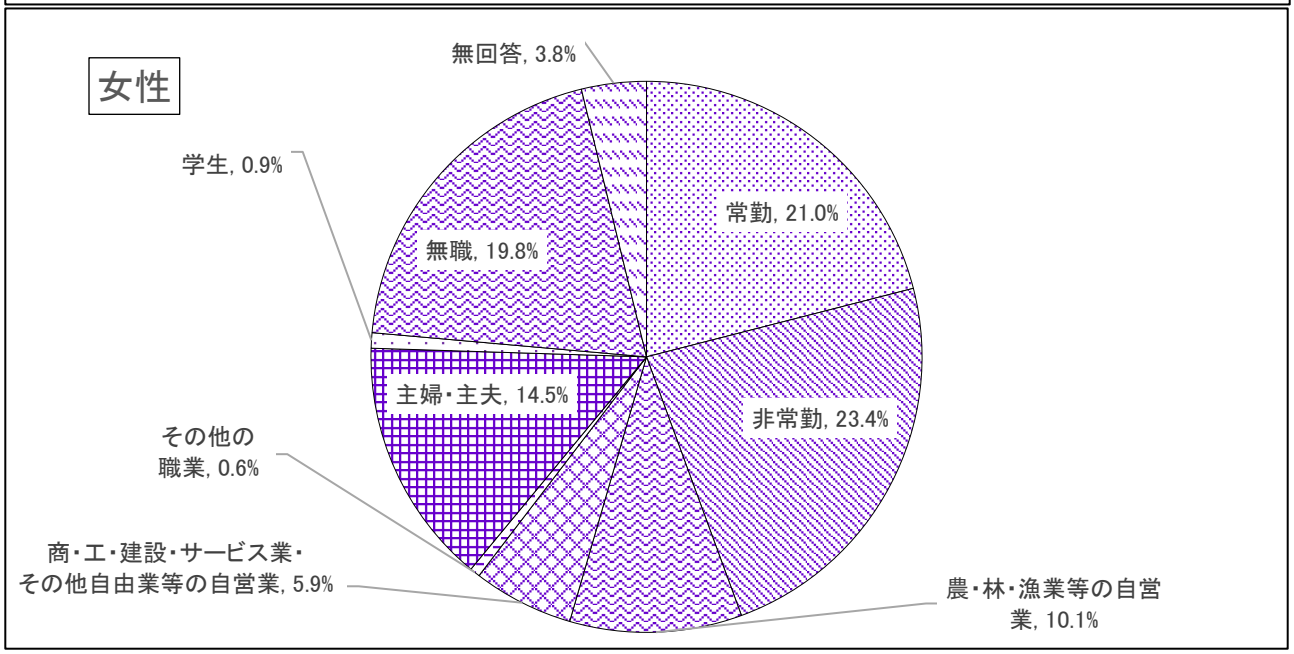
	合計		女		男		無回答（※回答しない含む）	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20～29歳	26	4.2%	18	5.3%	8	3.2%	0	－
30～39歳	43	7.0%	23	6.8%	17	6.7%	(3)	12.5%
40～49歳	68	11.1%	44	13.0%	20	7.9%	1(3)	16.7%
50～59歳	77	12.5%	42	12.4%	35	13.8%	0	－
60～69歳	152	24.7%	83	24.9%	66	26.9%	0	－
70歳以上	233	37.9%	127	37.6%	105	41.5%	(1)	4.2%
無回答	16	2.6%	0	－	0	－	15(1)	66.7%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	24	100.0%

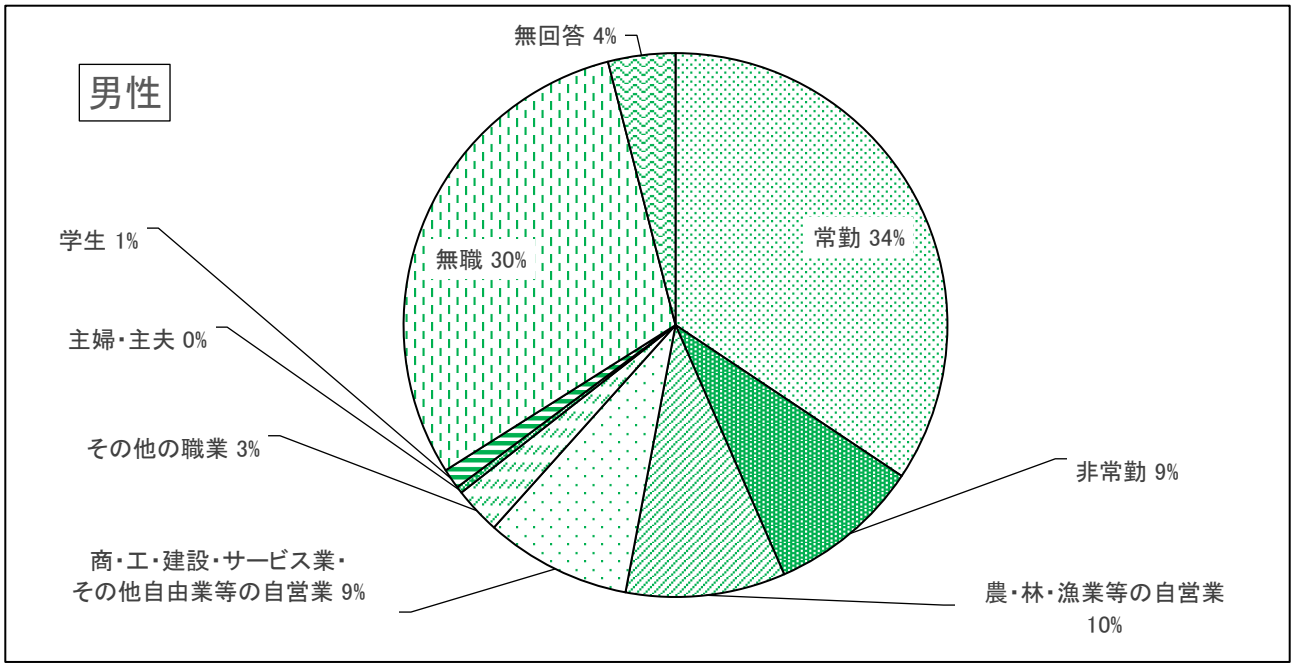


●３　あなたの仕事を教えてください。【問10】

	合計		女性		男性		無回答（※回答しない含む）	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
常勤	166	27.0%	71	21.0%	87	34.4%	8(5)	33.3%
非常勤	106	17.2%	79	23.4%	23	9.1%	4(1)	16.7%
農・林・漁業等の自営業	61	9.9%	34	10.1%	24	9.5%	3	12.5%
商・工・建設・サービス業・その他自由業等の自営業	42	6.8%	20	5.9%	22	8.7%	－	－
その他の職業	9	1.5%	2	0.6%	7	2.8%	－	－
主婦・主夫	50	8.1%	49	14.5%	1	0.4%	－	－
学生	6	1.0%	3	0.9%	3	1.2%	－	－
無職	150	24.4%	67	19.8%	76	30.0%	7(1)	29.2%
無回答	25	4.1%	13	3.8%	10	4.0%	2(1)	8.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	24(8)	100.0%

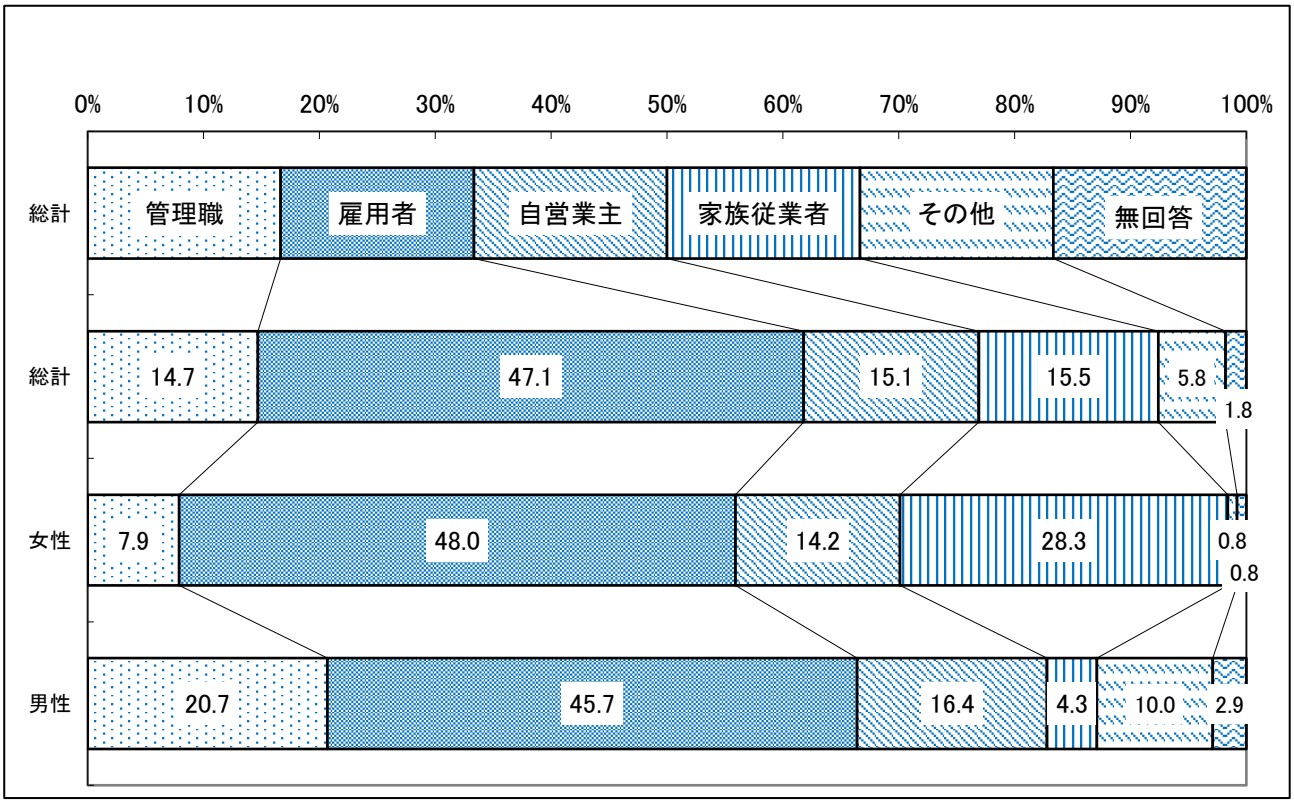

総計
無回答, 4.1%
常勤, 27.0%
無職, 24.4%
学生, 1.0%
非常勤, 17.2%
主婦・主夫, 8.1%
その他の職業, 1.5%
商・工・建設・サービス業・
その他自由業等の自営業, 6.8%
農・林・漁業等の自
営業, 9.9%


女性
無回答, 3.8%
学生, 0.9%
常勤, 21.0%
無職, 19.8%
主婦・主夫, 14.5%
非常勤, 23.4%
その他の
職業, 0.6%
商・工・建設・サービス業・
その他自由業等の自営業, 5.9%
農・林・漁業等の自営
業, 10.1%


男性
無回答 4%
常勤 34%
無職 30%
学生 1%
主婦・主夫 0%
その他の職業 3%
非常勤 9%
商・工・建設・サービス業・
その他自由業等の自営業 9%
農・林・漁業等の自営業
10%

●４　あなたの職業上の区分を教えてください。【問11】

	合計		女性		男性		無回答 （※回答しない含む）	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
管理職	41	14.7%	10	7.9%	29	20.7%	2(1)	18.2%
雇用者	131	47.1%	61	48.0%	64	45.7%	6(4)	54.5%
自営業主	42	15.1%	18	14.2%	23	16.4%	1	9.1%
家族従業者	43	15.5%	36	28.3%	6	4.3%	1	9.1%
その他	16	5.8%	1	0.8%	14	10.0%	1	9.1%
無回答	5	1.8%	1	0.8%	4	2.9%	0	0.0%
合計	278	100.0%	127	100.0%	140	100.0%	11(5)	100.0%



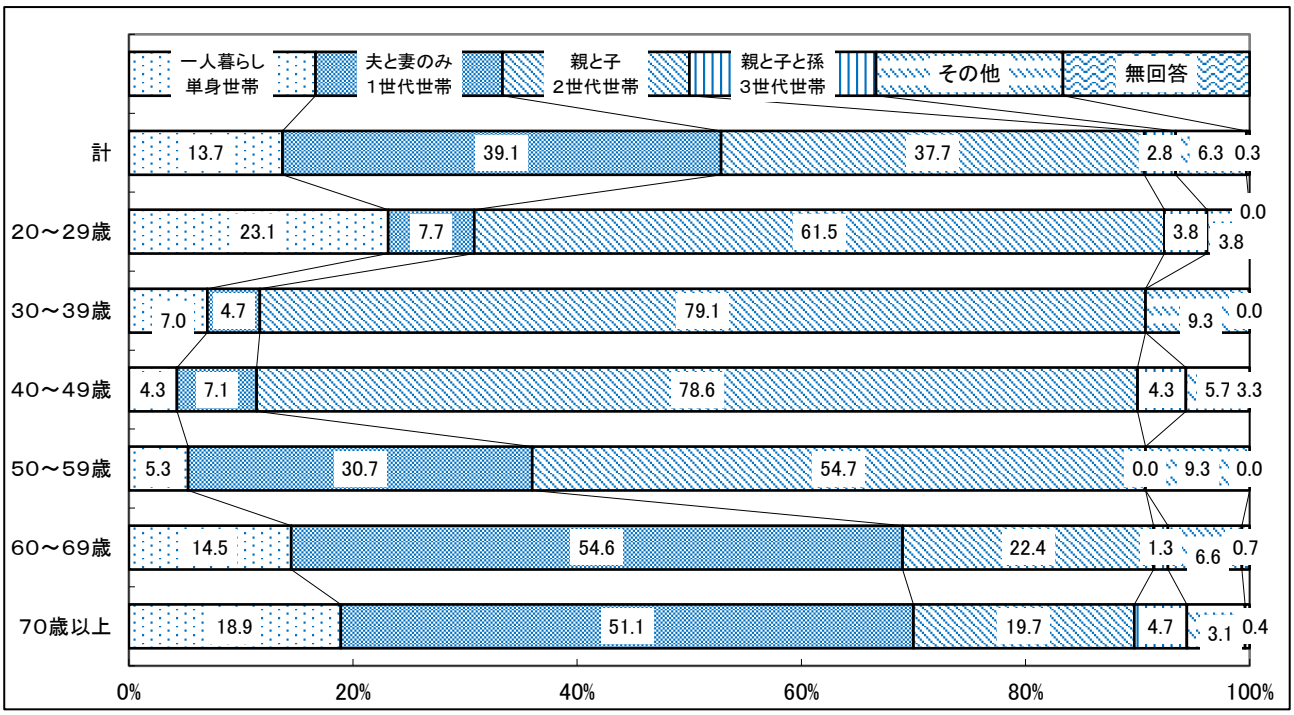
●5　あなたの世帯の構成は次のどれにあてはまりますか。【問36】

	合計		女性		男性		無回答（※回答しない含む）	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
一人暮らし世帯	82	12.3%	46	13.6%	36	10.1%	0	－
夫と妻のみの世帯	234	41.2%	123	36.2%	110	44.5%	1(1)	4.2%
親と子などの世帯	226	33.3%	138	40.9%	81	34.4%	7(6)	29.2%
親と子と孫などの世帯	17	4.2%	9	2.7%	8	4.9%	0	－
その他	38	5.0%	20	5.9%	18	5.5%	0	－
無回答	18	4.0%	2	0.6%	0	－	16(1)	66.7%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	24	100.0%

＜年代別区分＞

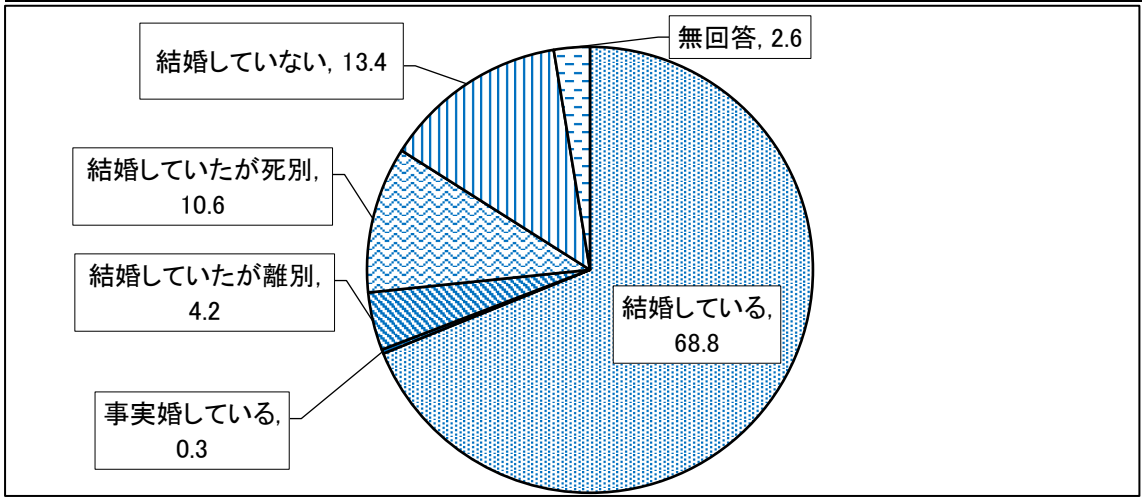
人数	合計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
一人暮らし世帯	82	6	3	3	4	22	44
夫と妻のみの世帯	234	2	2	5	23	83	119
親と子などの世帯	226	16	34	55	41	34	46
親と子と孫などの世帯	17	1	0	3	0	2	11
その他	38	1	4	4	7	10	12
無回答	2	0	0	0	0	1	1
合計	599	26	43	70	75	152	233

構成比	合計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
一人暮らし世帯	13.7%	23.1%	7.0%	4.3%	5.3%	14.5%	18.9%
夫と妻のみの世帯	39.1%	7.7%	4.7%	7.1%	30.7%	54.6%	51.1%
親と子などの世帯	37.7%	61.5%	79.1%	78.6%	54.7%	22.4%	19.7%
親と子と孫などの世帯	2.8%	3.8%	0.0%	4.3%	0.0%	1.3%	4.7%
その他	6.3%	3.8%	9.3%	5.7%	9.3%	6.6%	5.2%
無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



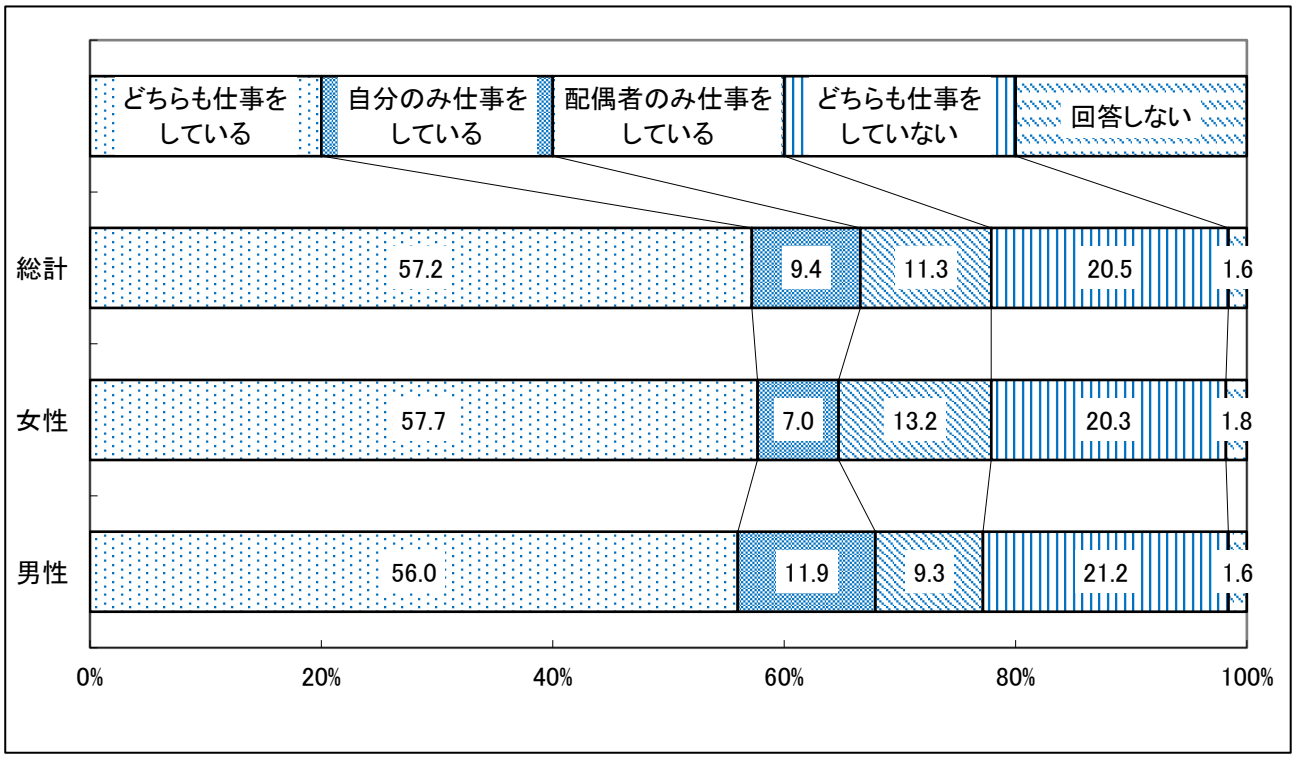
●6　あなたは現在結婚されていますか。【問37】

	合計	
	人数	構成比
結婚している	423	68.8%
事実婚している	2	0.3%
結婚していたが離別	27	4.4%
結婚していたが死別	65	10.6%
結婚していない	82	13.3%
無回答	16	2.6%
合計	615	100.0%



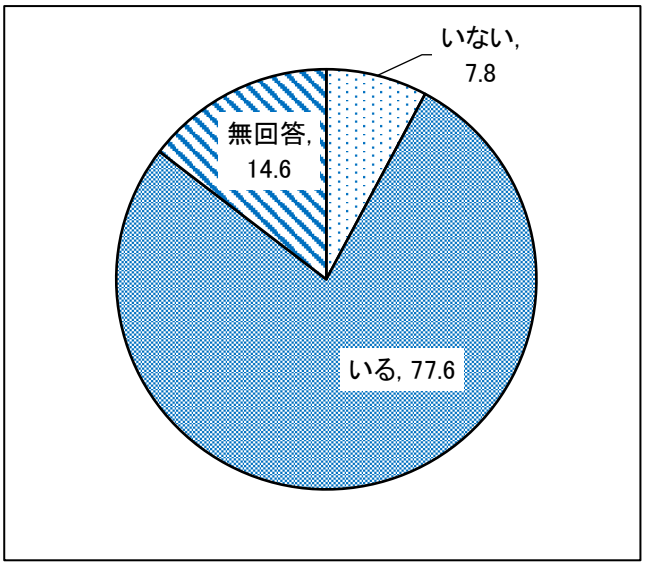
●7　ご夫妻のお仕事の状況について教えてください。【問38】

	合計		女性		男性		回答しない	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どちらも仕事をしている	243	57.2%	131	57.7%	108	56.0%	4	80.0%
自分のみ仕事をしている	40	9.4%	16	7.0%	23	11.9%	1	20.0%
配偶者のみ仕事をしている	48	11.3%	30	13.2%	18	9.3%	0	－
どちらも仕事をしていない	87	20.5%	46	20.3%	41	21.2%	0	－
無回答	7	1.6%	4	1.8%	3	1.6%	0	－
合計	425	100.0%	227	100.0%	193	100.0%	5	100.0%



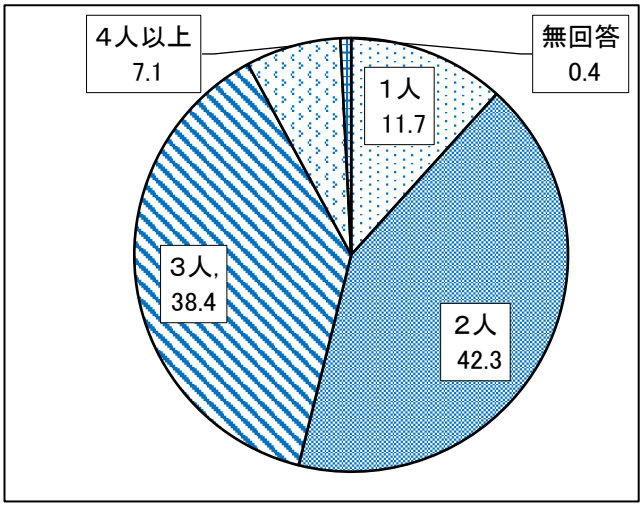
●８　あなたには子どもさんがいらっしゃいますか。【問39】

	合計	
	人数	構成比
いない	48	7.8%
いる	477	77.6%
無回答	90	14.6%
合計	615	100.0%



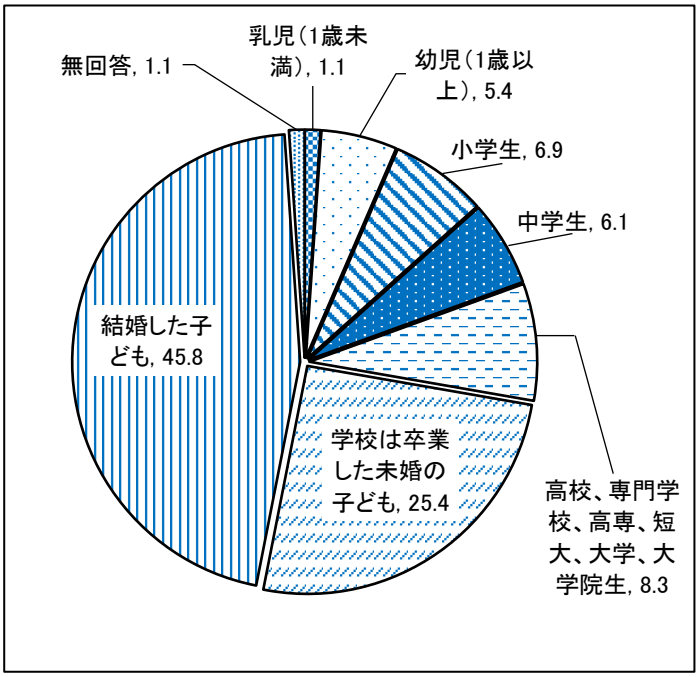
●９　あなたのお子さんは何人ですか。【問40】

	合計	
	人数	構成比
１人	56	11.7%
２人	202	42.3%
３人	183	38.4%
４人以上	34	7.1%
無回答	2	0.4%
合計	477	100.0%



●10　あなたのお子さんは次のどれにあてはまりますか。（複数回答項目）【問41】

	合計	
	人数	構成比
乳児（1歳未満）	7	1.1%
幼児（1歳以上）	35	5.4%
小学生	45	6.9%
中学生	40	6.1%
高校，大学生（高専，短大，専門学校も含む）	54	8.3%
学校は卒業した未婚の子ども	166	25.4%
結婚した子ども	299	45.8%
無回答	7	1.1%
合計	653	100.0%



Ⅲ．調査結果の概要

Ⅲ. 調査結果の概要

１．【男女共同参画社会への取り組み】

◎男女共同参画に関する用語の認知度

男女共同参画に関する用語については認知度について大きな差が生じている。

法律や制度の認知度は高くなっている一方，市独自の取り組みについての認知度が低いことから今後はより市の取り組みを中心とした啓発に努める必要がある。

また，市が開催している研修会や講演会には若い世代の参加が少ないことから，若い世代の参加促進への取り組みが必要である。

２．【家庭生活の充実】

①男性の家事・育児参画

「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」という考え方について，「どちらかというと反対」と「反対」を合わせた「否定派」と，「賛成」と「どちらかというと賛成」を合わせた「肯定派」との比較については本市の場合は否定派が肯定派を45ポイント上回っている。

男女共同参画の軸となる考えであるが，本市においては国・県の否定派をも上回っており，男性の家事育児などの参画の認識が高いといえる。

②家事等の役割分担

家事の役割分担については未だに妻が役割を担っているという世帯が多い。

前回調査では，前々回の調査より夫の参画が増え，家庭内でも徐々に男女共同参画が進展してきていたが，今回の調査では前回調査と比較して大きな変化は見られなかった。

また，家庭での男女共同参画を促進させるためには「育児介護を社会で支える制度の充実」や「家族で理解し，家事分担などを話し合うこと」が重要だとする考え方が，前回調査と同様で多かった。

このような中，家庭の中では71.9％の方が男女平等になっていると答えている。

③結婚についての考え

結婚に対する考えについては，「結婚は個人の自由であるから，結婚してもしなくてもどちらでもよい」については，「そう思う」が最も多く，「どちらかといえばそう思う」を合わせると，全体の約７割となっている。前回調査からしても肯定意見が約15％増えており，結婚は個人の自由であるという考え方が定着してきている。特に若い世代では肯定意見が高くなっており，今後は結婚に特にこだわらない世代の増加が予想される。

結婚して子どもを持つ必要性については，男女ともに「そう思う」が最も多いところであるが，女性が40.8％に対し男性は28.9％となっている。

前回調査と比較してみると，子どもを持つ必要性については肯定意見が約16％増え，前々回調査からは約28％も増えており，自分のライフスタイルにあった選択をする世代が今後も増えると予想される。

「離婚は個人の選択であるから，離婚しても問題はない」については，「そう思う」が最も多く，「どちらかといえばそう思う」を合わせると，全体の約７割となっている。前回の調査では，女性は「離婚肯定意見」が約４割だったのが今回は約７割と増加し，男性も約３割から約６割と大きく増加している。前回調査では，男性は「離婚肯定意見」と「離婚否定意見」がほぼ同じ30％程度だったが，今回は否定意見が14.2％となっており，大きな変化がみられた。

前回調査から離婚肯定意見が約40％も増えている要因として，前回の問い「結婚しても相手に満足できないときは，離婚すればよい」から「離婚は個人の選択であるから，離婚しても問題はない」という問いかけに変化があったこともあると推測される。

④子育て

子育てについては不安・悩みが「特にない」が19.8%と最も多いが，男性の割合が高くなっており，男女間で約10%の差が生じている。

この男女間の差から分かることとして，男性が不安や悩みを特に感じていない方が多いということは，子育てに参画していないという可能性もある。

不安や悩みを持つ方においては，「接し方に自信がない」「急な病気のときの対応」や「時間を十分にとれない」などが挙げられている。

また，育児に対する社会支援等には「基本は家族が行うものであるが，社会が支援する必要がある」と考えている人が多くなっているが，18～29歳の男女においては，「家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある」と考えている人が最も多く６割を超えている。

特に若い世代では共働きによる世帯が増えたこともあり，社会に対し，より積極的な支援を求めていることが分かる。

⑤介護

子育てにおいては，「基本は家族が行うものであるが，社会の支援が必要」が最も多く64.6%だったのに対し，超高齢化社会の現代，介護については，「家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある」が57.4%と最も多く，社会の支援を求める声が強くなっている。

前回調査と比較してみても，「基本は家族が行うものであるが，社会の支援が必要」と考えている方と「家族だけでは負担が大きいため社会の積極的支援が必要」を合わせた「支援を必要とする方」は増加している。特に若い世代では仕事と介護の両立が難しいことから，社会に対し，より積極的な支援を求めている。

３．【女性活躍】

①仕事について

前回調査と同様「収入になる仕事をする方」が「収入になる仕事をしていない方」より多くなっている。

女性の「収入になる仕事をする方」が前回調査より6.7%増えている。今後も，少子高齢化により働く世代が減少すると予想されることから，女性の社会進出が女性活躍につながる施策を推進していく必要がある。

職場の中で男女平等になっていると答えている方が，前回調査の57.1%から66.6%と約10%増えており，職場の環境等については，前回調査から継続して改善がみられる。

「収入になる仕事をしたいと思うか」については，前回調査同様「仕事をしたいとは思わない」方が多く，仕事をしたい若い世代よりも高齢により離職した世代が多いことがあげられる。

②固定的な性別役割分担意識

様々な固定的な性別役割分担について，「育児休業は，男性より女性がとった方がよい」，「妻や子どもを養うのは，男性の責任である」，「職場で来客にお茶を出すのは女性がしたほうがよい」など，「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合が前回調査では５割を超えていたが，今回調査では３割程度となり，意識の変化がみられる。

固定的な性別役割分担意識は，年代が高いにつれて高い傾向があるため高齢者を中心とした啓発が必要であるが，本市が行う男女共同参画の研修や講演への参加については，50歳以上の男女においては参加があるものの意識の解消につながっていない。

従って，50歳以上の男女においては内容の充実化を，若い世代においては講演・研修への積極的な参加の呼びかけを行い，女性が活躍できる社会の土壌作りを行う必要がある。

③ワークライフバランス

仕事とその他の生活との調和（ワーク・ライフ・バランス）については，半数程度が満足感を持っているが，一方で５人に１人が不満感を持っている。

前回調査と同様，満足傾向が多く，不満傾向が少なくなっており，時代とともに良い方向に進んでいる。

仕事と趣味等に費やす時間の使い方が変化し，自分が納得するライフスタイルを過ごす方が徐々に増えつつあることで，その相乗効果により男性の家事・育児への参加の充実が期待できる。

男性の家事・育児の参加があれば，女性の仕事や地域活動への参画意欲が促進される，負担が減るなど，活躍する環境整備が図られる。

４．【地域活動への参画】

◎地域活動

地域活動については，男性が女性よりも役立ちたいと考えている。

現在のところ男性の40%，女性の23%が自治会活動に参加をしているが，「湯茶・食事の準備・後片付けは女性の役割」，「団体の長・代表には男性がなるほうがいい」という雰囲気や慣習が残っていることから女性の地域活動に関する意識が上がりにくいのが現状となっている。

地域社会の中では63.6%の方が男女平等になっていると答えているものの，今まで行われてきたこれらの雰囲気や慣習が解消されることで，女性が地域活動の意思決定の場に参加できることとなり，さらなる女性の活躍が期待できる。

５．【教育現場での啓発】

◎教育現場での男女平等意識

教育現場における男女平等意識の推進の妨げになることについては，53.5%が「『男らしく』『女らしく』ふるまうように言うこと」を，46.7%が「生徒会や学級委員等の選出を性別により固定化していること」を，43.5%が「性別により進路指導をすること」を挙げている。

男女共同参画は幼少時代からの啓発が効果的であるため学校等を中心としたさらなる啓発が必要である。

６．【セクハラ・ＤＶ】

① セクシュアル・ハラスメントの経験

セクシュアル・ハラスメントの被害経験については，「経験がある」と回答した割合は，全ての項目で男性よりも女性のほうに多くなっている。

セクシュアル・ハラスメントについては，加害者本人に自覚がない場合が多いため，さらなる意識啓発の必要性がある。また，被害が潜在化しがちな傾向がうかがえることから，相談窓口の強化も必須である。

② 配偶者等からの暴力

配偶者等からの暴力については全項目で「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が多い中，実際に配偶者等から暴力を受けた方は，身体的暴力が12.7%，精神的暴力が11.7%，性的暴力が7.5%となっている。

さらに，被害者は暴力を受けたものの「自分さえがまんすればよいと思った」，「相談してもむだだと思った」，「相談するほどのことではない」などを理由に，４割の方が暴力を受けたことを誰にも相談していない。

配偶者等からの暴力については，身体を著しく傷つけることだけが暴力だと思っている方，言葉や態度なども暴力だと認識していない方もまだまだ多くいるため，正しい知識の周知が必要であるとともに，被害が潜在化しがちな傾向がうかがえることから，相談窓口の強化も必須である。

7．【多様性】

① 性の悩み（LGBTなど）

今までに自分の身体の性，心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがあるかについては，約９割の方が悩んだことがないとの回答である。

しかしながら7.0%の方については悩んだことがあることから，それらの方の悩みが解消されるような取り組みを検討する必要がある。

また，LGBTの方に対して偏見や差別などにより，生活しづらい社会だと思うかについては，そう思う傾向が57.4%にのぼっており，それらの解消のためには「働きやすい職場環境づくりの取り組み」や，「生徒や市民への対応を想定し，学校教員や行政職員への研修を行う」などが挙げられている。

② 多文化共生

外国の方との接する機会については約６割が「接する機会がない」と回答する中，約２割については近所で見かけたり，挨拶をしたりしている。

外国の方に親しみを感じている方が30%，南九州市に外国人観光客が増えることを好ましいとする方も64%に上っている中ではあるが，日本に住む外国人は日本の習慣，ルールを守って生活するべきだとの意見が74%に上っている。

「南九州市役所は多文化共生の地域づくりを積極的に取り組むべきだ」との意見も，前回調査の48%から56.8%と増えており，今後の多文化共生という時代を市としてどう迎えるか，対策を検討していく必要がある。

Ⅳ. 調査結果の分析

Ⅳ. 調査結果の分析

【問１】あなたは，《男性は仕事，女性は家庭を守るべき》という考え方についてどのように思いますか。

「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」という考え方について，「どちらかというと反対」が37.6％と最も高く，次いで「反対」が32.0％となっている。

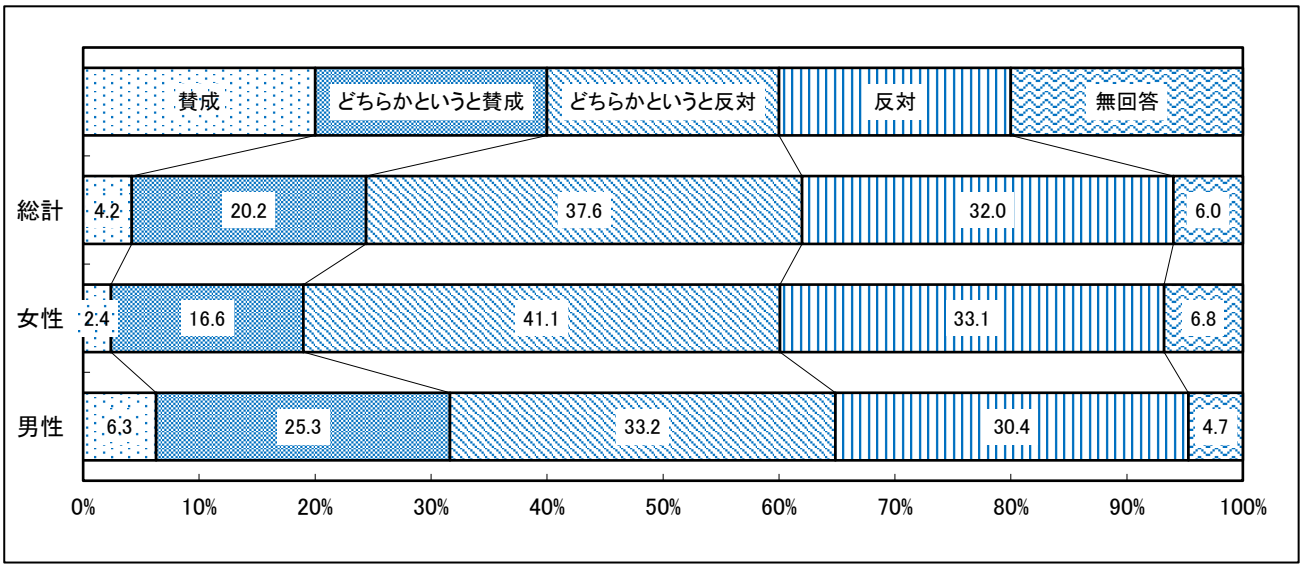
男女別に見ると，女性のほうが反対意見の占める割合が高くなっている。

年代別に見ると，「賛成」が最も多かったのは70歳以上男性で9.5％，「どちらかというと賛成」が最も多かったのは60歳代男性で29.4％，「どちらかというと反対」が最も多かったのは50歳代女性と18～29歳男性で50.0％，「反対」が最も多かったのは40歳代男性で70.0％となっている。

「どちらかというと反対」と「反対」を合わせた「否定派」と，「賛成」と「どちらかというと賛成」を合わせた「肯定派」との比較については本市の場合は否定派が肯定派を45.2ポイント上回っている。

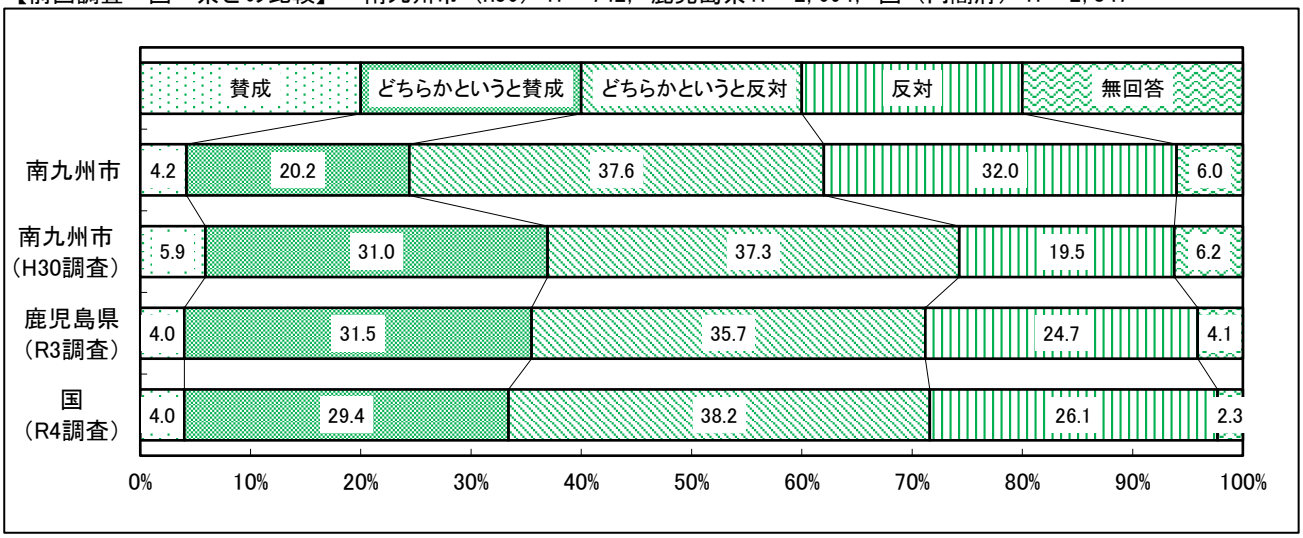
これは国・県の否定派をも上回っている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



「肯定派」＝24.4％　「否定派」＝69.6％

【前回調査・国・県との比較】　南九州市（H30）ｎ＝742，鹿児島県ｎ＝2,094，国（内閣府）ｎ＝2,847



南九州市（H30）:「肯定派」＝36.9％　「否定派」＝56.8％

鹿児島県（R3）:「肯定派」＝35.5％　「否定派」＝60.4％

国（R4）　:「肯定派」＝33.4％　「否定派」＝64.3％

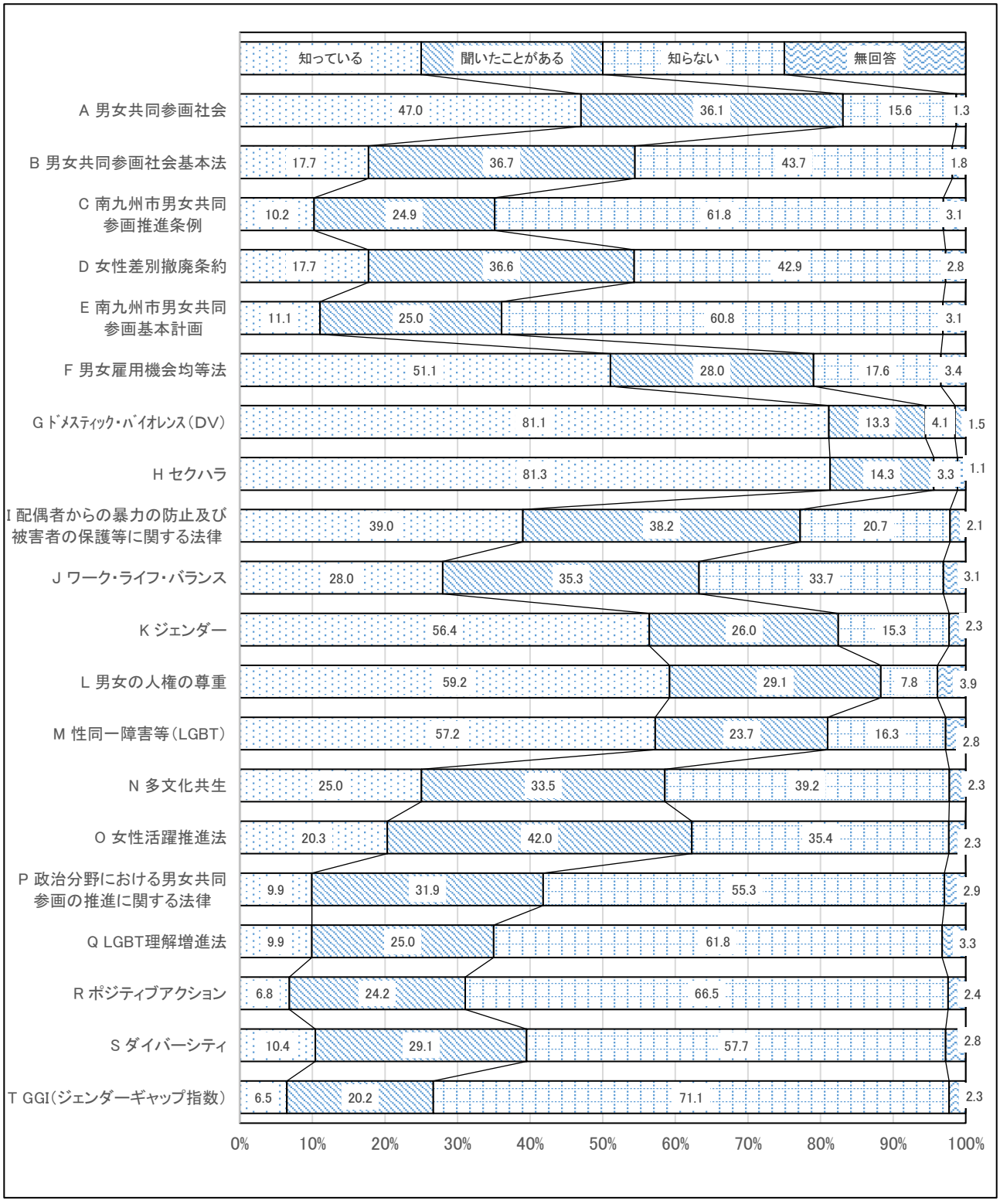
【問２】あなたは，次の用語を知っていますか。

男女共同参画社会に関する法律や用語の認知度について，知っていたり聞いたことがある用語等としては「セクシュアル・ハラスメント」が最も高く95.6%，次いで「ドメスティック・バイオレンス」が94.4%，「男女の人権の尊重」が88.3%となっている。

一方「知らない」の割合が最も高いのは，「ＧＧＩ（ジェンダーギャップ指数）」で71.1%，次いで「ポジティブアクション」で66.5%となっている。

「ポジティブアクション」については，県の調査においても66.7%が「知らない」と回答している。

【今回調査）】　ｎ＝615



【問３】あなたは，ご自分の暮らしを振り返ったときに，仕事（家事などの家庭内労働を含む）とご自身の趣味などの個人生活のバランス（使っている時間など）について満足していますか。

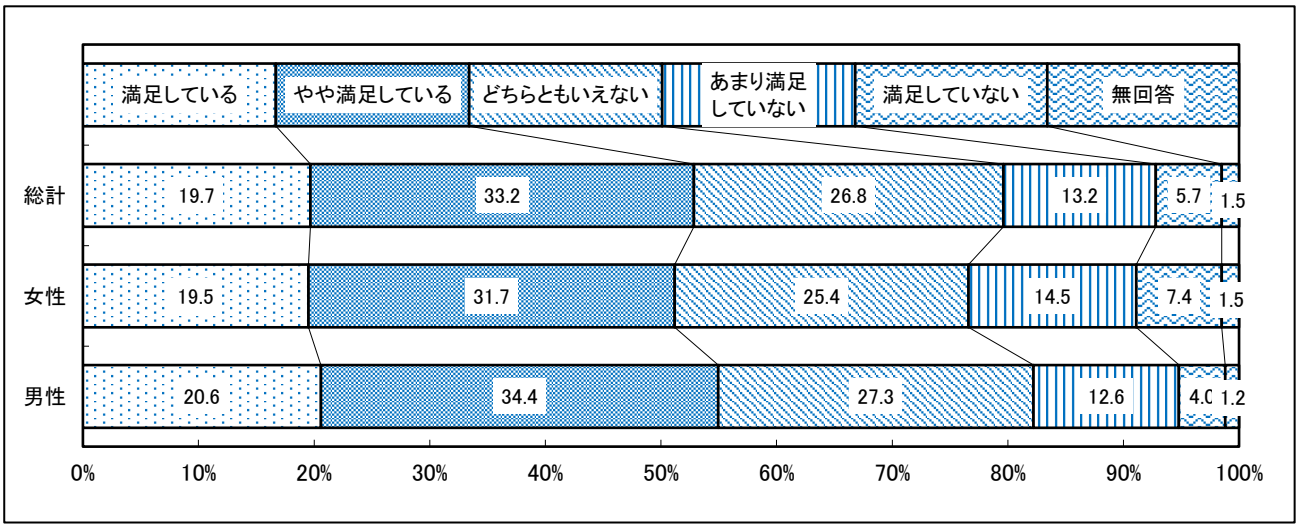
仕事（家事労働）・家庭生活・趣味・社会活動・余暇などのバランス（使っている時間など）については，「やや満足している」が33.2％と最も多く，「どちらともいえない」が26.8％，「満足している」が19.7％，「あまり満足していない」が13.2％，「満足していない」が5.7％となっている。

「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」とする意見は52.9％，「あまり満足していない」と「満足していない」をあわせた「不満傾向」とする意見は18.9％である。

男女別に見ても，男女ともに「やや満足している」（女性31.7％，男性34.4％）が最も多く，「満足傾向」が「不満傾向」を上回っている。

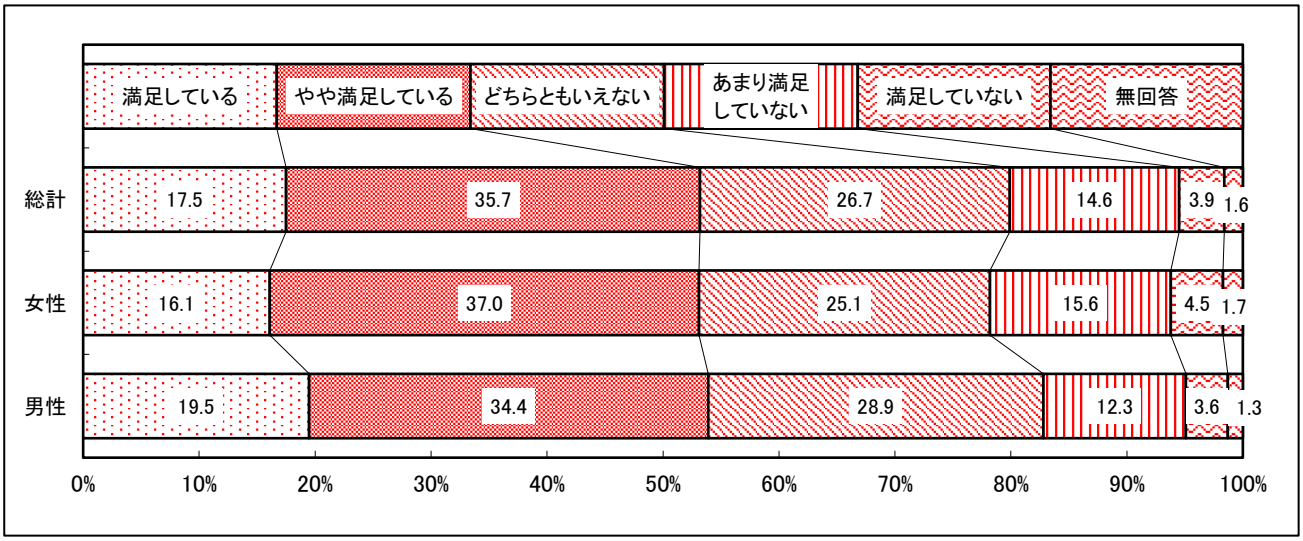
前回調査と比較してみると，「満足傾向」が0.3ポイント減少，「どちらともいえない」が0.1ポイント上昇し，「不満傾向」が0.4ポイント上昇している。自分が納得するライフスタイルを過ごす方が前回の調査と同様，約５割いるということが見受けられる。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



「満足傾向」＝52.9％　「どちらともいえない」＝26.8％　「不満傾向」＝18.9％

【平成30年度調査】　ｎ＝742



「満足傾向」＝53.2％　「どちらともいえない」＝26.7％　「不満傾向」＝18.5％

【問４】あなたは，結婚，家庭，離婚についてどう思われますか。

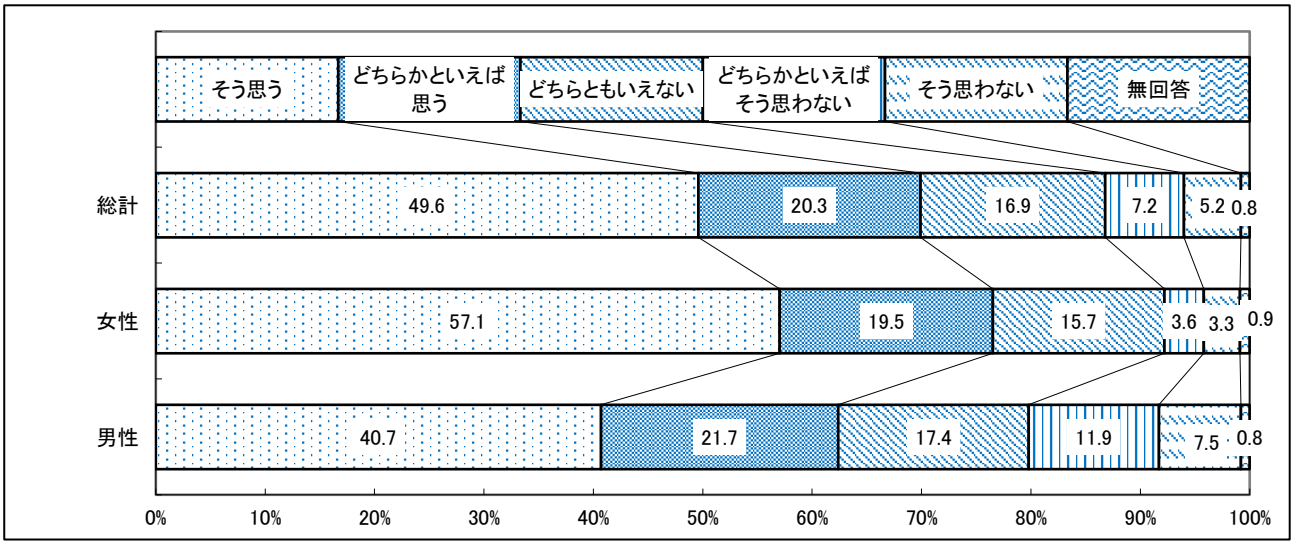
A 結婚は個人の自由であるから，結婚してもしなくてもどちらでもよい

「結婚は個人の自由であるから，結婚してもしなくてもどちらでもよい」について，「そう思う」が49.6％と最も多く，女性が57.1％，男性40.7％となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて「肯定意見」が全体の69.9％となっている。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせ「否定意見」が12.4％と全体の８分の１程度を占めている。

男女別でみると「肯定意見」については女性が76.6％，男性が62.4％となっておりその差が14.2ポイントとなっている。

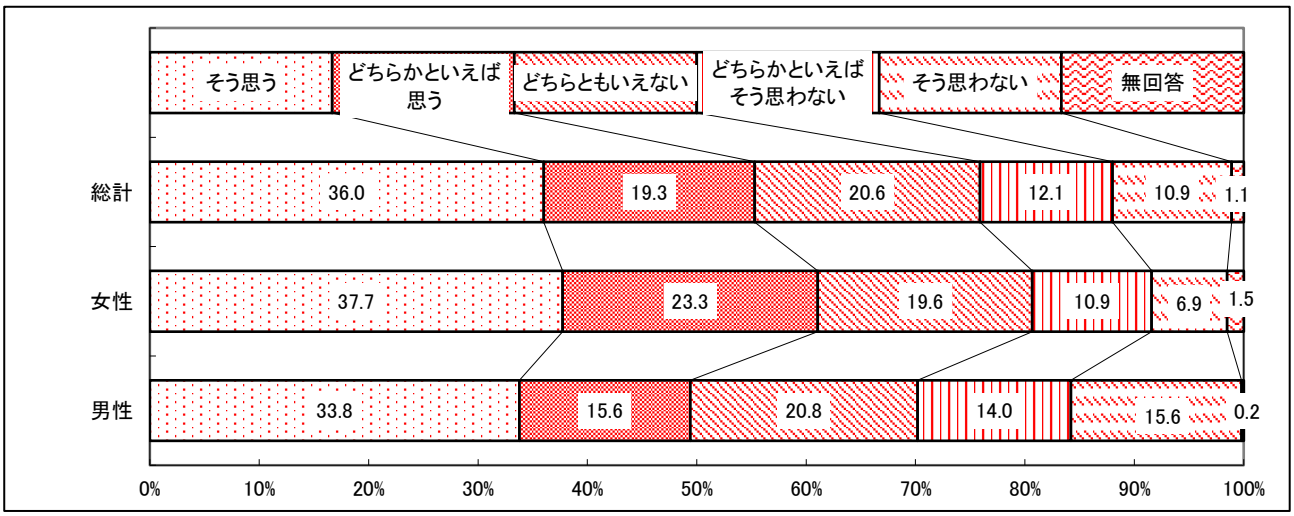
前回調査と比較してみると「肯定意見」が14.6ポイント上昇し，「どちらともいえない」が3.7ポイント，「否定意見」が10.6ポイント減少していることから，男女ともに結婚観に関する考え方に大きな変化があったことが見受けられる。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



「肯定意見」＝69.9％　「どちらともいえない」＝16.9％　「否定意見」＝12.4％

【平成30年度調査】ｎ＝742



「肯定意見」＝55.3％　「どちらともいえない」＝20.6％　「否定意見」＝23.0％

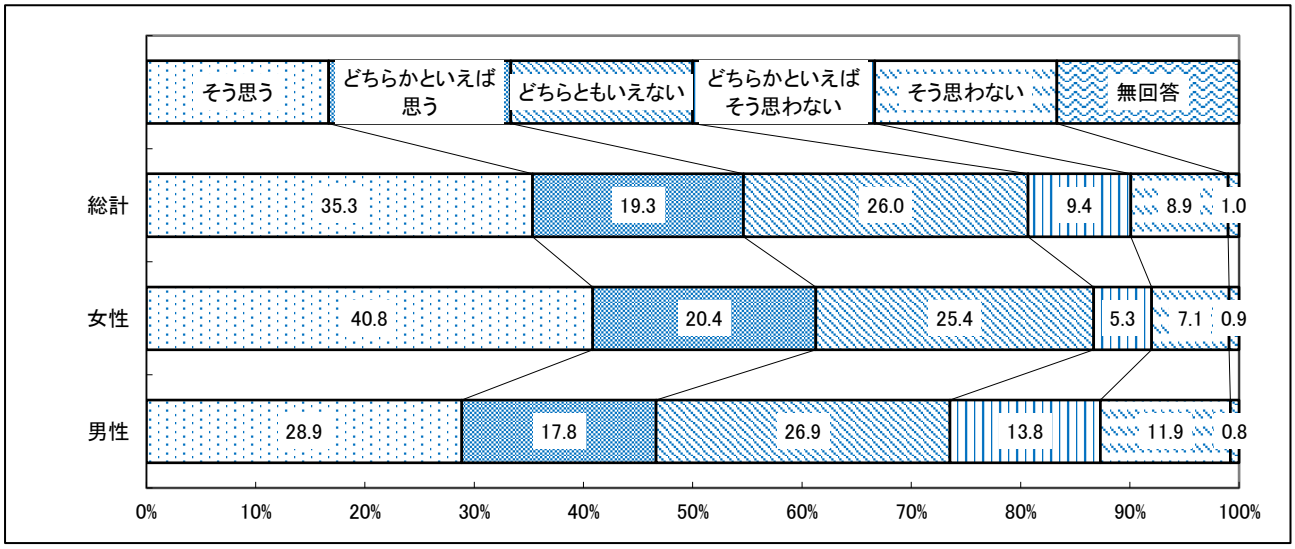
B 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」について，「そう思う」が35.3％と最も高く，「どちらともいえない」26.0％，「どちらかといえば思う」19.3％の順となっている。

男女別に見ると，男女ともに「そう思う」が高いが，「肯定意見」については，女性が男性より14.5％高い。逆に「否定意見」については，男性が女性より13.3％高くなっており，男性は結婚したら子どもを持つ必要性を感じている方が多いということが見受けられる。

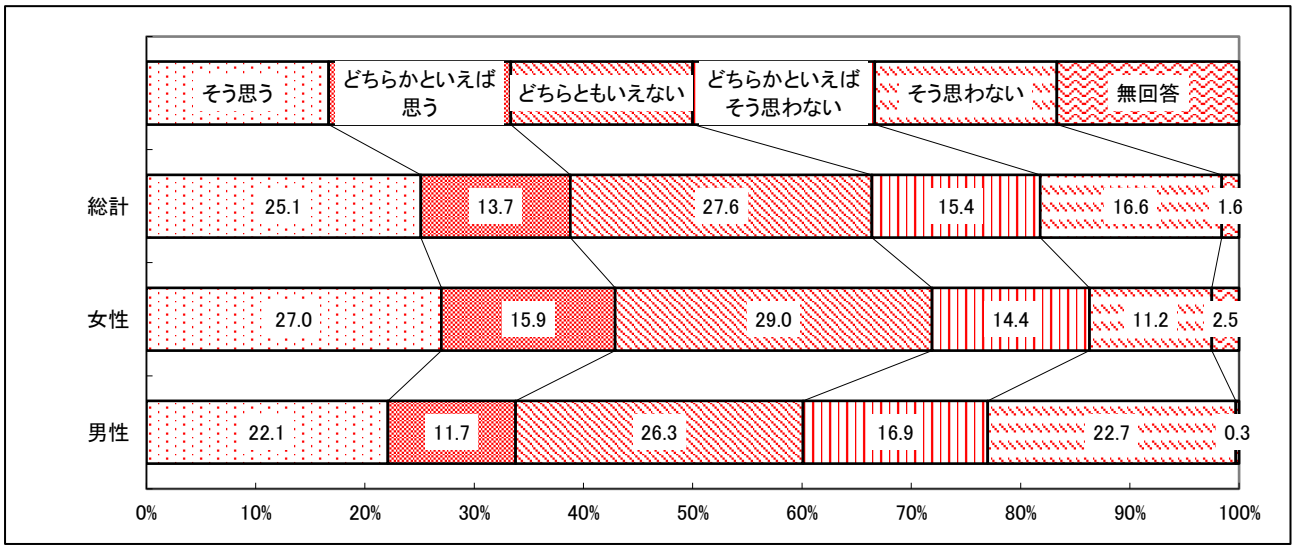
ただし，前回調査と比較してみると男女ともに意識が大きく変化しており，「肯定意見」については15.8ポイント上昇，「否定意見」が13.7ポイント減少しており，子どもを持つことについて，自由な選択を認める人の割合は増加傾向にある。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



「肯定意見」＝54.6％　「どちらともいえない」＝26.0％　「否定意見」＝18.3％

【平成30年度調査】　ｎ＝742



「肯定意見」＝38.8％　「どちらともいえない」＝27.6％　「否定意見」＝32.0％

C 離婚は個人の選択であるから，離婚しても問題ない

「離婚は個人の選択であるから，離婚しても問題ない」について，「そう思う」が46.8％と最も高く，「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」が同じ20.8％で並んでいる。

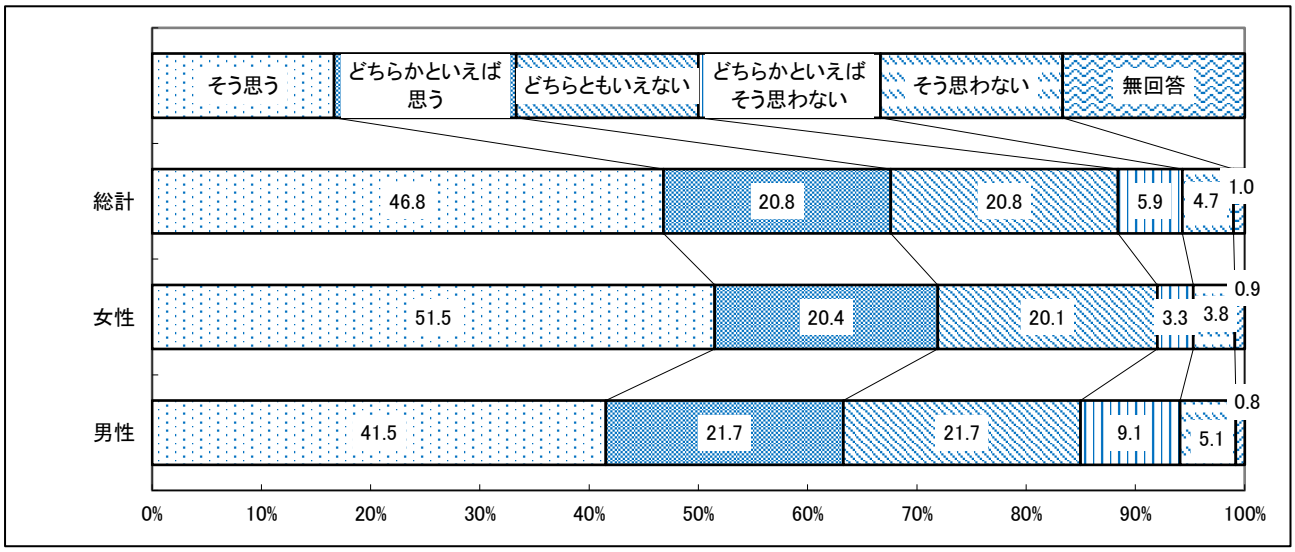
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の「離婚肯定意見（67.6％）」が「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の「離婚否定意見（10.6％）」を上回っている。

男女別に見ると，「離婚肯定意見」については女性が男性を8.7ポイント上回っており，「離婚否定意見」については男性の方が7.1ポイント多い。

前回調査と比較してみると「離婚否定意見」が15.8ポイント減少し，「離婚肯定意見」が31.1ポイント上昇，「どちらともいえない」が14.6ポイント減少しており，離婚に関する意識が大きく変わってきている。

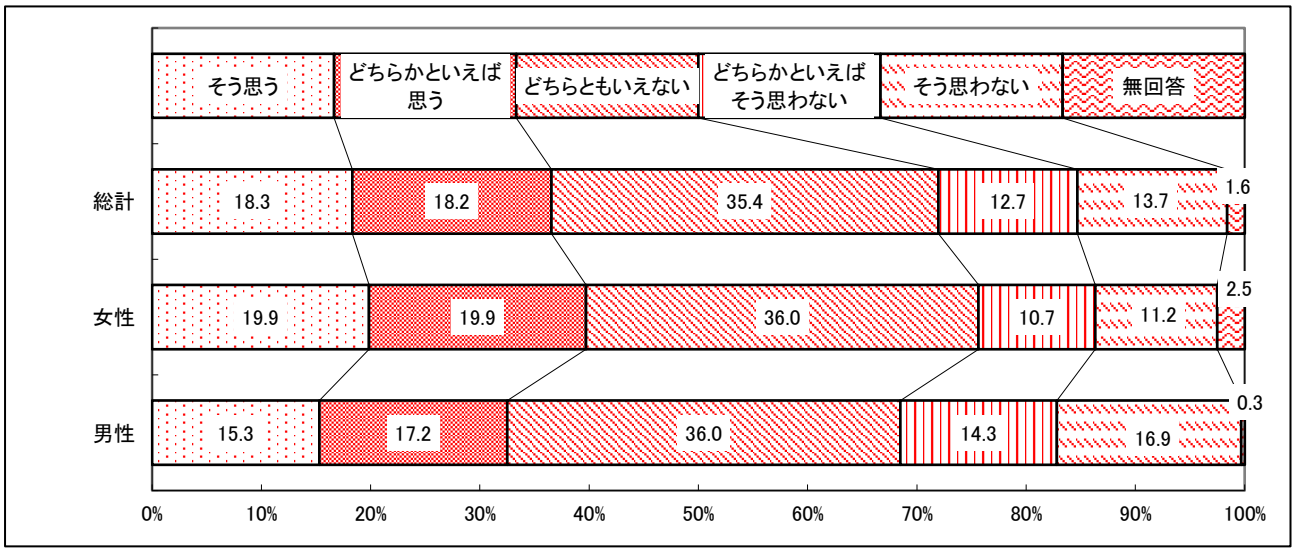
（※ただし，前回調査　問「結婚しても相手に満足できないときは，離婚すればよい」との比較）

【令和６年度調査】　ｎ＝615



「離婚肯定意見」＝67.6％　「どちらともいえない」＝20.8％　「離婚否定意見」＝10.6％

【平成30年度調査】　ｎ＝742



「離婚肯定意見」＝36.5％　「どちらともいえない」＝35.4％　「離婚否定意見」＝26.4％

【問５】子育てをする上での不安や悩みはどこにあると思われますか。

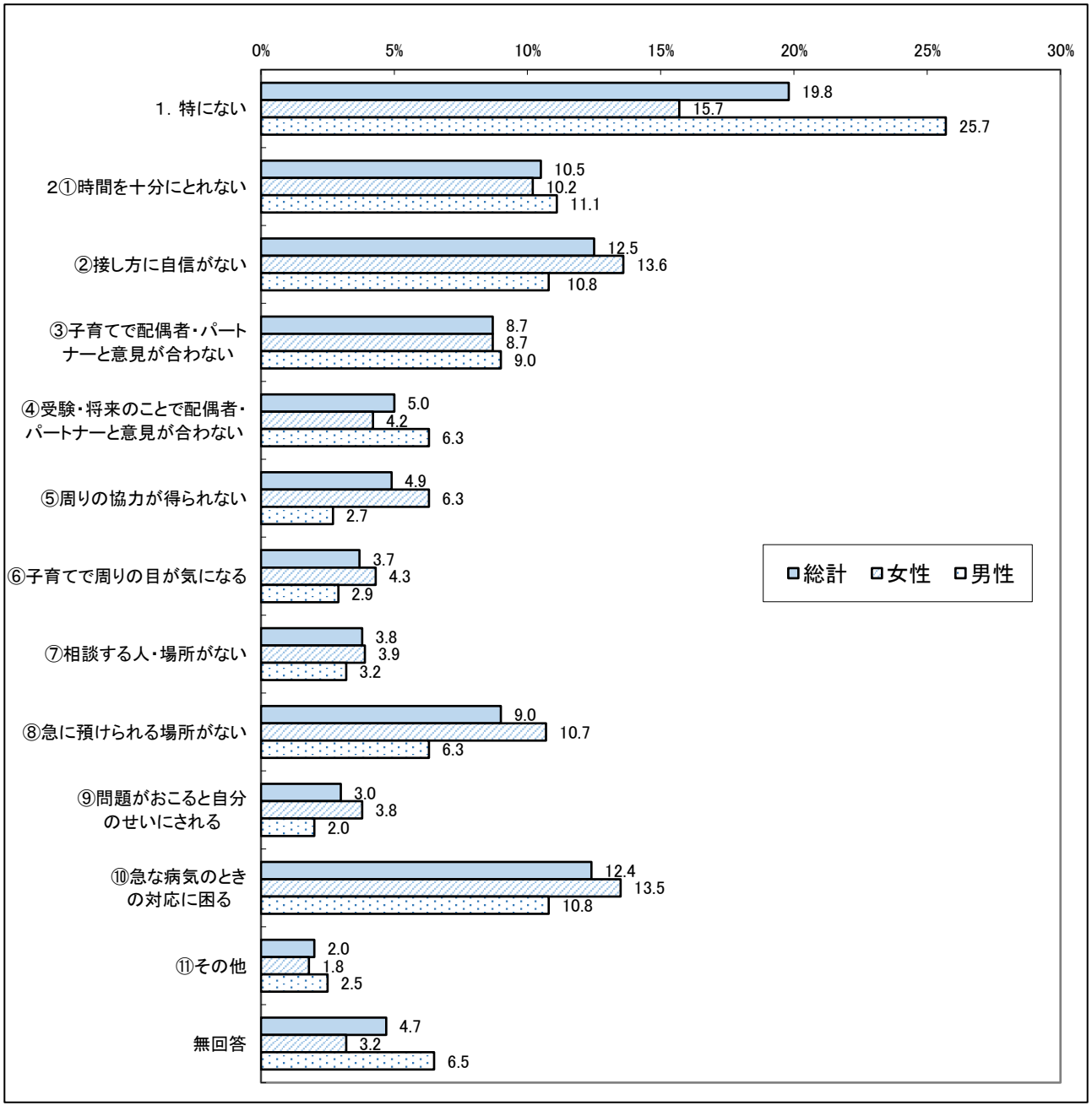
子育てをする上での不安・悩みについては「特にない」が19.8%と最も多い。

次いで,「接し方に自信がない」が12.5%,「急な病気のときの対応に困る」が12.4%,「時間を十分にとれない」が10.5%と続いている。

男女別に見ると,「特にない」が,男女間の開きが大きくなっている。男性が女性より10.0ポイント多くなっており,男性においては,全ての年齢層で20%を超えている。

また,「特にない」と感じている方の中でも,女性の40歳代～60歳代では15%を切っており,他の年齢層よりも不安や悩みを抱えている（いた）ことが分かる。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



【問6】育児に対する社会の支援などについて，あなたのご意見をお伺いします。

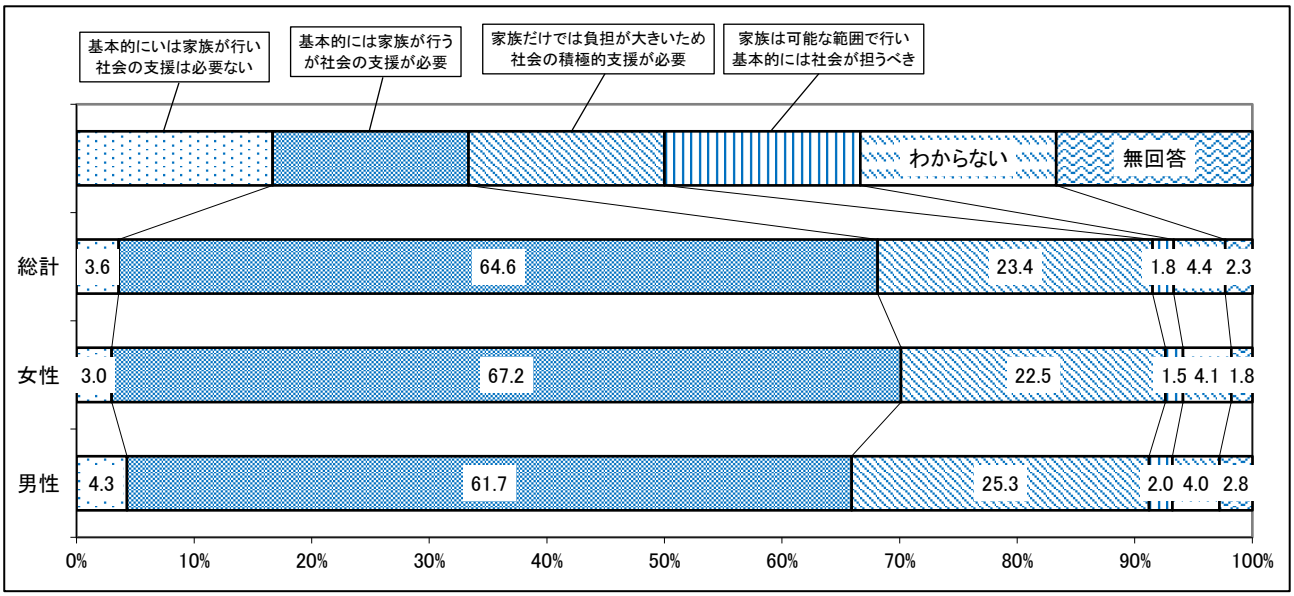
育児の社会支援に対する考え方については，「基本的には家族が行うものだが，社会が支援する必要がある。」が64.6％と最も多く，次いで「家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある。」が23.4％となっている。「家族は可能な範囲で行い，基本的には社会が担うべきである。」が1.8％と最も少ない。

男女別に見ると，ほぼ同じ傾向にある。

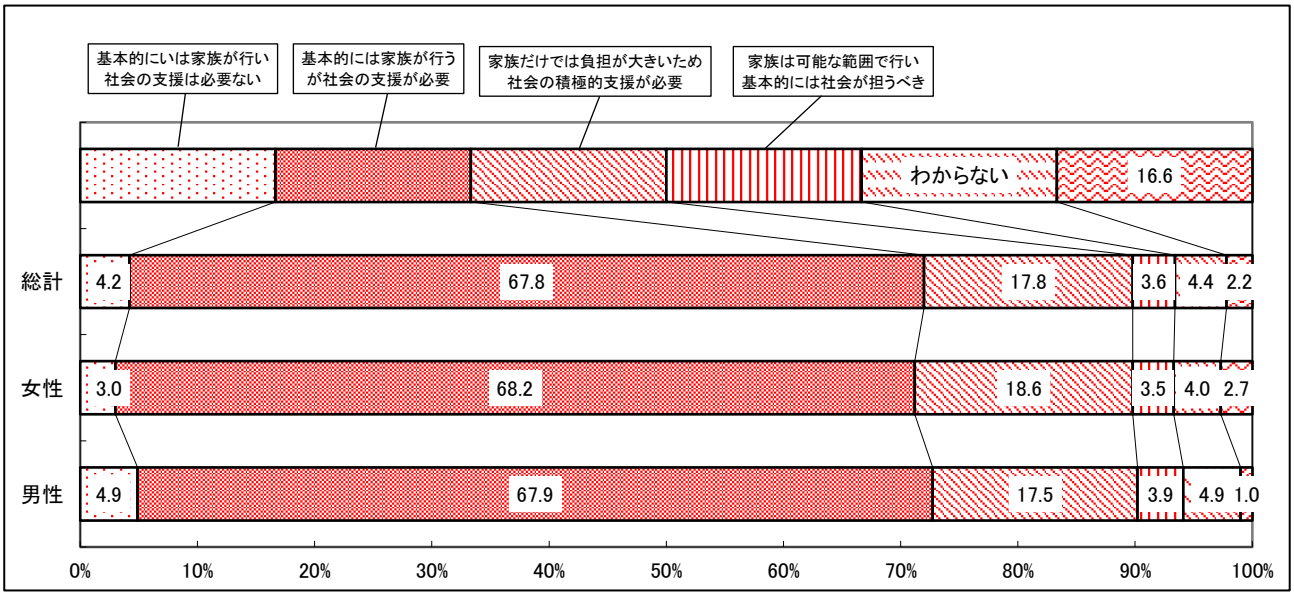
年代別に見ると，「基本的には家族が行うものだが，社会が支援する必要がある。」，「家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある。」，「家族は可能な範囲で行い，基本的には社会が担うべきである。」など，何らかの形で社会からの支援が必要であると考えている方は，70歳以上女性，60歳代男性及び70歳以上男性を除く全ての年代で９割以上となっている。

また，18～29歳の女性と男性においては「家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある。」の割合が60％を超えている。

【令和６年度調査】ｎ＝615



【平成30年度調査】ｎ＝742



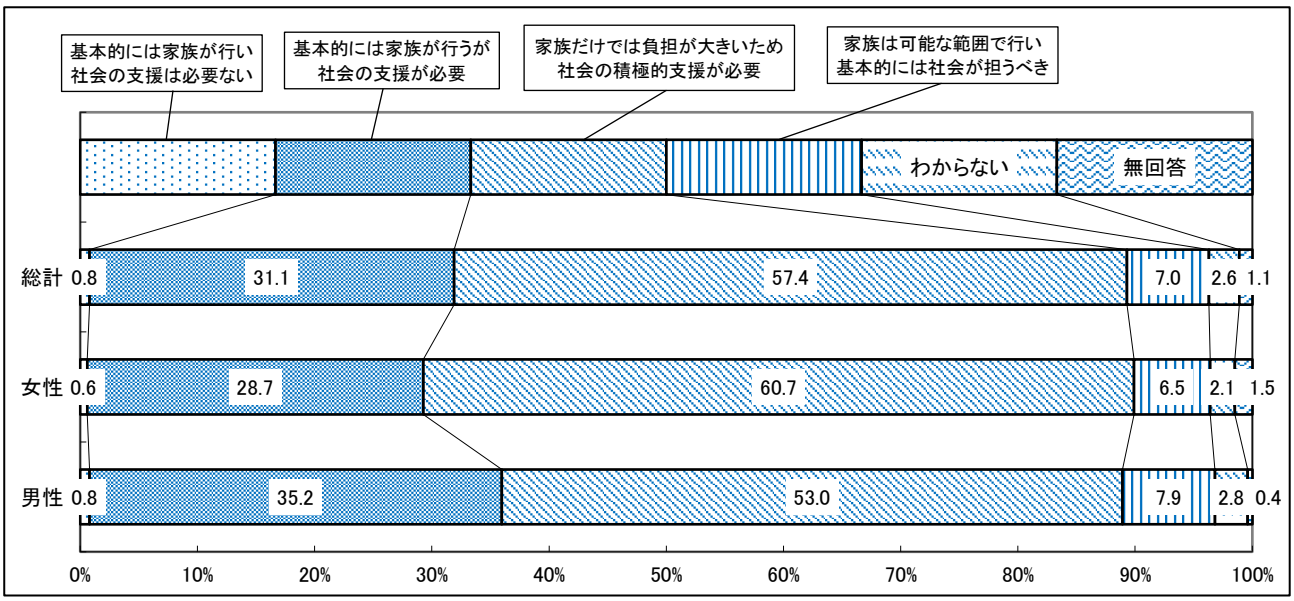
【問７】介護に対する社会の支援などについて，あなたのご意見をお伺いします。

介護の社会支援に対する考え方については,「家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある」が57.4%で最も多く,「基本的には家族が行うものだが，社会が支援する必要がある」が31.1%,「家族は可能な範囲で行い，基本的には社会が担うべきである」が7.0%となっている。

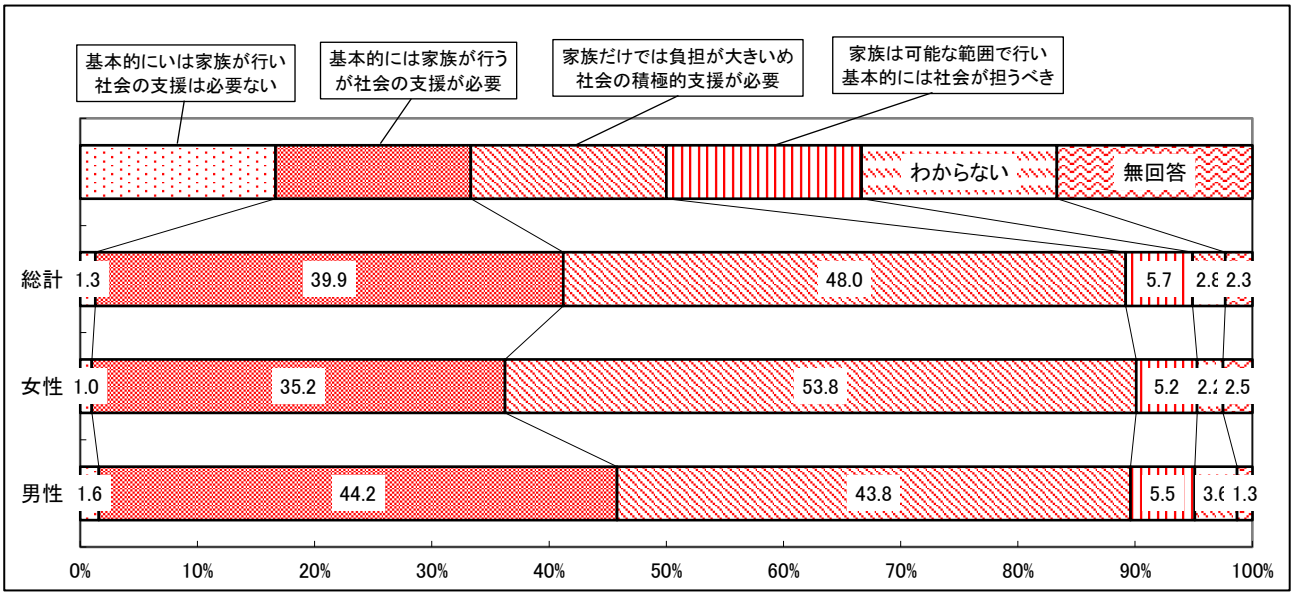
また，18～29歳の女性と男性においては「家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある」の割合が80.0%を超えており全ての年代で最も高くなっている。

前回調査と比較した際，女性の意識については「家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある」と「基本的には家族が行うものだが，社会が支援する必要がある」との差が前回調査では18.6ポイントだったのに対し，今回調査では32.0ポイントと差が大きく広がっており，意識に大きな変化が生じている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



【平成30年度調査】　ｎ＝742

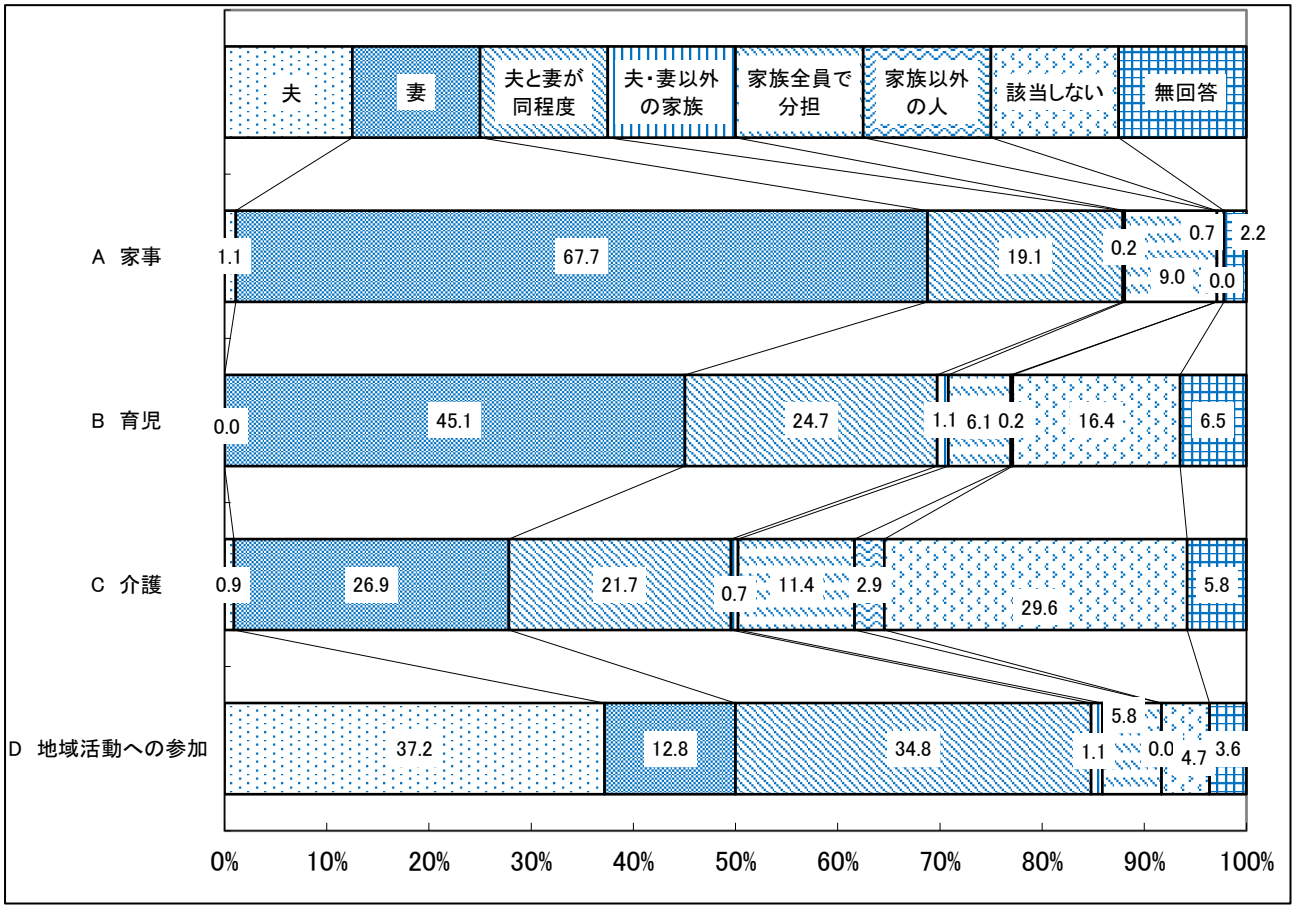


【問8】あなたの家では，現在，次のような事柄を主に誰が行っていますか。

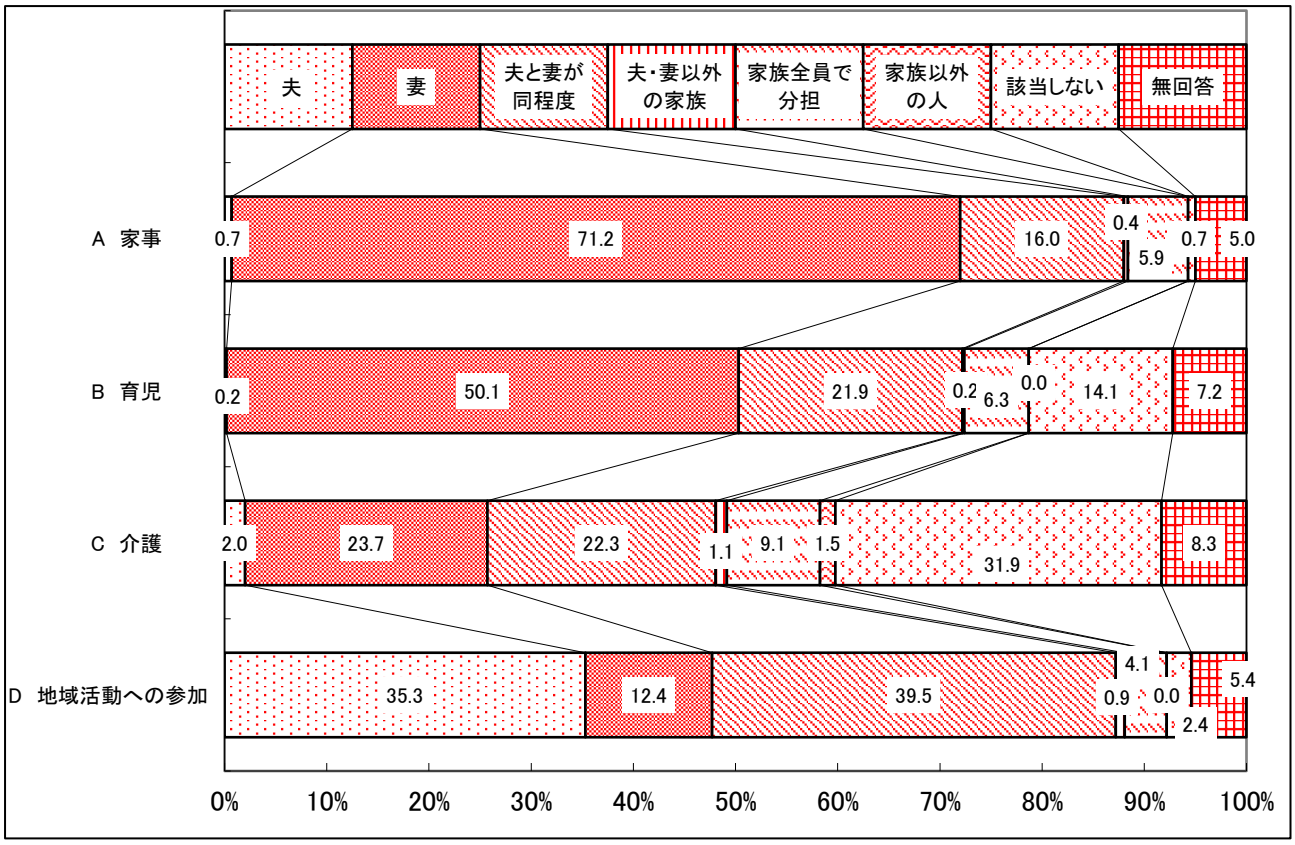
家庭内での事柄の役割分担については，「家事」は「妻」の役割と回答した割合が67.7％と最も多い。
また，「育児」についても「妻」の役割が多く45.1％となっている。
「介護・看護」は「妻」の役割が26.9％と最も多いが，「夫と妻が同程度」と答えた割合も21.7％と次に多い。「自治会や公民館などの地域活動への参加」は，「夫」の役割が多く37.2％となっている。

前回調査と比較してみると，「家事」については「妻」の役割とされていたものが3.5ポイントの減，「夫と妻が同程度」が3.1ポイントの増。「育児」についても同じく，「妻」の役割とされていたものが5.0ポイントの減，「夫と妻が同程度」が2.8ポイントの増となっており，意識に大きく変化があったことが見受けられる。

【令和６年度調査】　ｎ＝446



【平成30年度調査】　ｎ＝539



A　家事

「妻」の役割が67.7%とすべての項目の中で最も多い。この割合を年代別・性別ごとにみると，60歳代の女性の割合が84.1%と高い。それに対し，18～29歳の女性と男性及び30歳代男性では，「夫と妻が同程度」とした割合が「妻」を上回っている。

B　育児

「妻」の役割が45.1%と多い。前回調査と比較してみると，「妻」の割合が5.0ポイント低くなっている。また，年代別にみると，18～29歳の男性と30歳代男性では，「夫と妻が同程度」とした割合が「妻」を上回っている。30歳代女性は「妻」と「夫と妻が同程度」が同じ47.4%。それ以外のすべての世代は「妻」と回答した割合が高くなっている。

C　介護・看護

「該当しない」が29.6%と最も多く，次いで「妻」と回答した割合が26.9%となっている。年代別にみると，60歳以上女性では「妻」の役割とした割合が多いのに対し，60歳以上男性では「夫と妻が同程度」が多くなっている。

前回調査と比較してみると，「夫と妻が同程度」と回答した割合が0.6ポイント低くなっている。

D　自治会や公民館などの地域活動への参加

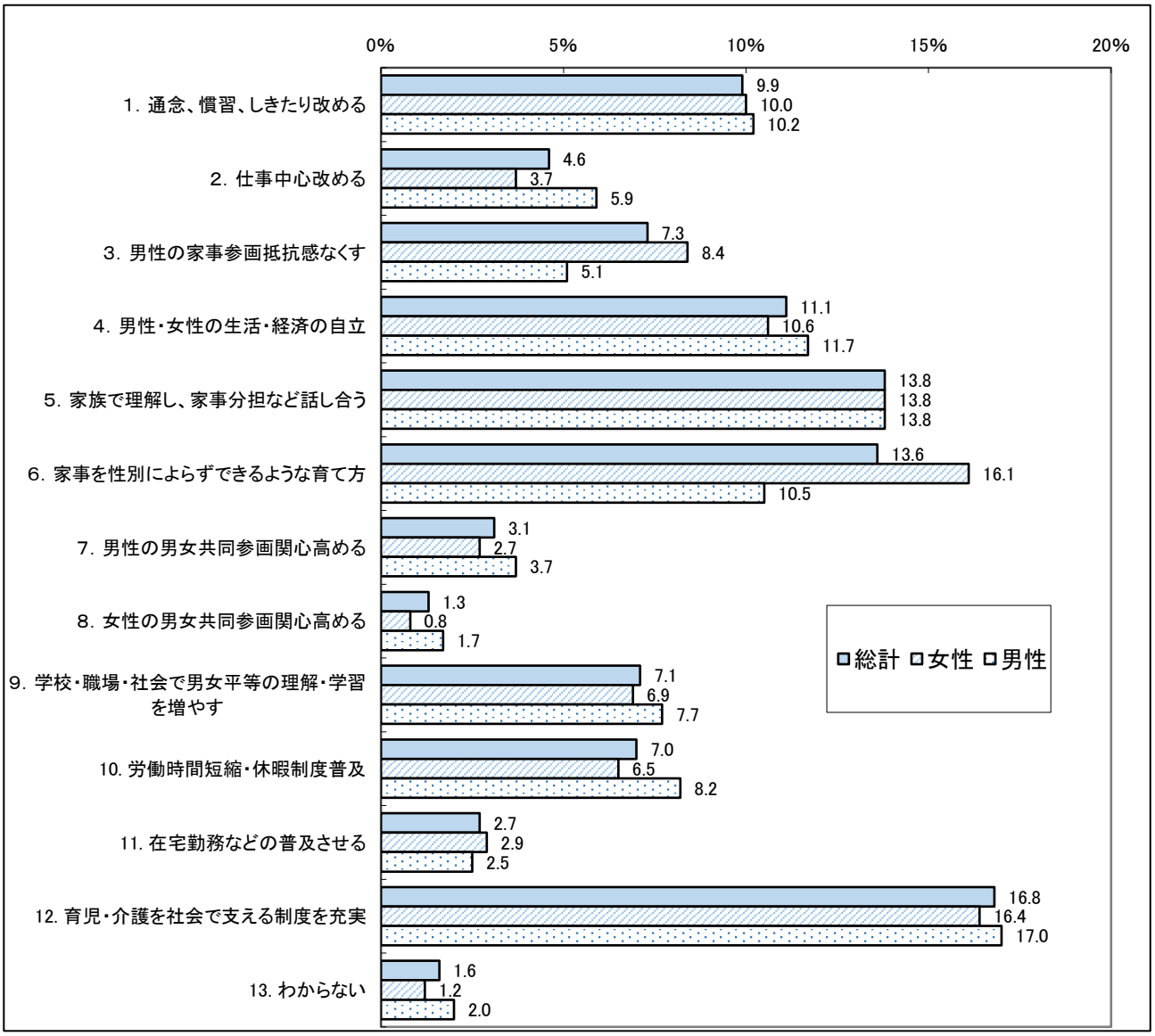
「夫と妻が同程度」と回答した割合は34.8%，「夫」と回答した割合が37.2%とほぼ同率である。男女別に見てみると女性が「夫と妻が同程度」が多いのに対し，男性は「夫」の割合が高くなっている。

【問9】今後，男性も女性も，家事・子育て・介護・地域活動・仕事などに，自分の意思で積極的に関わり，いきいきと暮らすことができるようになるためには，どのようなことが必要だと思われますか。

男性も女性も，家事・子育て・介護・地域活動・仕事などに，自分の意思で積極的に関わり，いきいきと暮らすことができるようになるために必要なことについては，「育児や介護支援の充実など，育児や介護を社会で支える制度を充実させること」が16.8%で最も多く，次いで「家族の間で互いの立場を理解し，家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が13.8%，「家事などについて，性別によらず，身に付けることができるような育て方をすること」が13.6%と続く。

全体的に見ると男女ほぼ同率となっているが，男女間で5.6ポイントの大きな開きが生じているのが，「家事などについて，性別によらず，身に付けることができるような育て方をすること」となっている。
「仕事に生活を合わせるという，仕事中心の社会全体の仕組みを改めること」については，女性が3.7%であるのに対して，男性は5.9%と男性が多くなっている。
また「家事などについて，性別によらず，身に付けることができるような育て方をすること」は，女性が16.1%であるのに対して，男性が10.5%と女性が男性より多くなっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



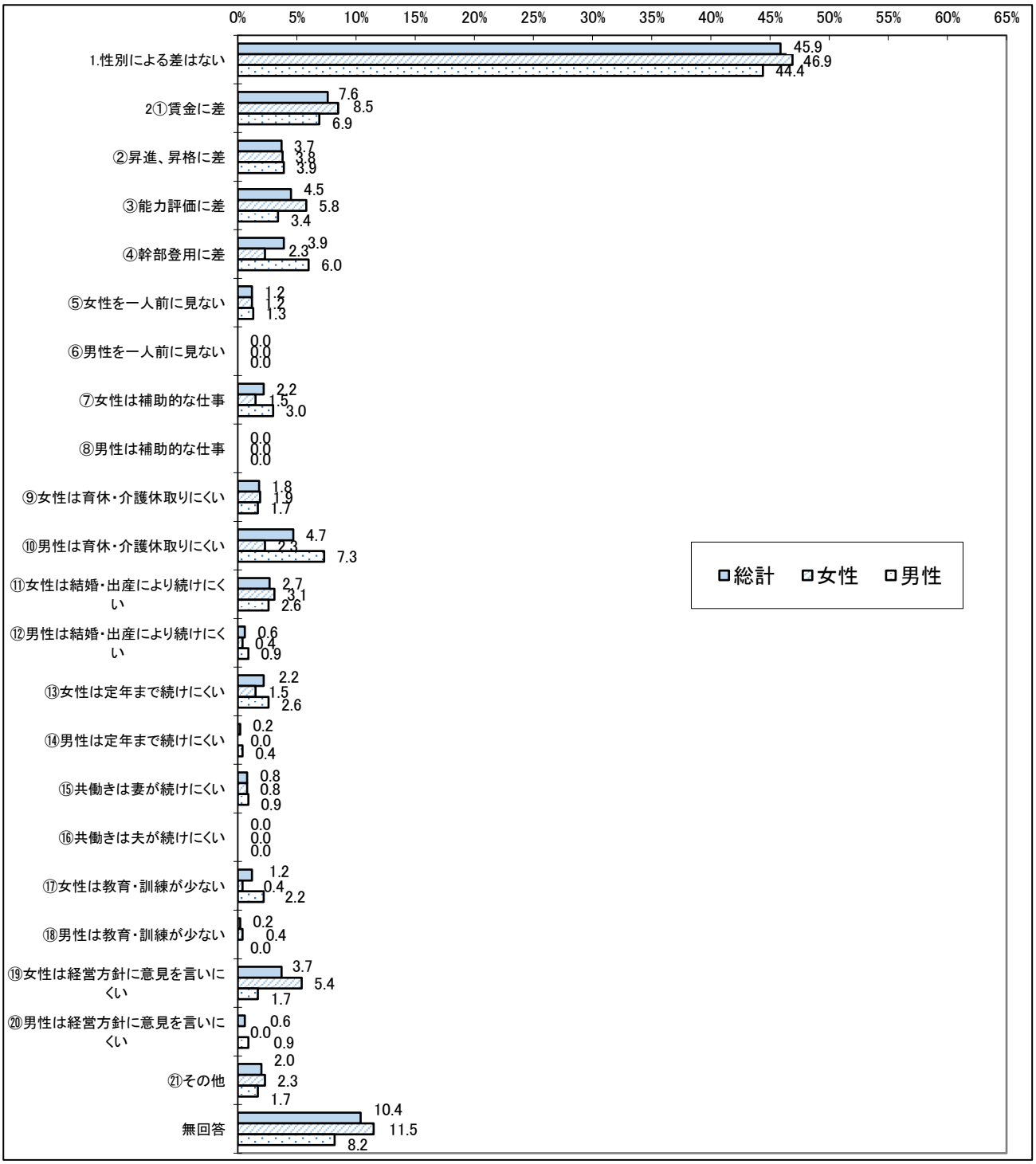
【問１２】あなたが働いている場では，仕事の内容などについて，次にあげるような性別による処遇の差がありますか。

職場での性別による処遇の差については,「性別による処遇の差はない」が45.9%で最も多いが，何らかの処遇の差があると回答している方は，合わせると43.8%に上る。中でも多いのは「性別によって賃金に差がある」が7.6%,「男性は育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある」が4.7%と続く。

男女別にみると，男女間で大きな差があるのが「男性は育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある」となっており，女性が2.3%であるのに対して，男性は7.3%と男性が３倍以上多くなっている。

次いで「女性は経営方針に対して意見を言いにくい雰囲気がある」となっており，女性が5.4%であるのに対して，男性が1.7%と女性が男性より３倍以上多くなっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝510



【問１３】あなたが働いている場では，働く時間，給料，休業日や休暇，仕事の分担などについての取り決め（会社の就業規則，農業の家族経営協定などに類するもの）がありますか。

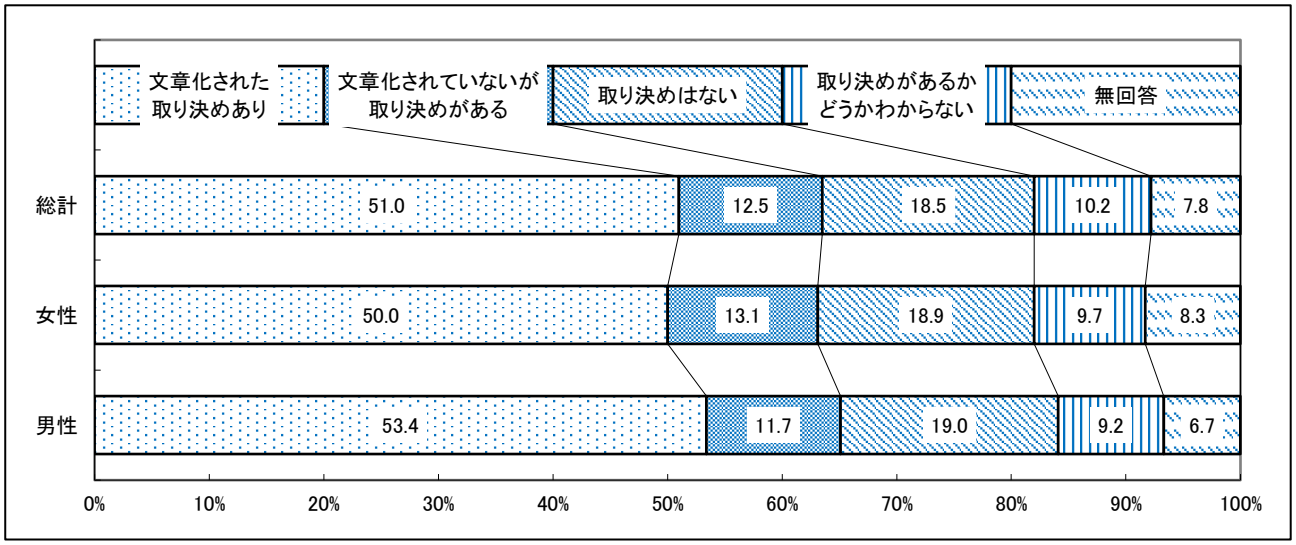
就業上の取り決めについては，「文章化された取り決めがある」が51.0％で最も多く，「取り決めはない」が18.5％，「文章化されていないが取り決めがある」が12.5％，「わからない」が10.2％の順となっている。

男女別にみると，「文章化された取り決めがある」については女性50.0％，男性53.4％と男性が勤めている職場の方が文章化された取り決めをしているところが多い。

前回調査と比較してみると，「文章化された取り決めがある」が4.0ポイント減少しており，男女別に見ると女性が9.8ポイント減少し，男性が2.7ポイント増加している。

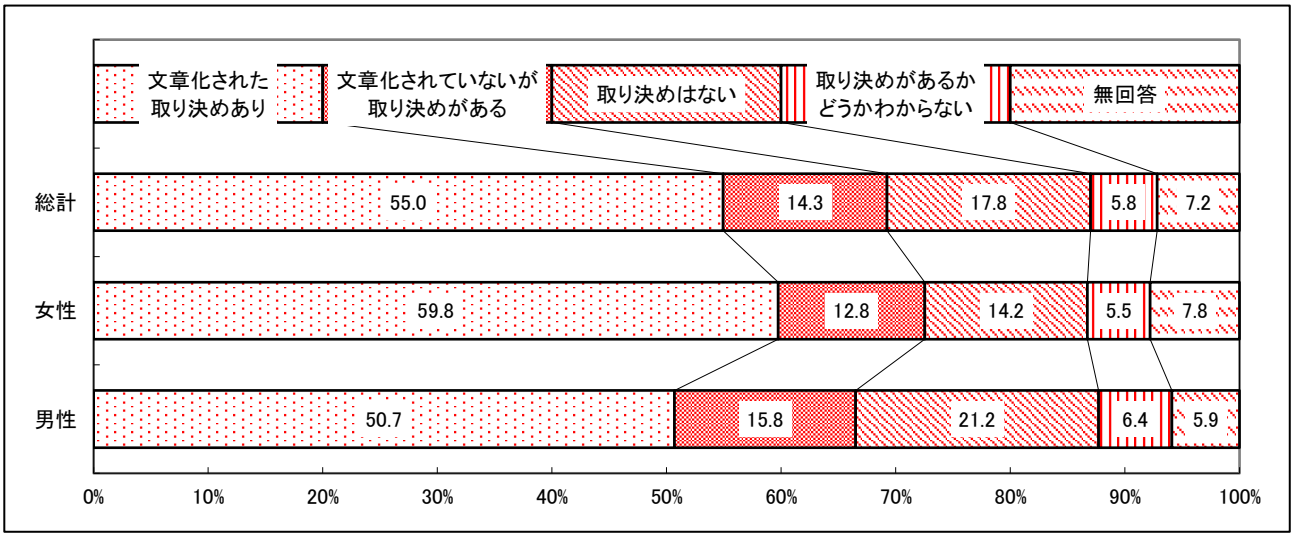
また，「文章化された取り決めがある」，「文章化されていないが取り決めがある」を併せた「明文化にかかわらず何らかの取り決めがある」の割合については，今回調査が63.5％，前回調査が69.3％と5.8ポイント減少している。

【令和６年度調査】　ｎ＝384



「明文化にかかわらず何らかの取り決めがある」＝63.5％

【平成30年度調査】　ｎ＝433



「明文化にかかわらず何らかの取り決めがある」＝69.3％

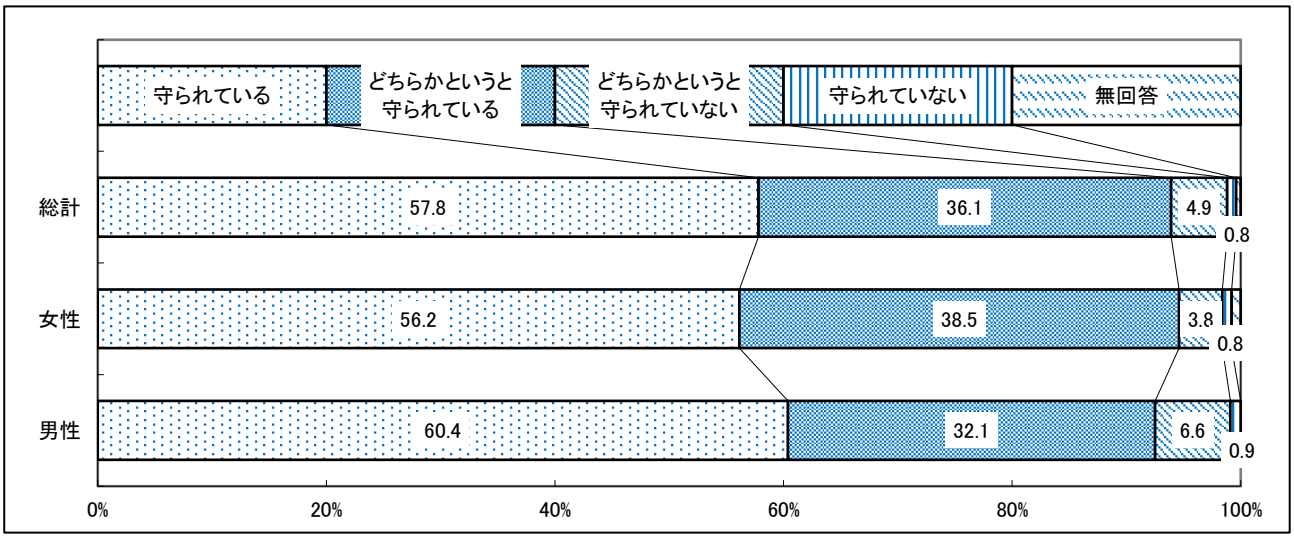
【問１４】その取り決めは守られていますか。

「何らかの取り決めがある」方について，そのことが守られているかについては，「守られている」が57.8％と最も多く，次いで「どちらかというと守られている」が36.1％，「どちらかというと守られていない」が4.9％，「守られていない」が0.8％となり，18～29歳の男性においては，「どちらかというと守られていない」が33.3％と他の世代より多い。

男女別に見てみると，「守られている」では男性が女性より4.2ポイント多く，「どちらかというと守られている」では女性が6.4ポイント多くなっている。

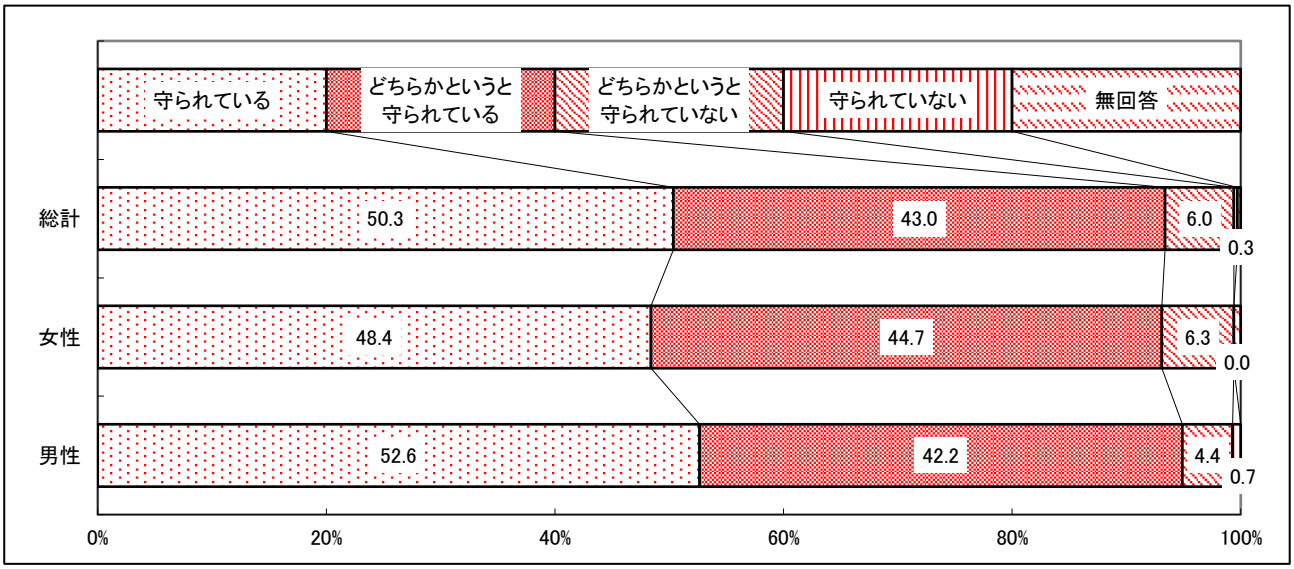
前回調査と比較してみると，「守られている傾向」にある方が全体的に0.6ポイント増加している。また，前回調査では「守られている傾向」について男性が女性より1.7ポイント高かったが，今回調査では逆転して女性が2.2ポイント高くなっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝300



「守られている傾向」＝93.9%　「守られていない傾向」＝5.7%

【平成30年度調査】　ｎ＝300



「守られている傾向」＝93.3%　「守られていない傾向」＝6.3%

【問１５】あなたが，現在，仕事をしていないのはどのような理由からですか。

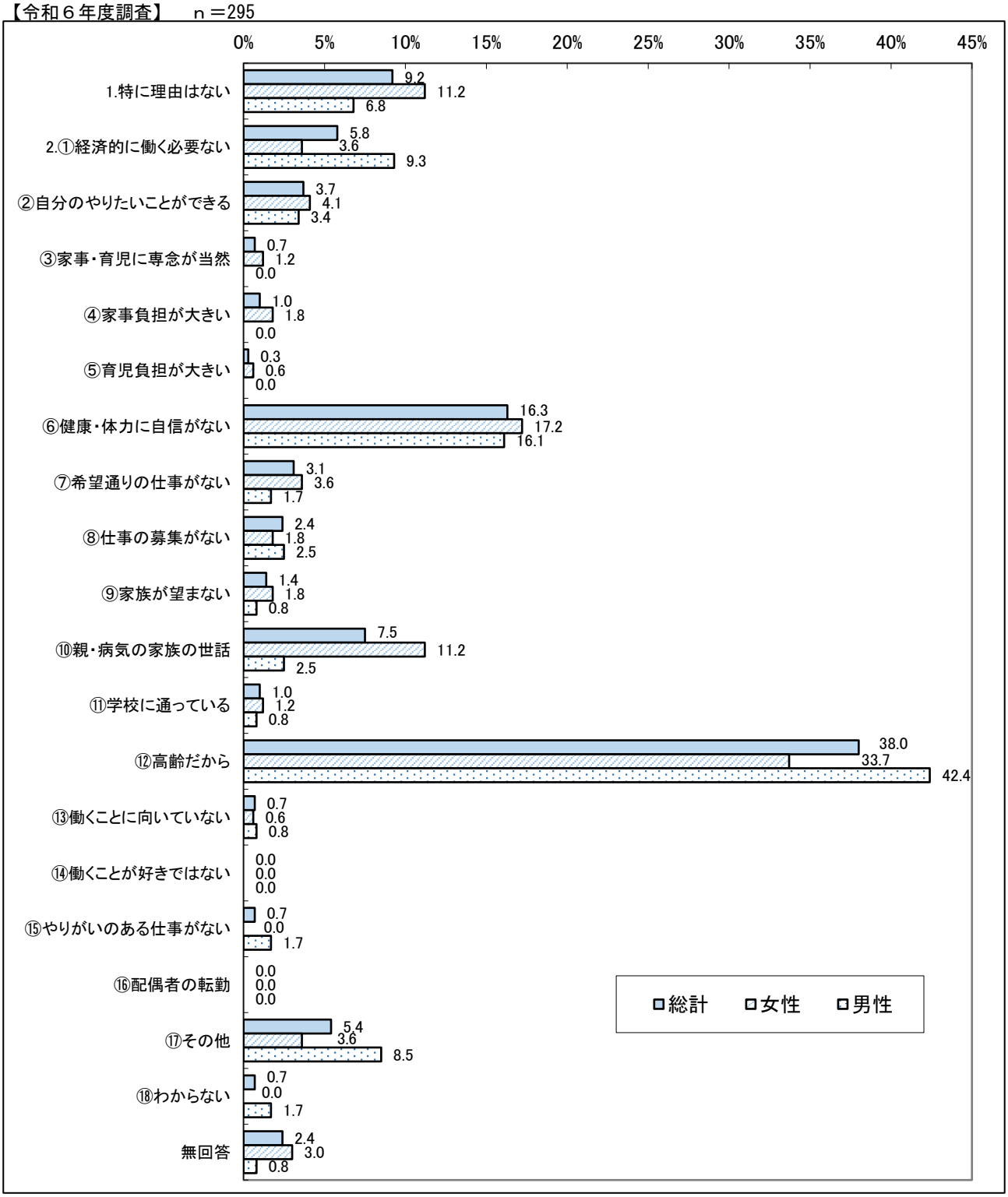
働いていない理由については,「高齢だから」が38.0％と最も多く，次いで「健康・体力に自信がない」が16.3％で続いている。

年代別にみると，30歳代の女性は,「家事の負担が大きい」の割合が高くなり，女性は40歳代から「体力・健康に自信がない」の割合が高くなっている。

また，男女ともに60歳代から「高齢のため」の割合が高くなる。

40歳代以上の女性では「自分のやりたいことができるから」という理由も多くなっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝295



【問１６】あなたは収入になる仕事をしたいと思われますか。

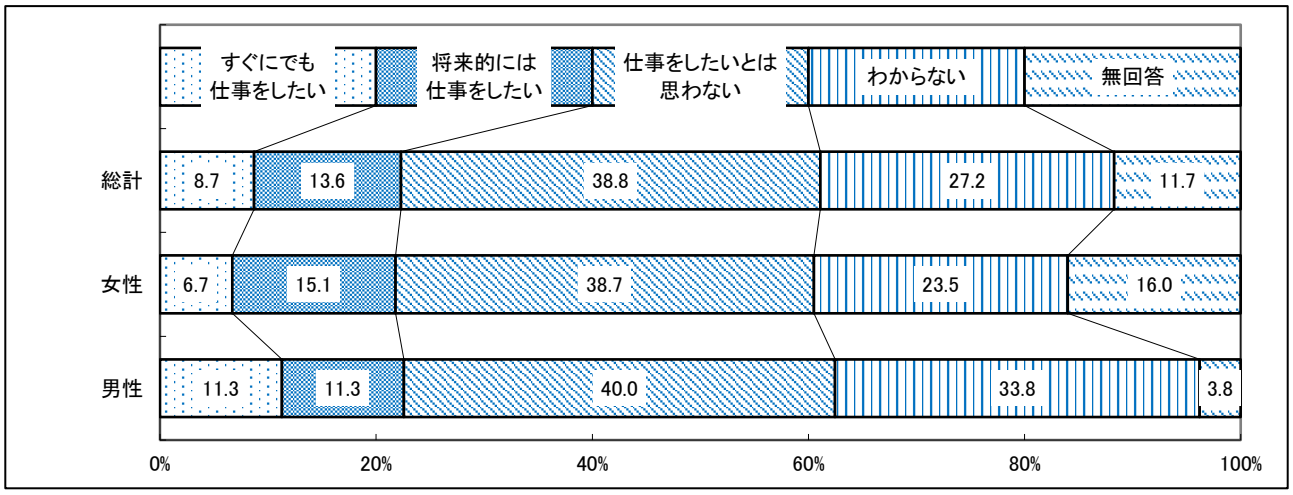
仕事に就いていない方の就業希望については，「仕事をしたいと思わない」が38.8%，「わからない」27.2%，「将来的には仕事をしたい」13.6%，「すぐにでも仕事をしたい」8.7%となる。

男女別にみると，全体的にほぼ同数になっている。

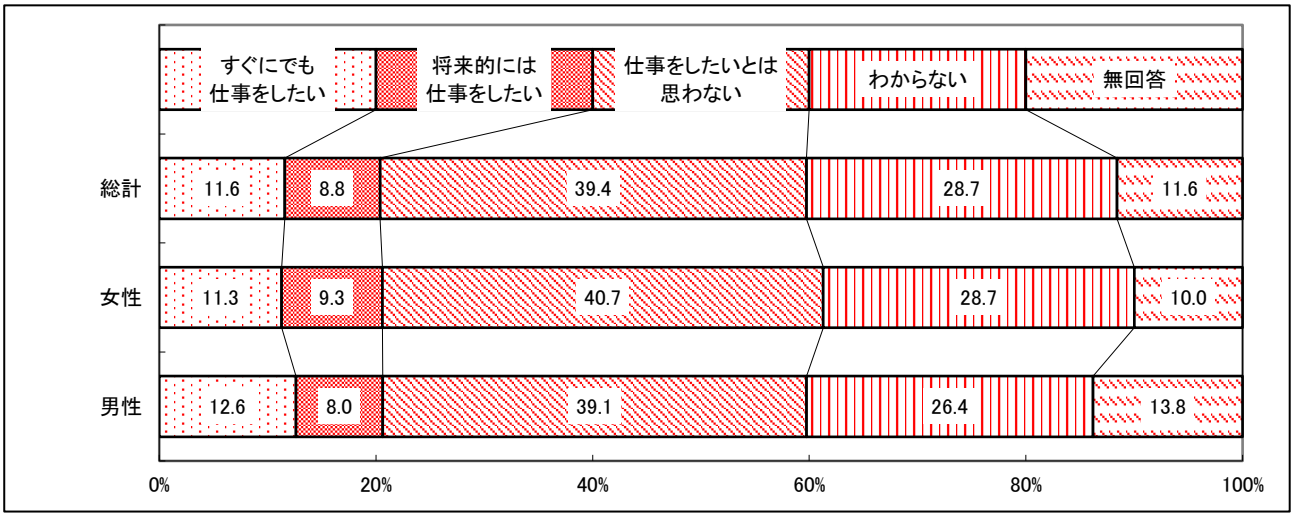
前回調査と比較してみると，「すぐに又は将来的には仕事をしたい」と考えている方が前回調査では20.4%だったのに対し，今回調査では22.3%と1.9ポイント増加している。

逆に「仕事をしたいとは思わない」方は前回調査では39.4%だったのに対し，今回調査では38.8%と0.6ポイント減少している。

【令和６年度調査】　ｎ＝206



【平成30年度調査】　ｎ＝251



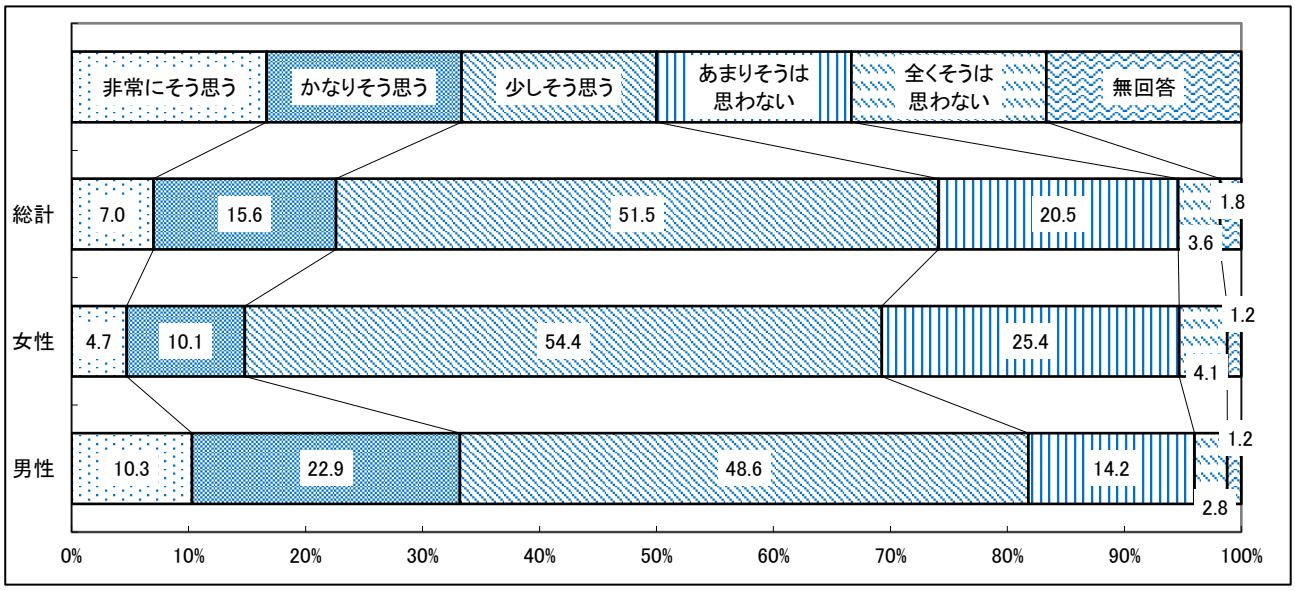
【問１７】あなたは，日ごろ，何か地域のために役立ちたいと思われますか。

何か地域のために役立ちたいかということについては，「少しそう思う」が51.5％と最も多く，「あまりそうは思わない」が20.5％，「かなりそう思う」が15.6％と続いている。

男女別に見てみると「少しそう思う」が女性54.4％，男性が48.6％と女性が男性を5.8ポイント上回っている。逆に「かなりそう思う」という女性は10.1％，男性が22.9％と男性が女性を12.8ポイント上回っている。

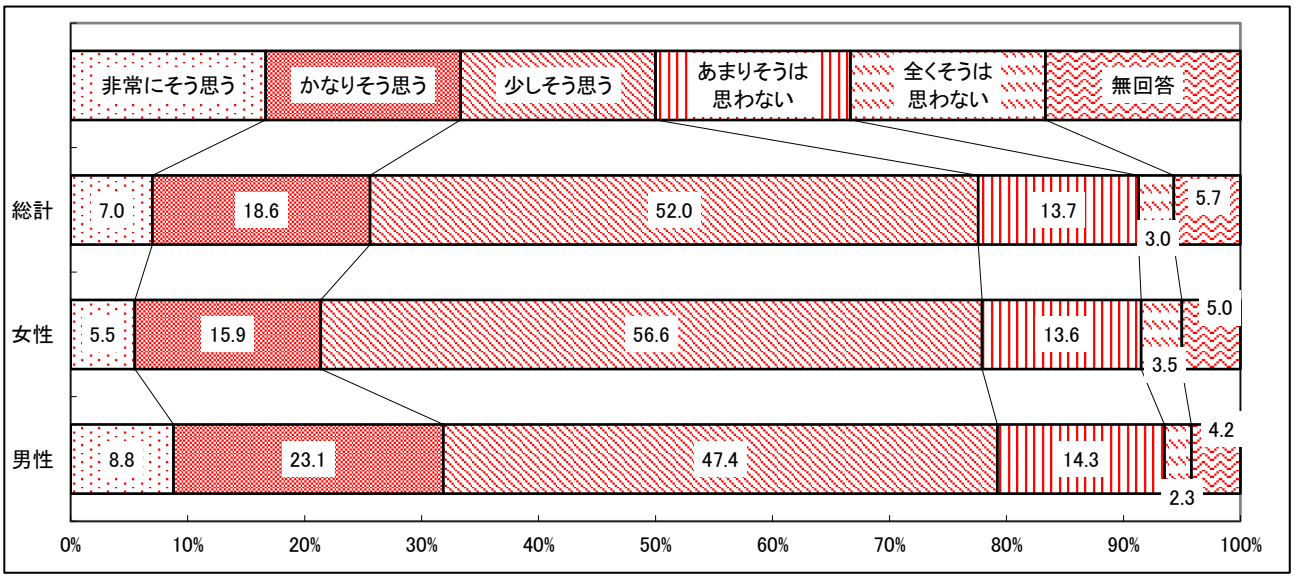
前回調査と比較してみると，「非常にそう思う」・「かなりそう思う」・「少しそう思う」を合わせた「そう思う傾向」の方と，「あまりそうは思わない」・「全くそうは思わない」を合わせた「そう思わない傾向」の方では，「そう思わない傾向」の方が16.7％から24.1％と7.4ポイント増加している。女性においては，17.1％から29.5％と12.4ポイントも増加している。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



「そう思う傾向」＝74.1％　「そう思わない傾向」＝24.1％

【平成30年度調査】　ｎ＝742



「そう思う傾向」＝77.6％　「そう思わない傾向」＝16.7％

【問１８】あなたは，現在，何か地域活動等に参加していますか。

「地域活動等の参加」については，「特になにもしていない」が29.6%で，その他は何らかの地域活動等に参加していることになる。

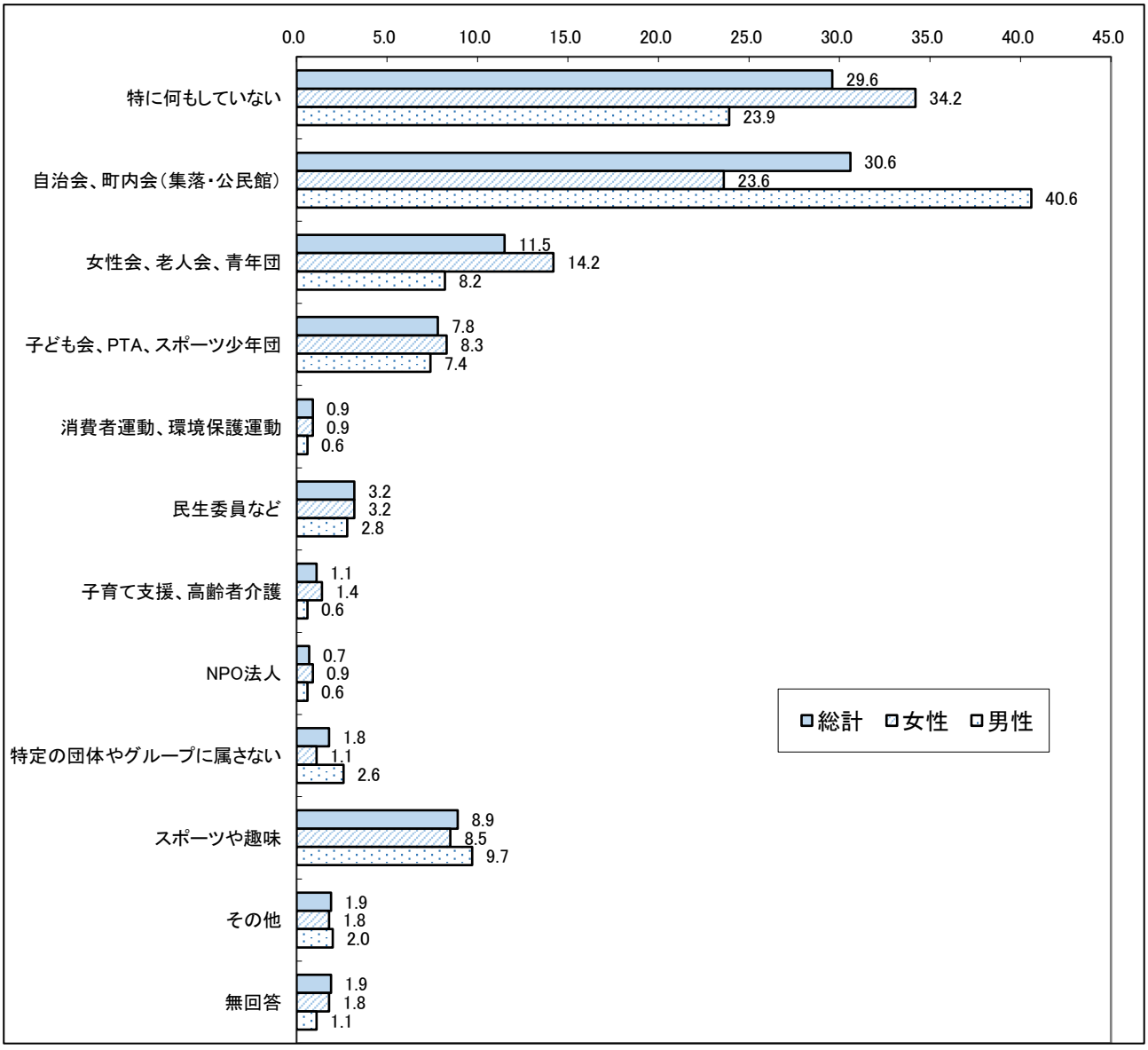
「自治会，町内会などの地区を単位とした団体における活動」が30.6%で最も多く，次いで「特になにもしていない」が29.6%，「女性（婦人会），老人会，青年団などの団体活動」が11.5%，「スポーツや趣味，文化振興などに関わるサークル活動」が8.9%と続いており，その他の項目は，10%未満の回答となっている。

男女別に見ると，「自治会，町内会などの地区を単位とした団体における活動」では，女性が23.6%，男性が40.6%と男性が17.0ポイント多い。また，「女性（婦人）会，老人会，青年団などの団体活動」では，女性が14.2%，男性が8.2%と女性が男性を6.0ポイント上回っている。

年代別に見ると，18～29歳では女性が94.4%，男性25.0%が「特になにもしていない」と答えている。30歳代から「自治会，町内会などの地区を単位とした団体における活動」，40歳代から「子ども会，ＰＴＡ，スポーツ少年団への参加」が一気に増えてくる傾向にある。

60歳代男性では，「自治会，町内会など地区を単位とした団体」が52.9%と最も高い。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



【問１９】あなたが住んでいる地域では，次のような雰囲気や慣習がありますか。

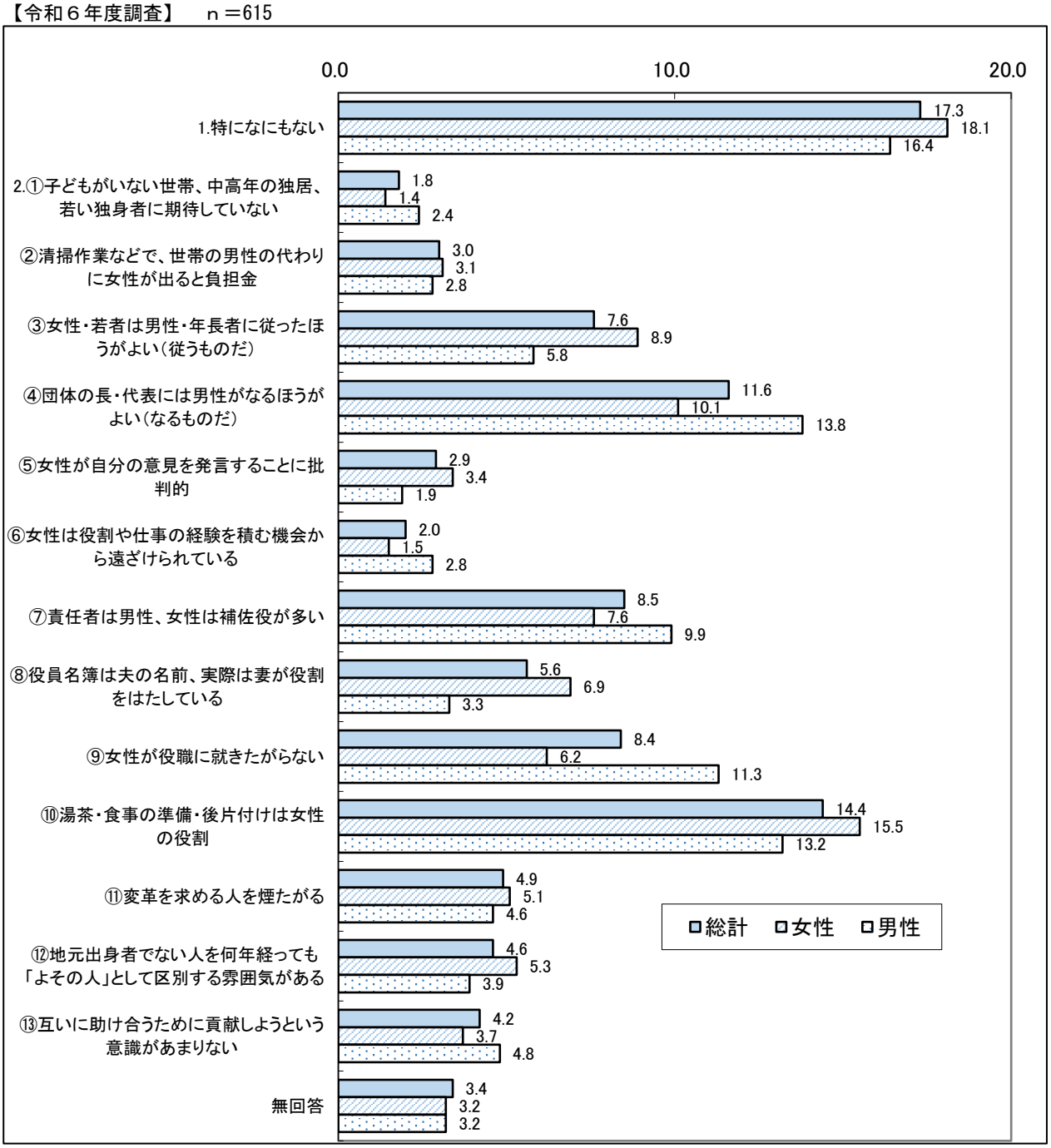
「地域の慣習・しきたりの現状」については，「特になにもない」が17.3％と最も高いが，何らかの慣習やしきたりがあると回答している方は，合わせると79.5％に上る。中でも多いのは，「会合や行事の湯茶・食事の準備や後片付けは女性の役割という雰囲気がある」が14.4％，「団体の長や代表などには男性がなるほうがよい（なるものだ）という雰囲気がある」が11.6％，「様々な役割分担の責任者には男性が就き，女性は補佐役に就くことが多い」が8.5％の順となっている。

「特になにもない」は，女性18.1％，男性16.4％と女性が高い。年代別に見ると，男女ともに30歳代が最も高くなっており，女性においては70％を超えている。

「会合や行事の湯茶・食事の準備や後片付けは女性の役割という雰囲気がある」は，30歳代男女を除いてほぼすべての年代で高くなっている。

「団体の長や代表などには男性がなるほうがよい（なるものだ）という雰囲気がある」は，女性10.1％，男性13.8％と，差は3.7ポイントと大きくなっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



【問２０】あなたは次のような場で男女は平等になっていると思われますか。

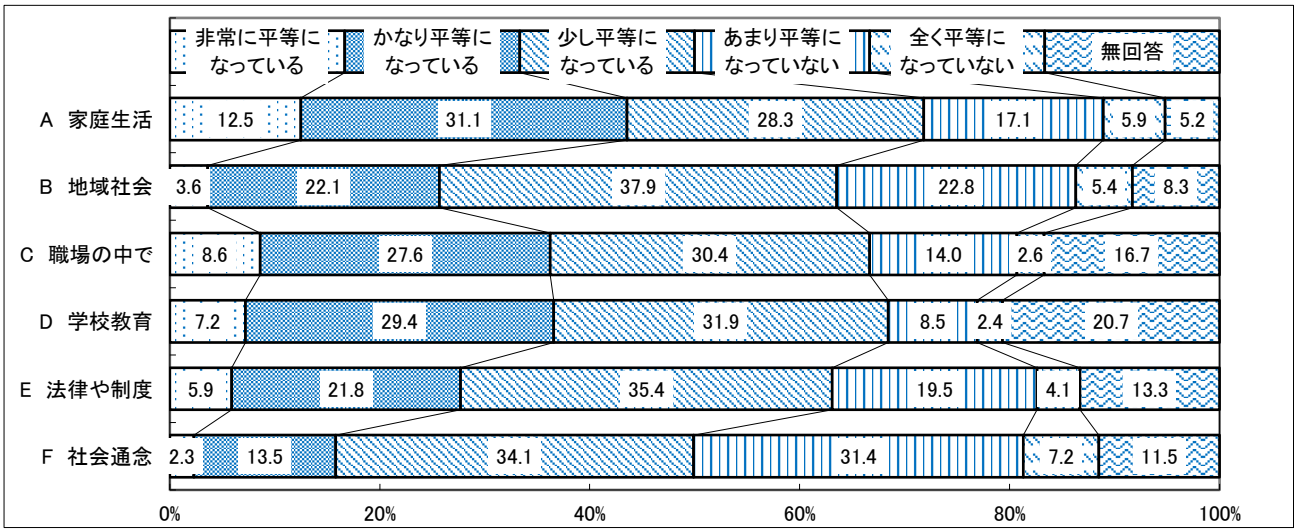
「家庭の中で」「地域社会」「職場の中で」「学校教育の中で」「法律や制度で」「社会通念などで」の場で男女は平等になっているかについては，「Ａ家庭の中」では「かなり平等になっている」，Ｂ～Ｆの「地域社会」「職場の中」「学校教育の中」「法律や制度」「社会通念など」では「少し平等になっている」が多くなっている。

「非常に平等になっている」「かなり平等になっている」「少し平等になっている」を合わせた「平等感」で見てみると，「家庭生活」71.9%，「地域社会」63.6%，「職場」66.6%，「学校教育」68.5%，「法律や制度」63.1%，「社会通念」49.9%となっている。「地域社会」と「職場」では「平等感」が前回調査よりも増加しているが，「家庭生活」では，1.3ポイント減少している。

一方，「あまり平等になっていない」「まったく平等になっていない」を合わせた「不平等感」で見てみると，「家庭生活」23.0%，「地域社会」28.2%，「職場」16.6%，「学校教育」10.9%，「法律や制度」23.6%，「社会通念」38.6%となっている。

男女別に見ると，どの項目でも男性が女性より「平等感」が高く，逆に女性が男性より「不平等感」が高くなっている。　特に「家庭生活」における「不平等感」については，女性が30.8%に対し男性が13.1%と，女性が男性を17.7ポイントも上回っている。

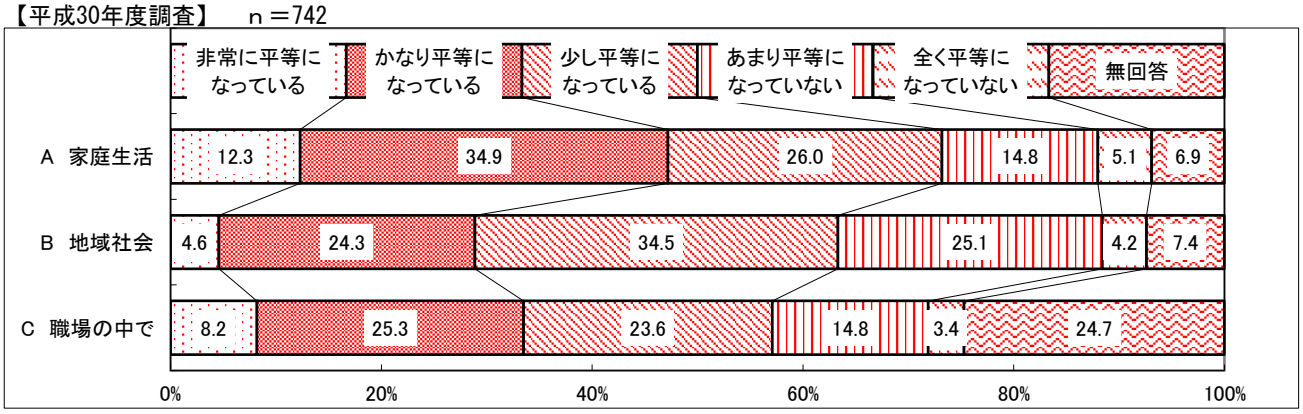
【令和６年度調査】　ｎ＝615



「平等感」：A家庭＝71.9%，B地域社会＝63.6%，C職場の中で＝66.6%，D学校教育＝68.5%，E法律や制度＝63.1%，F社会通念＝49.9%

「不平等感」：A家庭＝23.0%，B地域社会＝28.2%，C職場の中で＝16.6%，D学校教育＝10.9%，E法律や制度23.6%，F社会通念＝38.6%

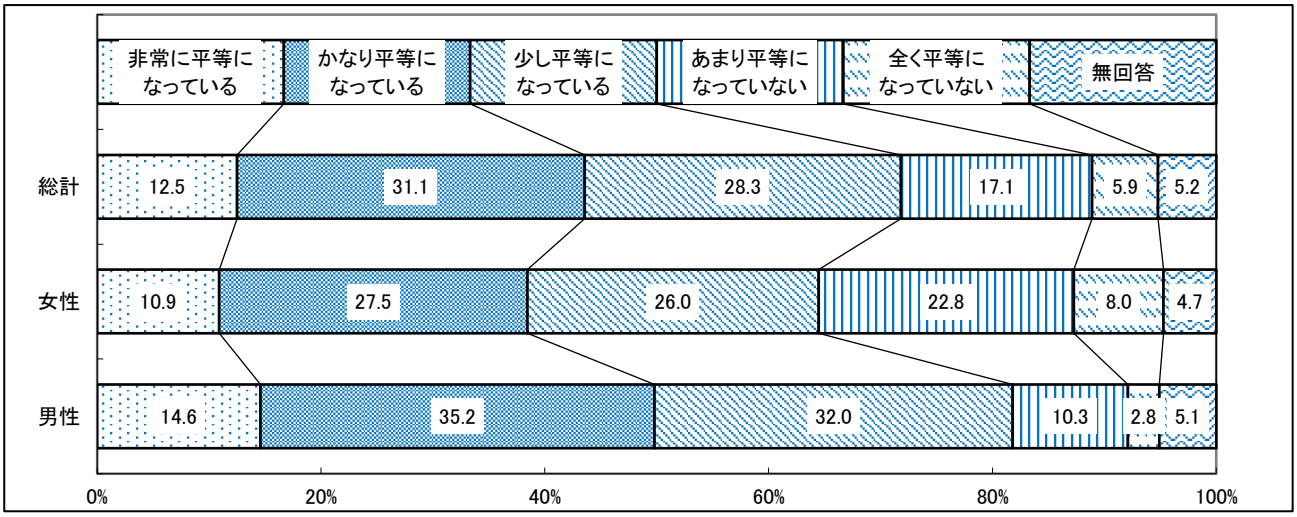
【平成30年度調査】　ｎ＝742



「平等感」：A家庭＝73.2%，B地域社会＝63.4%，C職場の中で＝57.1%

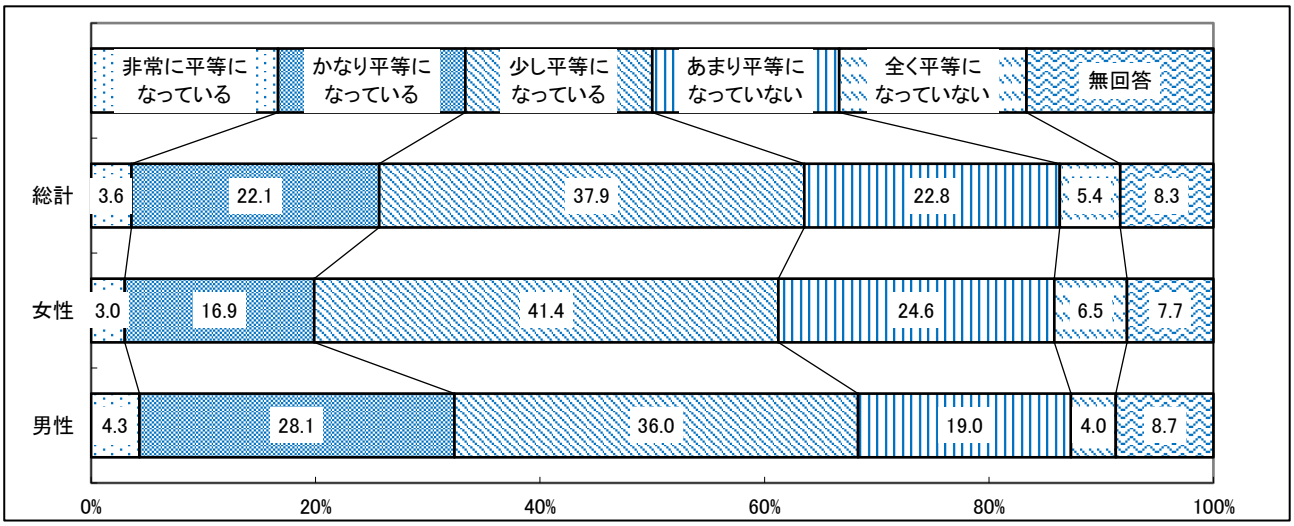
「不平等感」：A家庭＝19.9%，B地域社会＝29.3%，C職場の中で＝18.2%

＜A家庭生活男女別＞



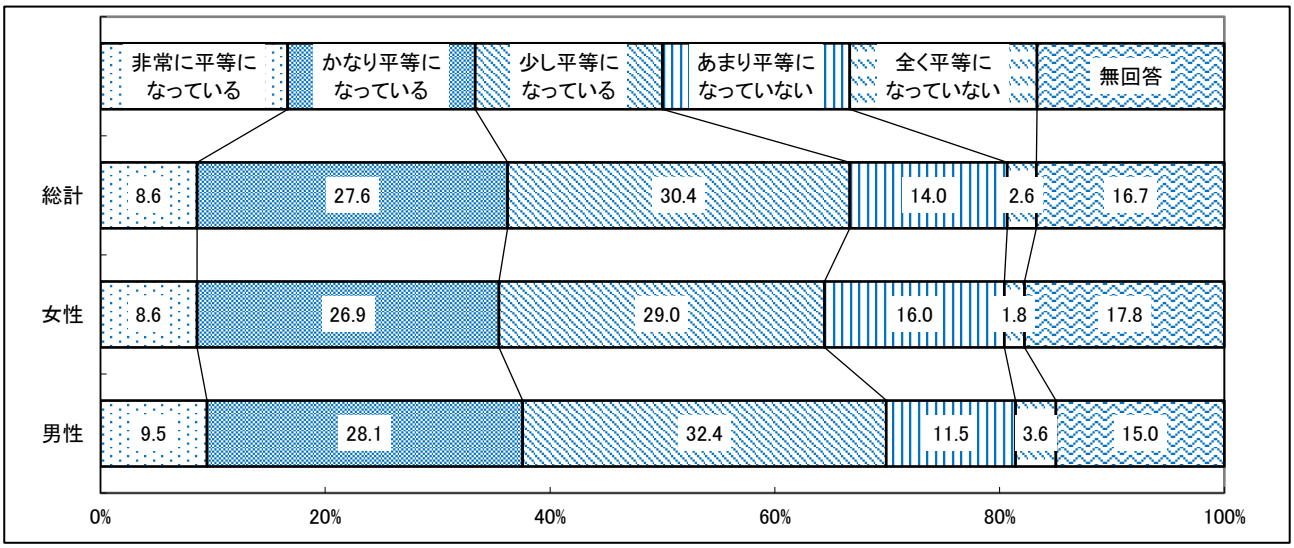
「平等感」＝（全体）71.9%，（女）64.4%，（男）81.8%，「不平等感」＝（全体）23.0%，（女）30.8%，（男）13.1%

＜B地域社会男女別＞



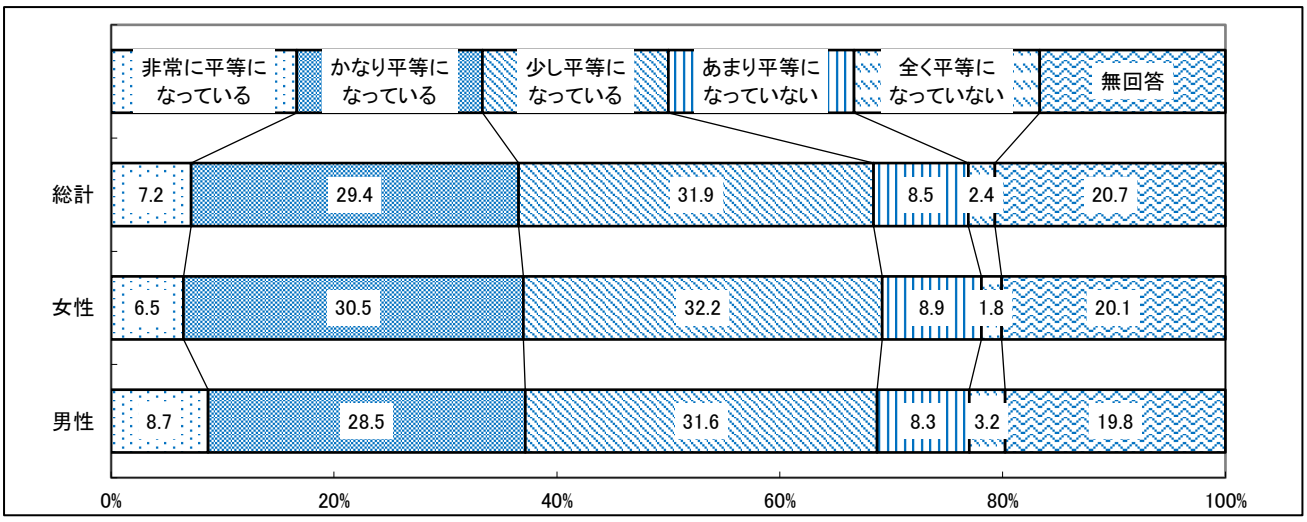
「平等感」＝（全体）63.6%，（女）61.3%，（男）68.4%，「不平等感」＝（全体）28.2%，（女）31.1%，（男）23.0%

＜C職場の中で男女別＞



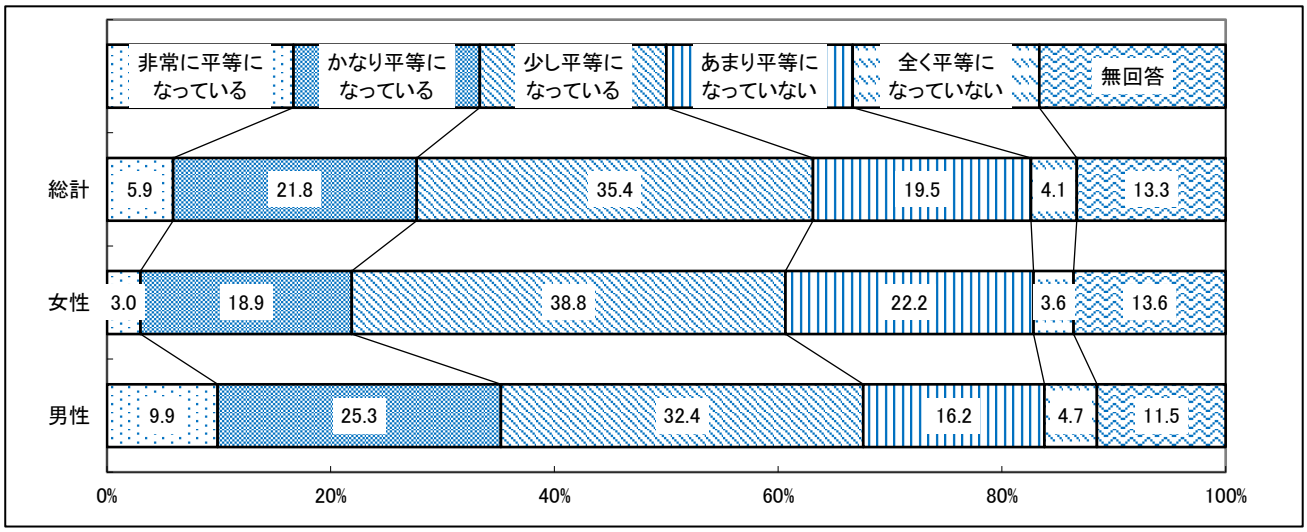
「平等感」＝（全体）66.6%，（女）64.5%，（男）70.0%，「不平等感」＝（全体）16.6%，（女）17.8%，（男）15.1%

＜D学校教育男女別＞



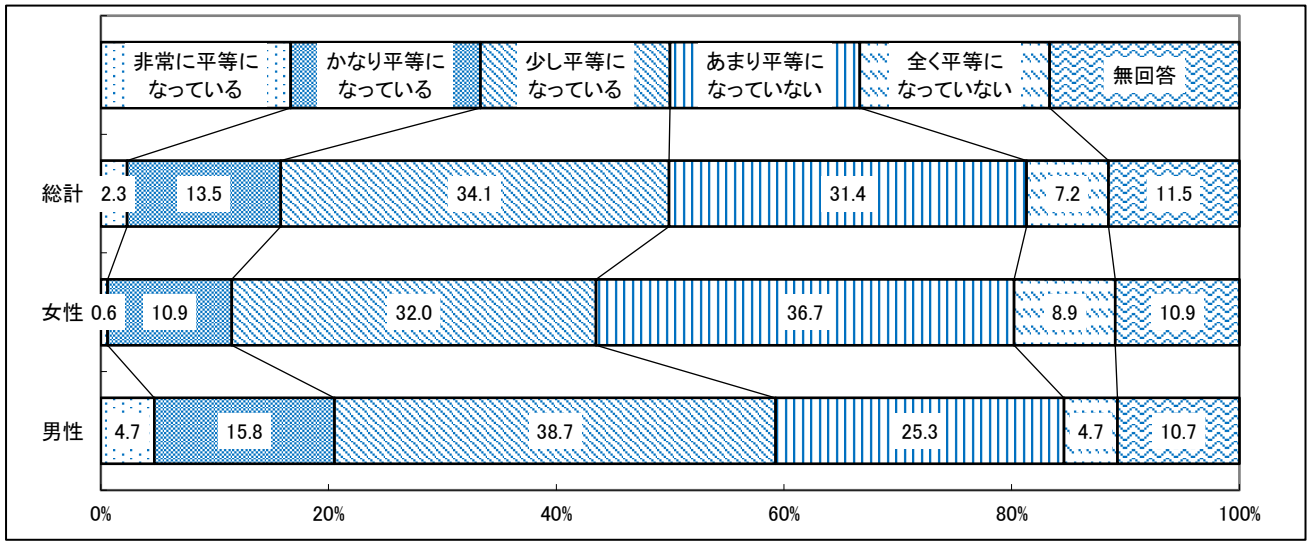
「平等感」＝（全体）68.5%，（女）69.2%，（男）68.8%，「不平等感」＝（全体）10.9%，（女）10.7%，（男）11.5%

＜E法律や制度男女別＞



「平等感」＝（全体）63.1%，（女）61.7%，（男）67.6%，「不平等感」＝（全体）23.6%，（女）25.8%，（男）20.9%

＜F社会通念男女別＞



「平等感」＝（全体）49.9%，（女）43.5%，（男）59.2%，「不平等感」＝（全体）38.6%，（女）45.6%，（男）30.0%

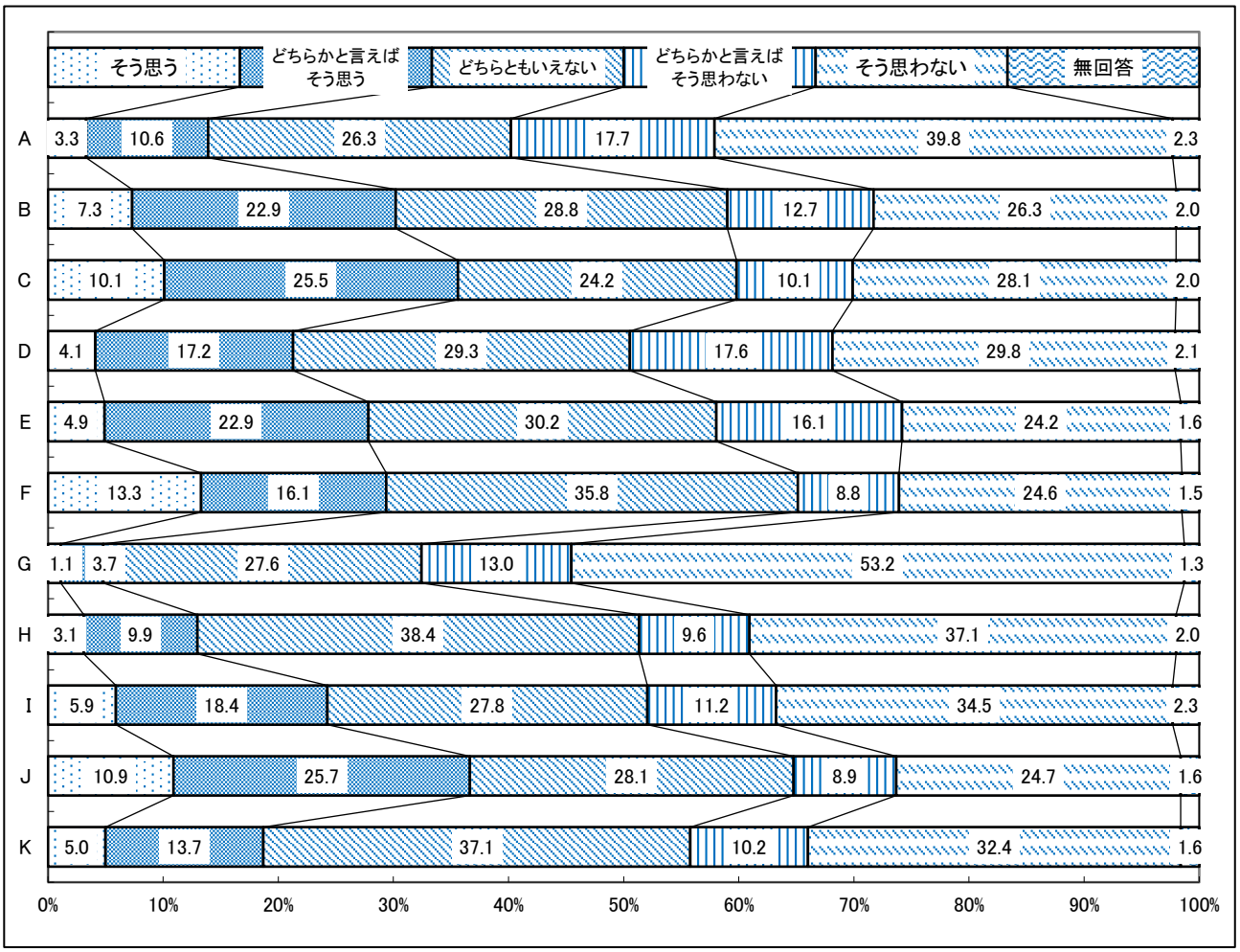
【問２１】あなたは，次のようなことについてどう思われますか。

固定的な性別役割分担意識について，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合が最も高いのは「Ｊ育児休業は，男性より女性がとった方がよい」で36.6%，次いで「Ｃ妻や子どもを養うのは，男性の責任である」が35.6%，「Ｂ男の子は男らしく，女の子は女らしく育てるほうがよい」が30.2%と続いている。

「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合が最も多いのは，「Ｇ実の親，義理の親に限らず，親の介護は女性がするべきである」の66.2%となっている。

「Ａ男性は仕事，女性は家事・育児と役割を分担するほうがよい」「Ｂ男の子は男らしく，女の子は女らしく育てるほうがよい」「Ｃ妻や子どもを養うのは，男性の責任である」については，全ての年代において，女性よりも男性のほうが「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合が高くなっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



Ａ　「男性は仕事，女性は家事・育児」と役割を分担するほうがよい
Ｂ　男の子は男らしく，女の子は女らしく育てるほうがよい
Ｃ　妻や子どもを養うのは，男性の責任である
Ｄ　女性は結婚したら自分自身のことより，家族を中心に考えるべきである
Ｅ　女性は仕事を持つのは良いが，家事，育児もきちんとすべきである
Ｆ　結婚したら，妻が夫の姓を名乗るのは当然だと思う
Ｇ　実の親，義理の親に限らず，親の介護は女性がするべきである
Ｈ　男性のほうが女性より，管理職としての素質がある
Ｉ　職場で来客にお茶を出すのは女性がしたほうがよい
Ｊ　育児休業は，男性より女性がとった方がよい
Ｋ　介護休業は，男性より女性がとった方がよい

A　「男性は仕事，女性は家事・育児」と役割を分担するほうがよい

「そう思わない」が最も多く39.8%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については13.9%となっており，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については，すべての項目の中で２番目に多い57.5%となっている。

男女別に見ると，女性では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合が8.0%に対し，男性では22.9%と，男性が14.9ポイントも上回っている。

年代別に見ると，18～29歳女性が「そう思わない」が72.2%と最も高くなっており，女性では，70歳代以上を除き，全ての年代で「そう思わない」が50%程度となっている。それに対し，男性の40歳代以上では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合が20%程度となっている。

B　男の子は男らしく，女の子は女らしく育てるほうがよい

「どちらともいえない」が最も多く28.8%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については30.2%となっており，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については39.0%となっている。

前回調査では「男らしく，女らしく」という意識が47.2%と全体の約半数を占めていたが，今回は30.2%と３割程度となった。

男女別に見ると，男性は「どちらかといえばそう思う」が36.0%と最も多くなっているのに対し，女性は「そう思わない」が32.8%と最も多くなっている。

年代別に見ると，18～29歳女性が「そう思わない」55.6%と最も高くなっている。70歳代以上の男性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合が５割を超えている。

C　妻や子どもを養うのは，男性の責任である

「そう思わない」が最も多く28.1%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については，前回調査では51.9%の約半数の方が男性の責任と感じていたが，今回の調査では，16.3ポイント少ない35.6%となっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については，前回調査の19.7%から38.2%と18.5ポイント多くなり，肯定と否定の割合が同程度となっている。

男女別に見ると，男性は「どちらかといえばそう思う」の36.4%が最も多く，女性は「そう思わない」が35.8%と最も多くなっている。

年代別に見ると，「そう思う」は70歳代男性が21.9%と最も多く，「そう思わない」は18～29歳女性が55.6%と最も多くなっている。

D　女性は結婚したら自分自身のことより，家族を中心に考えるべきである

「そう思わない」が最も多く29.8%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については21.3%，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については47.4%となっている。

男女別に見ると，男性は「どちらともいえない」の34.4%が最も多く，女性は「そう思わない」が36.7%と最も多くなっている。

女性では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合が16.6%に対し，男性では27.6%と，男性が11.0ポイントも上回っている。

年代別に見ると，40歳代男性の「どちらともいえない」が50.0%と最も多くなっている。

18～29歳女性では「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合が最も高く100%に上っている。

E　女性は仕事を持つのはよいが，家事，育児もきちんとすべきである

「どちらともいえない」が最も多く30.2%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については27.8%，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については40.3%となっている。

男女別に見ると，女性は「そう思わない」が28.4%と最も多く，男性は「どちらともいえない」が32.0%と最も多くなっている。

年代別に見ると，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合は70歳以上男性が最も多い40.0%となっている。

F　結婚したら，妻が夫の姓を名乗るのは当然だと思う

「どちらともいえない」が最も多く35.8%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については29.4%，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については33.4%となっている。

男女別に見ると，男女それぞれ「どちらともいえない」が最も多くなっているが，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については女性が23.7%に対し，男性が36.4%と男性が12.7ポイントも多くなっている。

年代別に見ると，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合は70歳以上男性が最も多い48.6%となっている。18～29歳女性は「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合が最も高く77.8%となっている。

G　実の親，義理の親に限らず，親の介護は女性がするべきである

「そう思わない」が最も多く53.2%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合についてはすべての項目の中で１番少ない4.8%となっており，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については，すべての項目の中で最も多い66.2%となっている。

男女別に見ると，男女それぞれ「そう思わない」，「どちらかといえばそう思う」，「どちらともいえない」の順に多くなっており，同じ傾向にあることが分かる。

年代別に見ると，30歳代女性が「そう思わない」が95.7%と最も多く，18～29歳女性でも90%を超え，40～50歳代女性も70%を超えている。男性は，18～40歳代において50%を超えている。否定する割合は，どの年代も女性のほうが高く，男女ともに若い世代ほど否定する割合が高くなっている。

H　男性の方が女性より，管理職としての素質がある

「どちらともいえない」が最も多く38.4%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については13.0%，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については46.7%となっている。

男女別に見ると，男女それぞれ「どちらともいえない」「そう思わない」が４割程度となっている。

年代別に見ると，30歳代女性が「そう思わない」が73.9%と最も多く，18～29歳女性も72.2%と高い。男性の20～50歳代においても，「そう思わない」が５割を超えている。

I　職場で来客にお茶を出すのは女性がしたほうがよい

「そう思わない」が最も多く34.5%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については24.3%と，前回調査の51.6%から27.3ポイント減っている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については45.7%と，前回調査の19.0%から26.7ポイント多くなり，意識の変化がみられる。

男女別に見ると，女性が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合が18.9%となっているのに対し，男性は31.2%と男女間で12.3ポイントの差が生じている。

年代別に見ると，30歳代女性が「そう思わない」が91.3%と最も多くなっている。60～70歳代女性においては「どちらともいえない」が３割程度と最も多くなっている。

また，「そう思わない」が18～29歳男性においては50.0%と最も多くなっているが，70歳以上男性は23.8%となっており，若い世代と高齢世代とで意識の差が見受けられる。

J　育児休業は，男性より女性がとったほうがよい

「どちらともいえない」が最も多く28.1%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については，すべての項目の中で最も多い36.6%となっており，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については，すべての項目の中で２番目に少ない33.6%となっている。

男女別に見ると，男性では「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の順になっているのに対し，女性では「どちらともいえない」「そう思わない」「どちらかといえばそう思う」の順になっている。

年代別に見ると，「どちらかというとそう思わない」と考える18～29歳男性が37.5%いるのに対し，18～29歳女性は22.2%となっている。

また，30歳代女性が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が60.8%と最も多くなっているのに対し，70歳以上女性では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合が41.8%となっており，若い世代と高齢世代とで意識の差が見受けられる。

K　介護休業は，男性より女性がとった方がよい

「どちらともいえない」が最も多く37.1%となっている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定する割合については，前回調査では34.2%だったが，今回の調査では，15.5ポイント少ない18.7%となっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合については，前回調査の21.0%から42.6%と21.6ポイントも多くなり，肯定と否定の割合が逆転している。

男女別に見ると，男性は「どちらともいえない」の39.9%が最も多く，女性は「そう思わない」が36.7%と最も多くなっている。

年代別に見ると，女性は18～29歳から50歳代までは「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合が５割以上だが，60歳以上になると「どちらともいえない」が４割程度と多くを占めている。

同じく男性も18～29歳から50歳代までは「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定する割合が多いが，60歳以上になると「どちらともいえない」が４割から５割と，否定する割合を超えている。

【問２２】あなたは，男女共同参画に関する講演・研修等に参加したことがありますか。

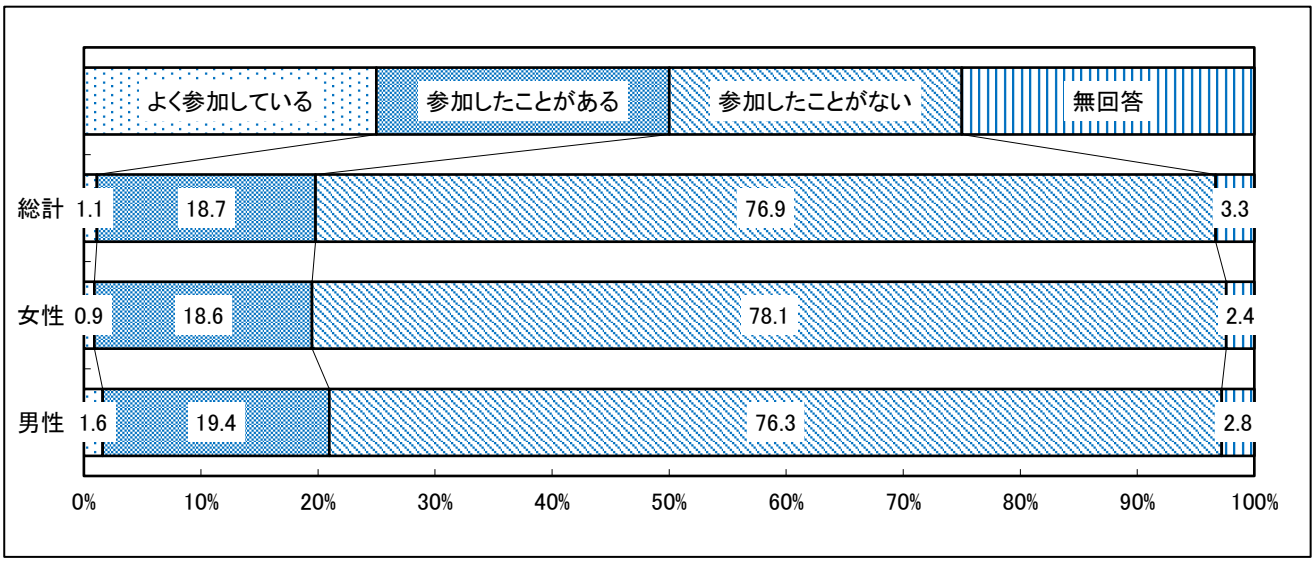
男女共同参画に関する講演・研修等への参加について，「参加したことがない」が76.9%，「参加したことがある」が18.7%となっている。

男女別に見ると，「よく参加している」「参加したことがある」については，女性が19.5%，男性が21.0%となっており，男性の参加率の方が若干高いということがわかる。

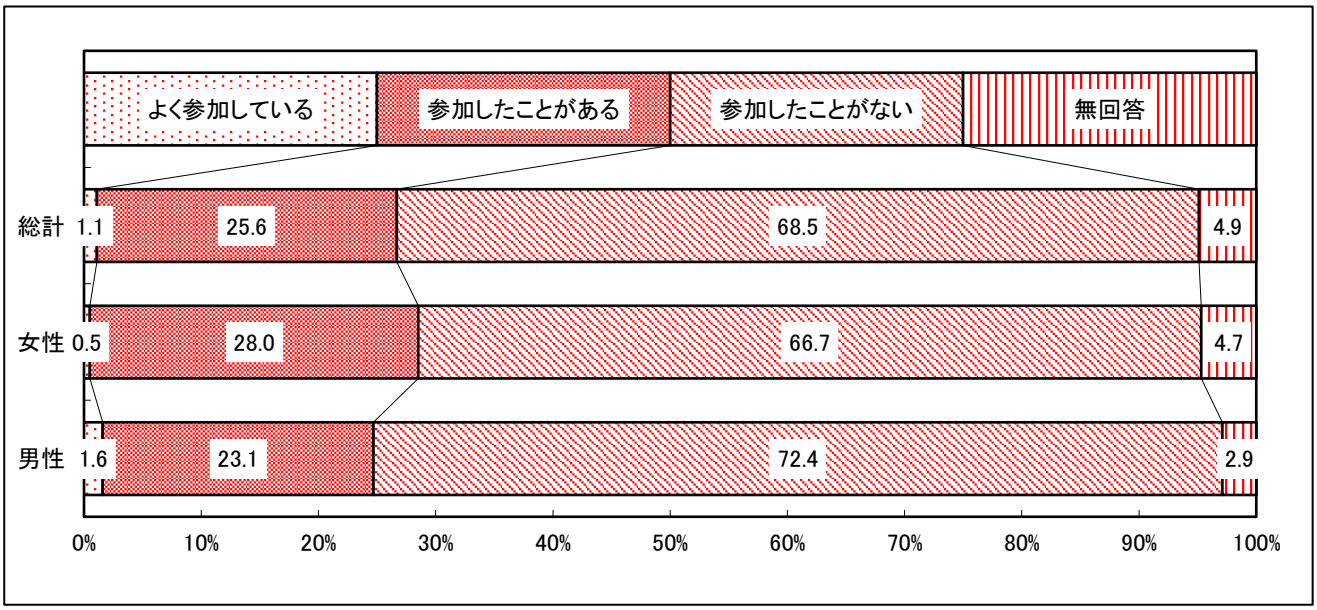
前回調査と比較してみると，「よく参加している」・「参加したことがある」が26.7%から19.8%と6.9ポイント減少している。女性においては，「参加したことがない」が66.7%から78.1%と11.4ポイントも増加している。

年代別に見ると，70歳以上男性を除く50歳以上の男女は「よく参加している」「参加したことがある」方が20%を超えているが，18歳～40歳代という若い世代は参加をしていない方が多くなっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



【平成30年度調査】　ｎ＝742

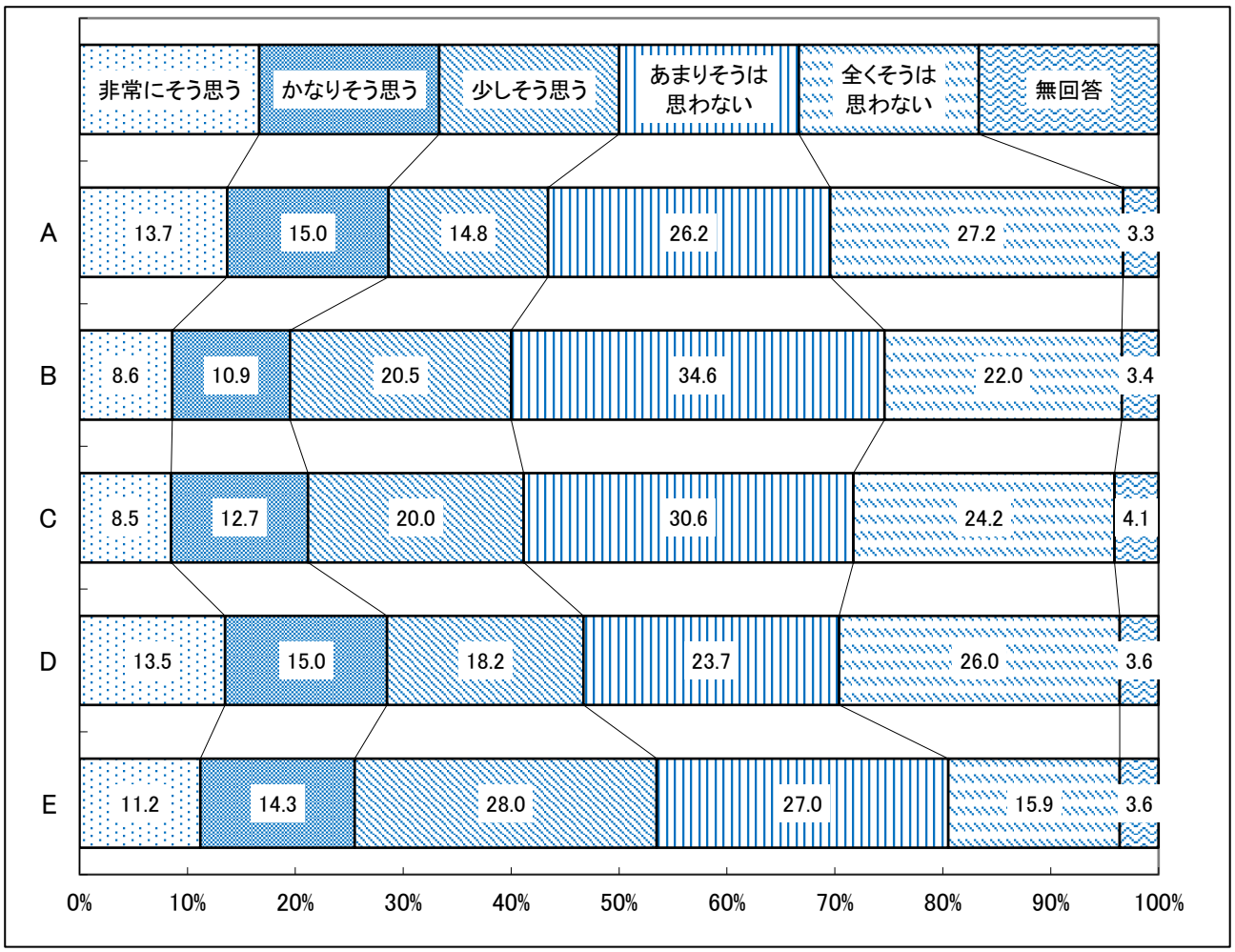


【問２３】あなたは，次にあげるようなことが，学校教育での男女平等意識の推進を妨げることになると思いますか。

学校教育での男女平等意識の推進を妨げる事項について，「非常にそう思う」「かなりそう思う」「少しそう思う」という「そう思う」傾向が最も多かったのは「Ｅ 男らしく女らしくふるまうように言うこと」の53.5%となっている。

逆に，「あまりそうは思わない」「全くそうは思わない」という「そう思わない」傾向が最も多かったのは「Ｂ 名簿，整列，点呼など男女別になっていること」で56.6%となっているとともに，「Ｃ ランドセルや学習用具など，男女の色分けがされていること」も54.8%と高くなっている。

令和６年度調査】 ｎ＝615



Ａ 性別により進路指導をすること（例：男子は理系，女子は文系，就職指導で女子の職種を限定するなど）

Ｂ 名簿・整列・点呼などで男女別になっていること（例：男子が先，女子が後）

Ｃ ランドセルや学用用具など，男女の色分けがされていること

Ｄ 生徒会や学級委員等の選出を性別により固定化していること（例：委員長は男子，副委員長は女子）

Ｅ 「男らしく」「女らしく」ふるまうように言うこと

A　性別により進路指導をすること

「全くそうは思わない」が27.2%と最も多く,「あまりそうは思わない」を合わせると53.4%である。「非常にそう思う」・「かなりそう思う」・「少しそう思う」を合わせた「思う傾向（以下同じ。）」と，「あまりそうは思わない」・「全くそうは思わない」を合わせた「思わない傾向（以下同じ。）に分けると４対５の割合になっている。

男女別に見ると，男性が「あまりそうは思わない」が29.2%と最も多くなっており，女性では「全くそうは思わない」が28.1%と最も多くなっている。

年代別に見ると，18～29歳女性は「思う傾向」が72.3%と最も多いが，70歳以上女性は「思わない傾向」が63%と最も多く，若い世代と高齢世代とで意識の差が見受けられる。

B　名簿，整列，点呼など男女別になっていること

「あまりそうは思わない」が34.6%と最も多く,「全くそうは思わない」を合わせると過半数を超えている。

男女別に見ても，男女ともに「あまりそうは思わない」が最も多くなっており，男性では「全くそうは思わない」を合わせると約６割となっている。

年代別に見ると，18～29歳男性では,「あまりそうは思わない」が50.0%と最も高く， 60歳代男性でも「あまりそうは思わない」が47.1%と高くなっている。

また，30歳代女性では,「全くそうは思わない」が43.5%と最も高くなっている。

C　ランドセルや学習用具など，男女の色分けがされていること

「あまりそうは思わない」が30.6%と最も多い。次いで「全くそうは思わない」が24.2%となっている。

男女別に見ても，男女ともに「あまりそうは思わない」が最も多くなっているが，次いで「全くそうは思わない」が続いている。

年代別に見ると，18～29歳女性が「思う傾向」が66.7%と最も高くなっている。逆に,「思わない傾向」が最も高くなっているのは60歳代男性の64.7%となっている。男女ともに高齢世代のほうが「思わない傾向」が高くなっている。

D　生徒会や学級委員等の選出を性別により固定化していること

「全くそうは思わない」が26.0%と最も多い。次いで「あまりそうは思わない」が23.7%となっている。

男女別に見ても，男女ともに「全くそうは思わない」が最も多くなっているが，次いで「あまりそうは思わない」が続いている。

年代別に見ると，女性は60歳代と70歳代以上を除いて「思う傾向」の割合が多い。男性は50歳代を除いて「思わない傾向」の割合が多くなっている。

E　「男らしく」「女らしく」ふるまうように言うこと

「少しそう思う」が28.0%と最も多い。「思う傾向」が53.5%と過半数を超えている。

男女別に見ると，男性は「あまりそうは思わない」の30.8%が最も多く，次いで「少しそう思う」の27.7%，女性は「少しそう思う」が27.2%と最も多く，次いで「あまりそうは思わない」の25.1%となっている。

年代別に見ると，18～29歳女性では「思う傾向」が７割を超えている。一方，70歳代女性及び60歳代男性では「思わない傾向」が高くなっている。

【問２４】近年，セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）が問題となっています。職場や学校，地域で次のようなことをされた経験はありますか。またそうしたことを見聞きしたことがありますか。

すべての項目で「経験がある」との回答がある。

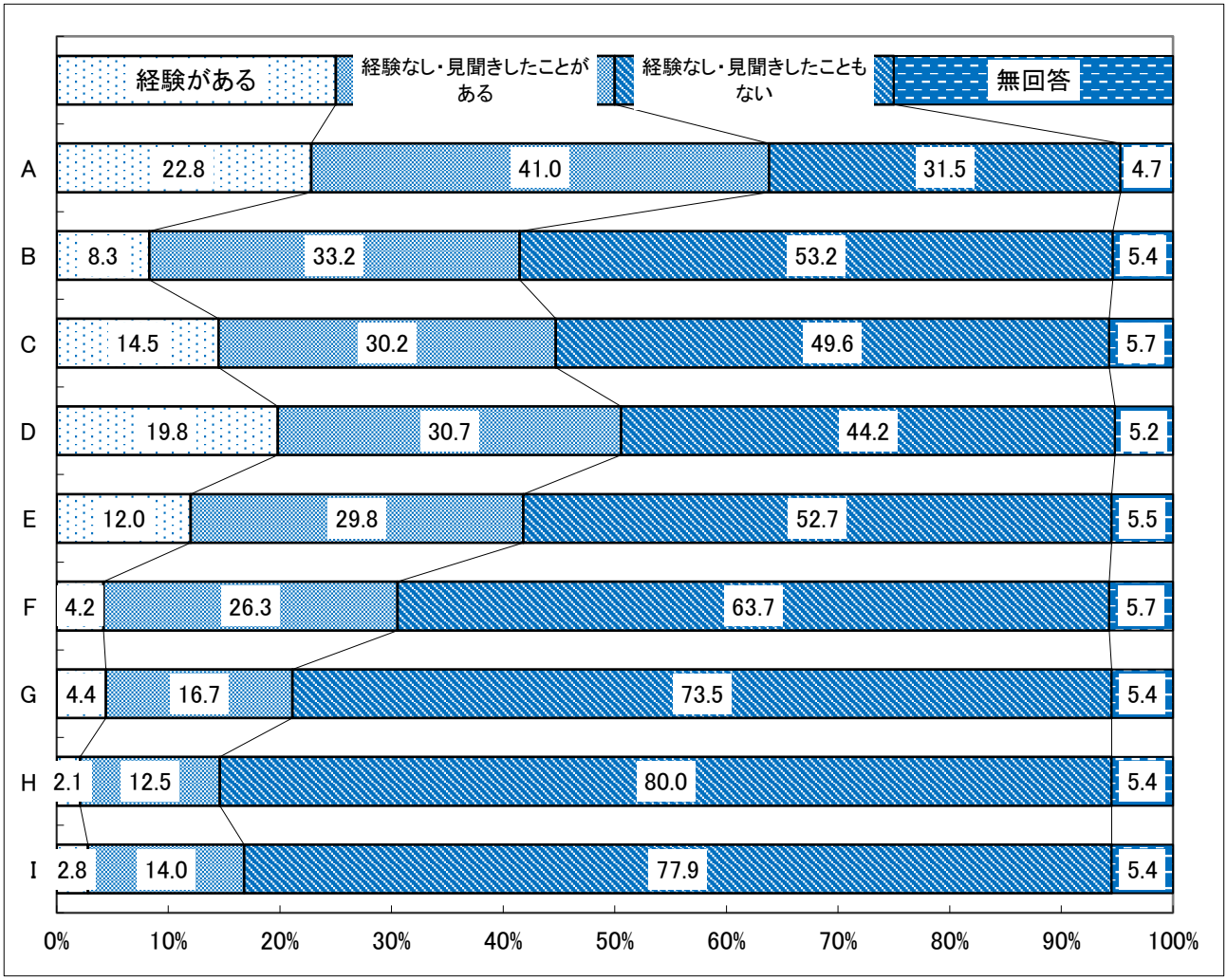
割合の多少にかかわらず，悩み，傷ついた人がいるということは，事実であり重要課題である。

「経験がある」「経験はないが見聞きしたことがある」が最も多い項目は，「A　容姿・年齢・結婚などについて，あれこれと話題にされた」である。次いで，「D　性的な冗談やひわいなことを話題にされた」，「C　宴会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要された」，「E　異性にわざと体をさわられた」，「B　からだをじろじろ見られた」と続いている。

男女別に見ると，「経験がある」と答えた割合は，「Ｉ　性的なうわさを流された」以外は，女性がすべて多くなっている。

年代別に見ると，ほとんどの項目で「経験がある」と回答が多いのは女性となっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



A　容姿・年齢・結婚などについて，あれこれと話題にされた
B　からだをじろじろ見られた
C　宴会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要された
D　性的な冗談やひわいなことを話題にされた
E　異性にわざと体をさわられた
F　しつこく交際を求められた
G　性的な画像，動画を見せてきた（見ているところを目撃した）
H　地位を利用して性的な関係を迫られた
I　性的なうわさを流された

A　容姿・年齢・結婚などについて，あれこれと話題にされた

「経験はないが，見聞きしたことがある」が41.0％と最も多い。
「経験がある」「経験はないが，見聞きしたことがある」を合わせた「経験等がある方（以下同じ。）」が６割を超えている。また，「経験も，見聞きしたこともない」という「経験等がない方（以下同じ。）」も３割を超えている。
男女別に見ると，「経験等がある方」と，「経験等がない方」の差が大きく，女性は37.0ポイント，男性は28.0ポイント「経験等がある方」が多くなっている。
年代別に見ると，「経験等がある方」は18歳以上60歳代までの女性は７割を超えている。40歳代男性も男性世代の中で唯一７割を超えている。

B　からだをじろじろ見られた

「経験も見聞きしたこともない」が53.2％と最も多い。
男女別に見ると，男女それぞれ「経験も見聞きしたこともない」が最も高くなっているが，女性については「経験等がある方」が46.4％，「経験等がない方」が50.3％と差があまりないのに対し，男性では「経験等がある方」が35.6％，「経験等がない方」が58.1％と差が大きくなっている。
年代別に見ると，30歳以上60歳代までの女性は「経験等がある方」が，「経験等がない方」を上回っている。男性は，40歳代のみ「経験等がある方」が，「経験等がない方」を上回っている。

C　宴会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要された

「経験も見聞きしたこともない」が49.6％と最も多い。
男女別に見ると，女性は「経験等がある方」が「経験等がない方」を上回っているのに対し，男性は「経験等がある方」が「経験等がない方」を下回っている。
年代別に見ると，40歳以上60歳代までの女性は「経験等がある方」が，「経験等がない方」を上回っており，男性では60歳代が唯一「経験等がある方」が，「経験等がない方」を上回っている。

D　性的な冗談やひわいなことを話題にされた

「経験も見聞きしたこともない」が44.2％と最も多い。
男女別に見ると，男女それぞれ「経験も見聞きしたこともない」が最も高くなっているが，女性では「経験がある」が25.1％となっており，男性を11.3ポイント上回っている。
年代別に見ると，男女ともに18～29歳と70歳以上の方が，「経験等がない方」が「経験等がある方」を上回っている。50歳代女性は「経験等がある方」が71.4％と他の年代より突出して高くなっている。

E　異性にわざと体をさわられた

「経験も見聞きしたこともない」が52.7％と最も多い。
男女別に見ると，男女それぞれ「経験も見聞きしたこともない」が最も高くなっているが，女性では「経験がある」が19.8％となっており，男性を17.4ポイント上回っている。
年代別に見ると，30歳以上では女性のほうが「経験等がある方」が多くなっており，30歳以上60歳代女性は「経験等がある方」が「経験等がない方」を上回っており，他の年代と逆転している。

F　しつこく交際を求められた

「経験も見聞きしたこともない」が63.7%と最も多い。
男女別に見ると，男女それぞれ「経験も見聞きしたこともない」が最も高くなっている。
女性では「経験等がある方」が33.1%となっているのに対し，男性では「経験等がある方」が26.9%となっており開きが生じている。
年代別に見ると，50歳代女性を除いて「経験等がない方」が「経験等がある方」を上回っており，50歳代女性を除く全ての年代で「経験等がない方」と「経験等がある方」の差が10%以上となっている。

G　性的な画像，動画を見せてきた（見ているところを目撃した）

「経験も見聞きしたこともない」が73.5%と最も多い。
男女別を見ても，「経験も見聞きしたこともない」が最も多くなっているが，女性では「経験等がある方」が17.7%となっているのに対し，男性では「経験等がある方」が25.6%となっており開きが生じている。
年代別に見ると，経験等がない方がすべての年代において６割を超えている。

H　地位を利用して性的な関係を迫られた

「経験も見聞きしたこともない」が80.0%と最も多い。
男女別を見ても，「経験も見聞きしたこともない」が最も多くなっており割合的にも同じ傾向にある。
年代別に見ると，経験等がない方がすべての年代において７割を超えている。
特に，18～29歳女性と30歳代男性は「経験等がない」と回答した方が９割を超えている。

I　性的なうわさを流された

「経験も見聞きしたこともない」が77.9%と最も多い。
男女別を見ても，「経験も見聞きしたこともない」が最も多くなっており割合的にも同じ傾向にある。
年代別に見ると，経験等がない方がすべての年代において７割を超えている。

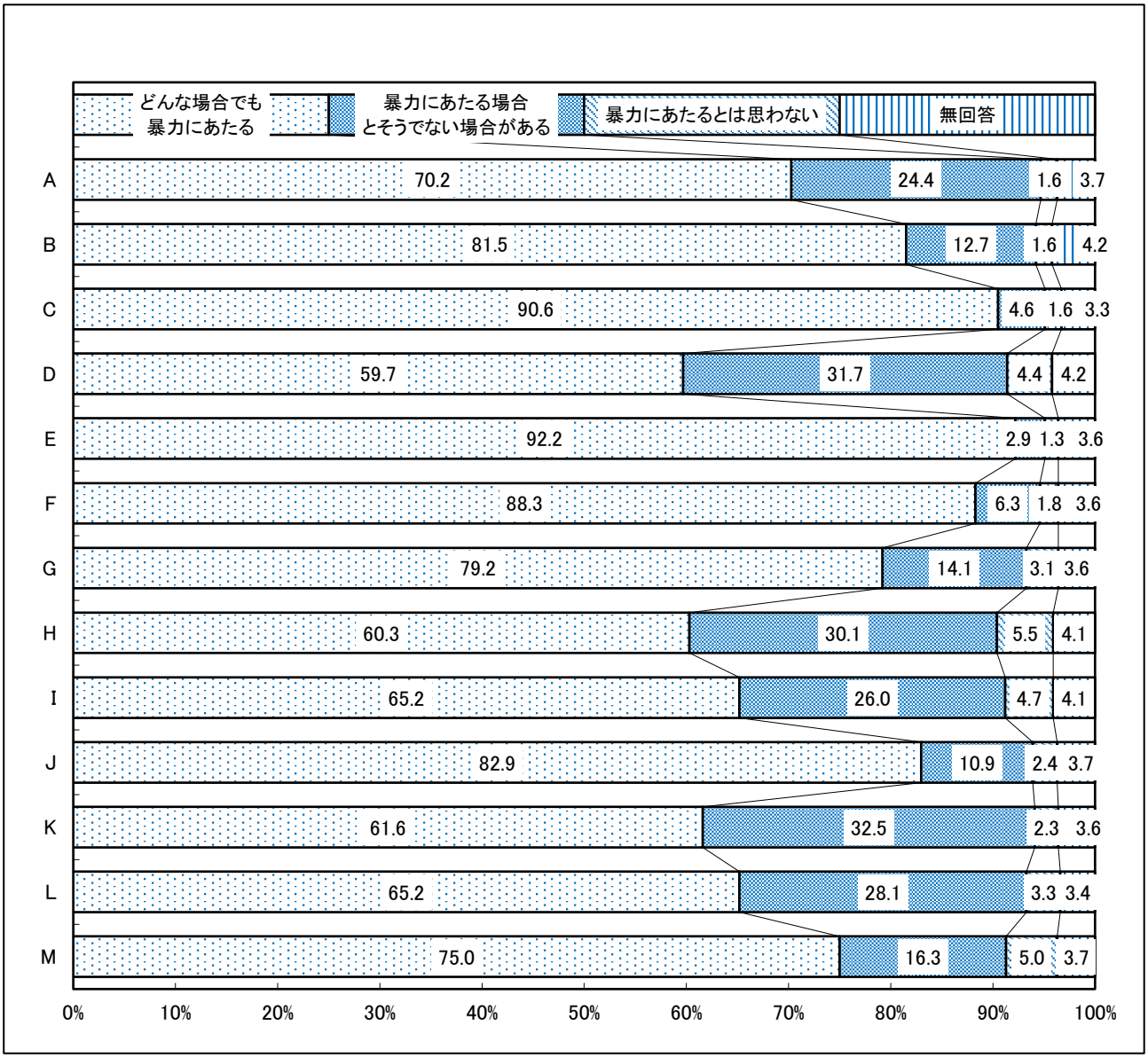
【問２５】あなたは次のようなことが親しい間柄（夫・妻，事実婚のパートナー，恋人，元配偶者，元パートナー，元恋人）の間で行われた場合，それを暴力だと思われますか。

配偶者等からの暴力に対する認識については，「どんな場合でも暴力にあたる」とする回答が全ての項目で５割を超えている。

最も高い項目が「Ｅ　刃物などを突き付けて，おどす」が92.2％となっており，次いで「Ｃ　身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」が90.6％，「Ｆ　嫌がっているのに性的な行為を強要する」が88.3％と続いている。

「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」については，最も高かった項目は「Ｋ　大声でどなる」で32.5％，「暴力にあたるとは思わない」が最も高かった項目は「Ｈ　何を言っても長期間無視し続ける」で5.5％となっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



Ａ　平手で打つ
Ｂ　足でける
Ｃ　身体を傷つける可能性のあるものでなぐる
Ｄ　なぐるふりをして，おどす
Ｅ　刃物などを突きつけて，おどす
Ｆ　嫌がっているのに性的な行為を強要する
Ｇ　見たくないのに，性的な画像，動画，雑誌等を見せる
Ｈ　何を言っても長期間無視し続ける
Ｉ　電話，メールなどを細かく監視する
Ｊ　食事を与えられない
Ｋ　大声でどなる
Ｌ　常に命令口調で話す
Ｍ　家に生活費を入れない

A　平手で打つ

「どんな場合も暴力にあたると思う」が70.2％で最も高い。
男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっている。
年代別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」については，18～29歳男性が87.5％と最も高く，30歳代男性を除いて，すべての年代で６割を超えている。
30歳代男性では全年代の中で唯一「暴力にあたるとは思わない」が10％を超えている。

B　足でける

「どんな場合も暴力にあたると思う」が81.5％で最も高い。
男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっており，男女ともに８割を超えている。
年代別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」については 40歳代女性が90.9％と最も高く，逆に最も少ないのは30歳代男性の64.7％となっている。この30歳代男性については全年代の中で「暴力にあたるとは思わない」が最も高く11.8％となっている。

C　身体を傷つける可能性のあるものでなぐる

「どんな場合も暴力にあたると思う」が90.6％で最も高い。
男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっており，男女ともに９割を超えている。
年代別に見ると，どの年代も「どんな場合も暴力にあたると思う」が高い中，女性は70歳代が同性の中で最も低く84.3％，男性は30歳代が同性の中で最も低く82.4％となっている。

D　なぐるふりをして，おどす

「どんな場合も暴力にあたると思う」が59.7％で最も高い。
男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっており，女性が６割，男性が５割を超えている。
年代別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」については 40歳代男性が85.0％と最も高く，逆に最も少ないのは70歳代男性の39.0％となっている。
また，70歳以上男性では「暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う」が「どんな場合も暴力にあたる」を上回っている。

E　刃物などを突き付けて，おどす

「どんな場合も暴力にあたると思う」が92.2％で最も高く，他の項目と比べても最も高くなっている。
男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっており，男女ともに９割を超えている。
年代別に見ると，どの年代も「どんな場合も暴力にあたると思う」が高く，１番低いのは70歳以上女性の83.5％となっている。
「暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う」については18～29歳男性が12.5％と最も高くなっている。

F　嫌がっているのに性的な行為を強要する

「どんな場合も暴力にあたると思う」が88.3%で最も高い。

男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっている。

年代別に見ると，どの年代も「どんな場合も暴力にあたると思う」が高い中，男女ともに70歳以上の数字が同性の中でも最も低くなっており，女性は80.3%，男性は84.8%となっている。

G　見たくないのに，性的な画像，動画，雑誌等を見せる

「どんな場合も暴力にあたると思う」が79.2%で最も高い。

男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっているが，女性が84.3%に対し，男性は73.1%と11.2ポイントの差が生じている。

年代別に見ると，70歳以上男性を除いて「どんな場合も暴力にあたると思う」が７割を超えている。70歳以上の男性は62.9%と最も低い。

H　何を言っても長期間無視し続ける

「どんな場合も暴力にあたると思う」が60.3%で最も高い。

男女別に見ると，男女ともに「どんな場合も暴力にあたると思う」が約６割，次ぎに「暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う」が約３割となっている。

年代別に見ると，18～29歳男性を除いて「どんな場合も暴力にあたると思う」が高い。18～29歳男性は37.5%と最も低く，「暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う」が50.0%となっている。18～29歳女性も，「どんな場合も暴力にあたると思う」が同性の中で最も低く50.0%，「暴力にあたる場合と，そうでない場合とがあると思う」が44.4%と，他の世代に比べて「暴力にあたる場合と，そうでない場合とがあると思う」の割合が高くなっている。

I　電話，メールなどを細かく監視する

「どんな場合も暴力にあたると思う」が65.2%で最も高い。

男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっているが，次ぎの「暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う」では女性は22.5%に対し，男性は30.4%と7.9ポイント多くなっている。

年代別に見ると，どの年代も「どんな場合も暴力にあたると思う」が高い中，18～29歳男性については「暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う」が「どんな場合も暴力にあたる」を上回っている。

J　食事を与えられない

「どんな場合も暴力にあたると思う」が82.9%で最も高い。

男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっている。

年代別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」については，70歳以上女性が75.6%と最も低い。男性は60歳代が76.5%と同性の中では最も低くなっている。

K　大声でどなる

「どんな場合も暴力にあたると思う」が61.6％で最も高い。

男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっているが，女性が67.5％に対し，男性は55.7％と11.8ポイントの差が生じている。

年代別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が高い。50歳以上60歳代の男性については，「暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う」も40％程度の高い割合となっており，他の年代に比べて高くなっている。

L　常に命令口調で話す

「どんな場合も暴力にあたると思う」が65.2％で最も高い。

男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっているが，女性が70.4％に対し，男性は58.1％と12.3ポイントの差が生じている。

年代別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高かったのは18～29歳女性で83.3％となっている。

また，50歳代男性と70歳以上男性については「暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う」も４割を超えている。

M　家に生活費を入れない

「どんな場合も暴力にあたると思う」が75.0％で最も高い。

男女別に見ると，「どんな場合も暴力にあたると思う」が男女とも最も高くなっている。

年代別に見ると，どの年代も「どんな場合も暴力にあたると思う」が高い中，18～29歳男性については「暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う」が「どんな場合も暴力にあたる」を上回っている。

【問２６】あなたはこれまでに，あなたの配偶者・パートナー・恋人（元配偶者・元パートナー・元恋人も含む）から次のようなことをされたことがありますか。

配偶者等からの暴力について，各項目で最も高いものとしては，何度もあった暴力は，「Ｂ　精神的暴力」で4.4%，１，２度あった暴力は「Ａ　身体的暴力」で9.4%，まったくなかったのは「Ｃ　性的暴力」で87.5%となっている。

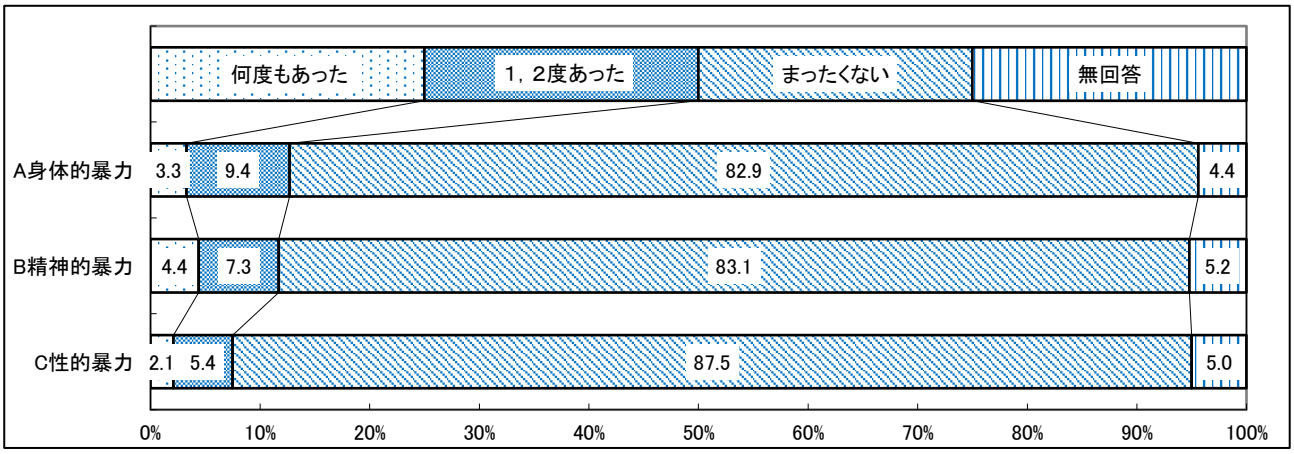
項目別に「何度もあった」「１，２度あった」を合わせてみると（以下「経験等がある方」という。），「Ａ 身体的暴力」は12.7%，「Ｂ　精神的暴力」は11.7%，「Ｃ　性的暴力」は7.5%と大体９人に１人が経験していることが分かる。

男女別に見ると，「Ａ　身体的暴力」の「経験等がある方」は女性が16.5%に対し男性が7.9%，「Ｂ　精神的暴力」の「経験等がある方」は女性が14.5%に対し男性が8.7%，「Ｃ　性的暴力」の「経験等がある方」は女性が10.1%に対し男性が4.4%となっており，すべての項目で男性より女性の方に被害経験が多く，「Ａ　身体的暴力」と「Ｂ　精神的暴力」については，前回調査より男女の差が大きくなっている。

年代別に見ると，経験等がある方については「Ａ 身体的暴力」は70歳以上女性が多く，「Ｂ　精神的暴力」は30歳代女性が多く，「Ｃ　性的暴力」については40歳代女性が多くなっている。

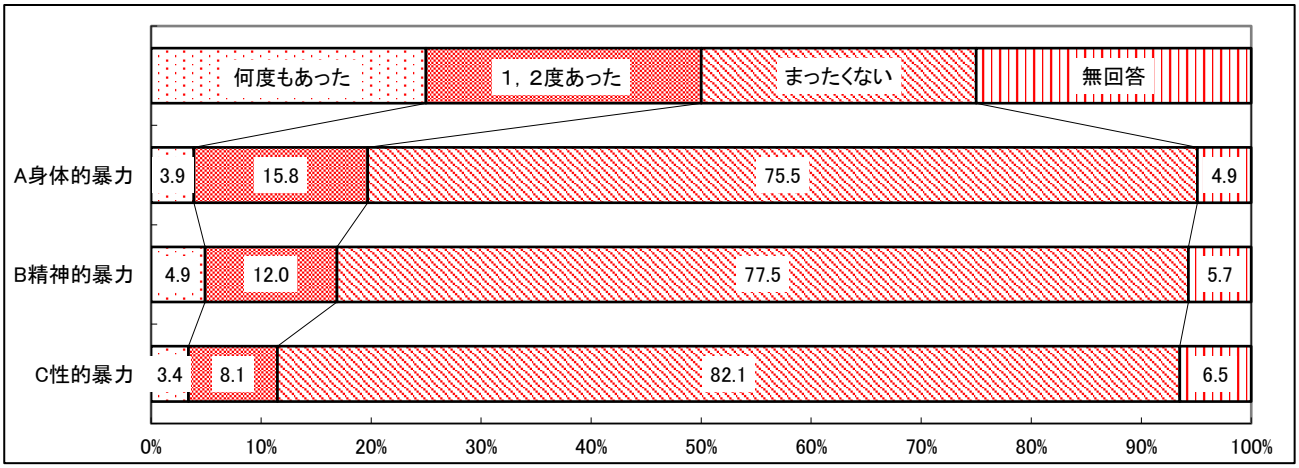
前回調査と比較してみると，まったくない割合が身体的暴力において7.4ポイント高くなっているとともに，経験等がある方については「Ａ 身体的暴力」が7.0ポイントの減，「Ｂ　精神的暴力」が5.2ポイントの減，「Ｃ　性的暴力」が4.0ポイントの減となっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



「経験等がある方」：A身体＝12.7%，B精神＝11.7%，C性的＝7.5%

【平成30年度調査】　ｎ＝742



「経験等がある方」：A身体＝19.7%，B精神＝16.9%，C性的＝11.5%

【問２７】あなたはそのことを，だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。

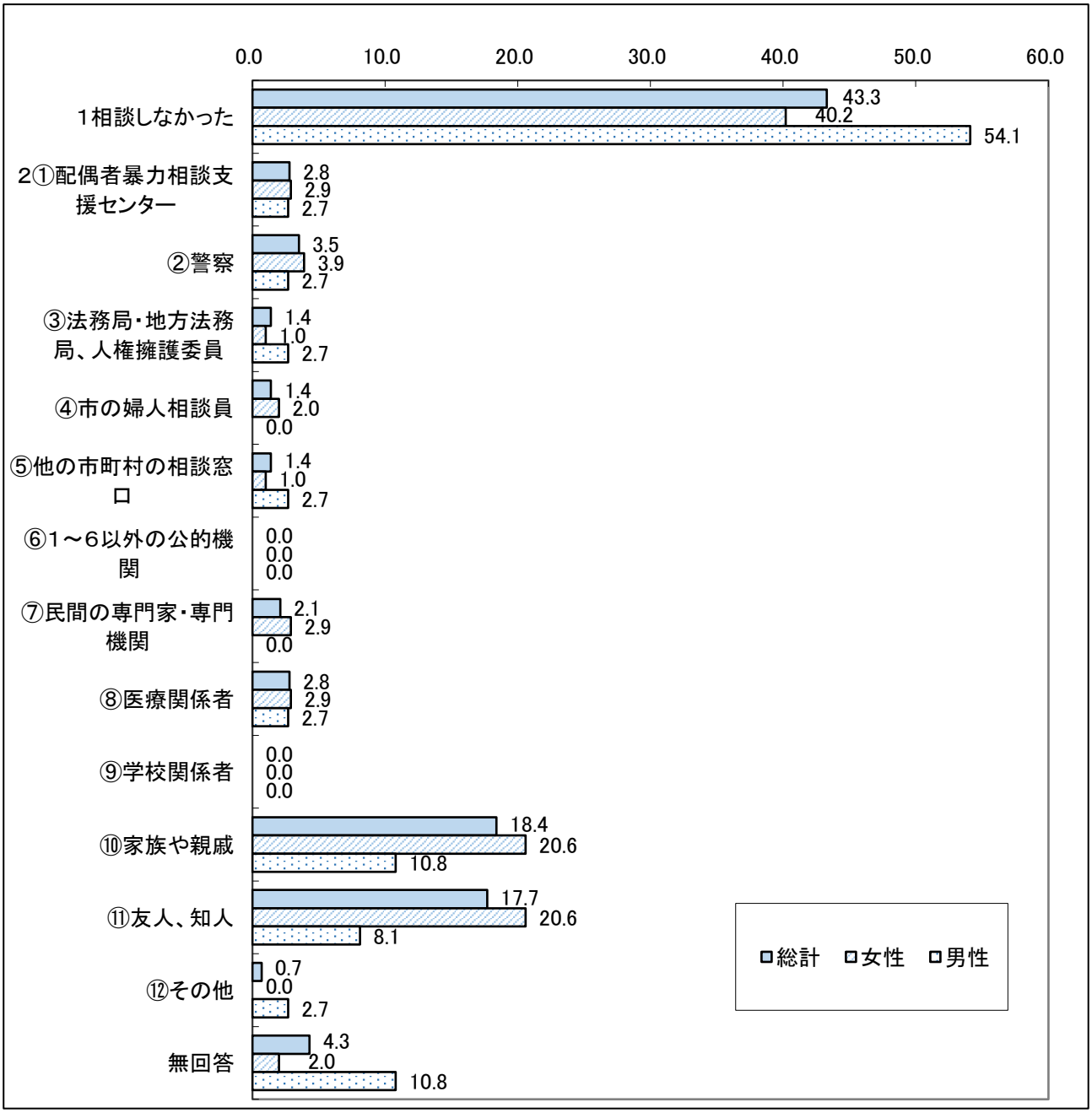
配偶者等からの暴力を受けたときの相談先については，「どこにも，だれにも相談しなかった」が43.3％と最も多く，男女別に見ると女性より男性が13.9％高くなっている。次いで，「家族や親戚に相談した」が18.4％「友人・知人に相談した」が17.7％となっている。

男女別に見ると，相談をしたことがある女性で最も多いのは「家族や親戚」「友人・知人」でそれぞれ20.6％，相談をしたことがある男性で最も多いのは「家族や親戚」で10.8％となっている。

年代別に見ると，「どこにも，だれにも相談しなかった」割合が１番高いのは50歳代男性の80.0％となっている。

また，相談をしたことがある項目で多いのが「友人・知人に相談した」・「家族や親戚に相談した」であるが，女性は18～29歳を除き「家族や親戚」だけでなく「知人・友人」にも多く相談している。それに対し，男性は18～29歳と70歳以上のみが「知人・友人」にも相談している。

【令和６年度調査】　ｎ＝141



【問２８】どこにも，誰にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。

暴力を受けたとき，どこにも，だれにも相談しなかった（できなかった）理由については，「自分さえがまんすればよいと思った」が14.3%と最も多く，次いで「相談しても無駄だと思った」が13.6%，「相談するほどのことではないと思った」が12.3%と続く。

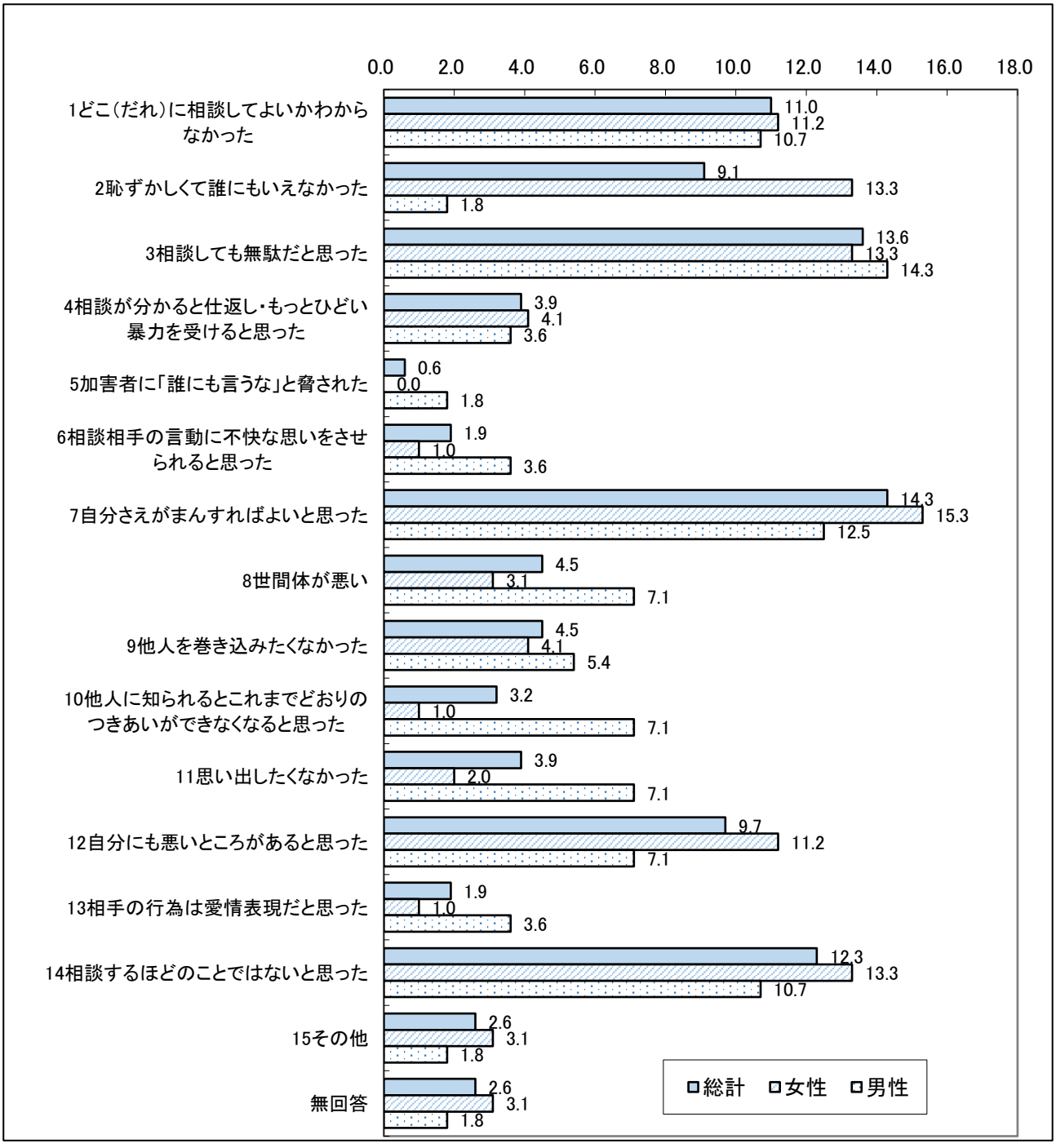
男女別に見ると，女性で最も高いのが「自分さえがまんすればよいと思った」で15.3%，男性で最も高いのが「相談しても無駄だと思った」14.3%となっている。

また，男女間で開きが最も多いのが「恥ずかしくて誰にもいえなかった」で11.5%の開きがある。

年代別に見ると，女性で最も多い「自分さえがまんすればよいと思った」については30歳代が最も多く33.3%となっている。

男性で最も多い「相談しても無駄だと思った」については60歳代が最も多く22.2%となっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝154



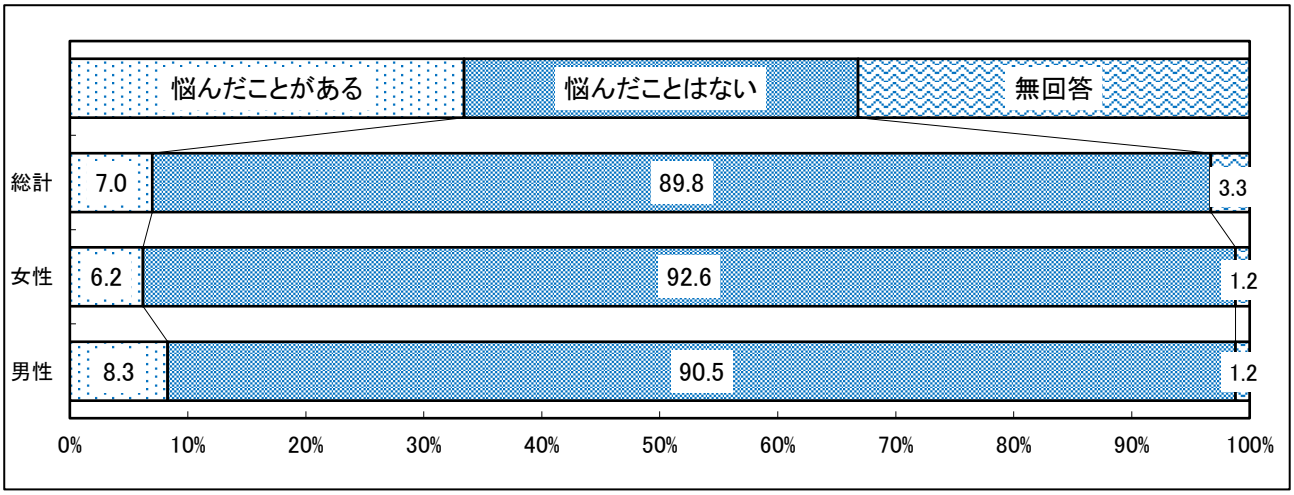
【問２９】あなたは，今までに自分の身体の性，心の性または性的指向（恋愛や性愛の対象がどのような性別に向いているか）に悩んだことがありますか。

自分の身体の性，心の性または性的指向についての悩みについては，「悩んだことはない」が89.8％と最も多く，「悩んだことがある」は7.0％となっている。

男女で比較してみても，ほぼ同程度の傾向にある。

年代別に見ると，「悩んだことはない」が最も少ないのは18～29歳女性で77.8％，一方，最も多いのが18～29歳男性で100％となっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



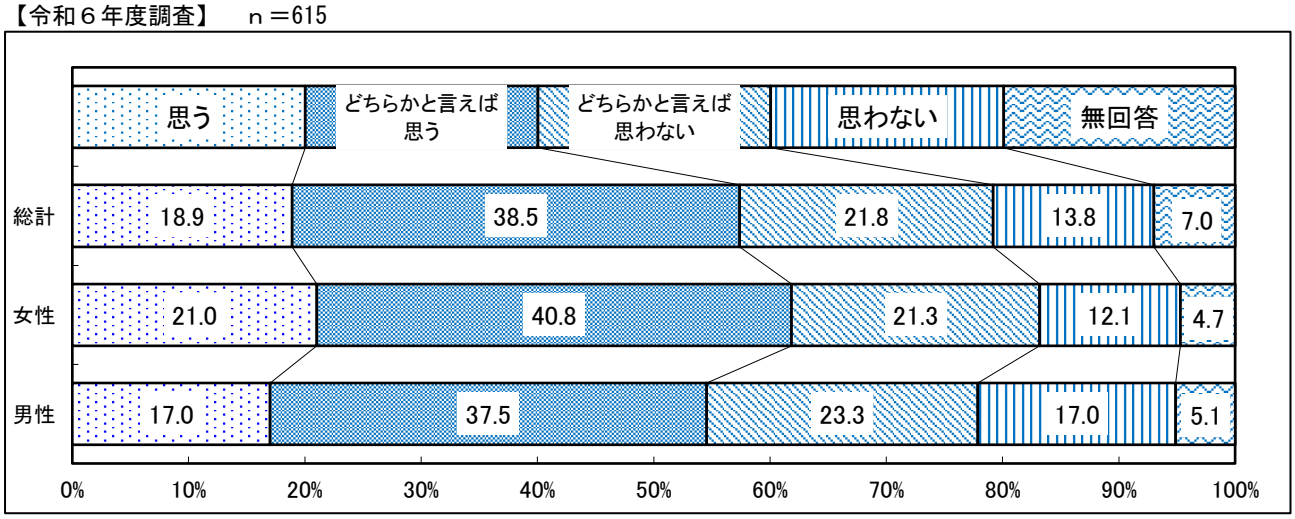
【問３０】現在，LGBT（同姓が好きな人や，自分の身体や心の性に違和感を覚える人，または性同一性障害などの人々のこと。以下同じ。）の方々にとって，偏見や差別などにより，生活しづらい社会だと思いますか。

LGBTの方々にとって偏見や差別などにより，生活しづらい社会だと思うかについては，「どちらかと言えば思う」が38.5％と最も多く，次いで「思う」が18.9％となっている。

男女で比較してみても，ほぼ同程度の傾向にある。

年代別に見ると，「思う傾向」が最も高いのは18～29歳女性で88.9％，「思わない傾向」が最も高いのは70歳以上男性で48.6％となっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



「そう思う傾向」：57.4％　「思わない傾向」：35.6％

【問３１】LGBTの方々に対する偏見や差別をなくす，または生活しやすくするためにはどのような対策が必要だと思いますか。

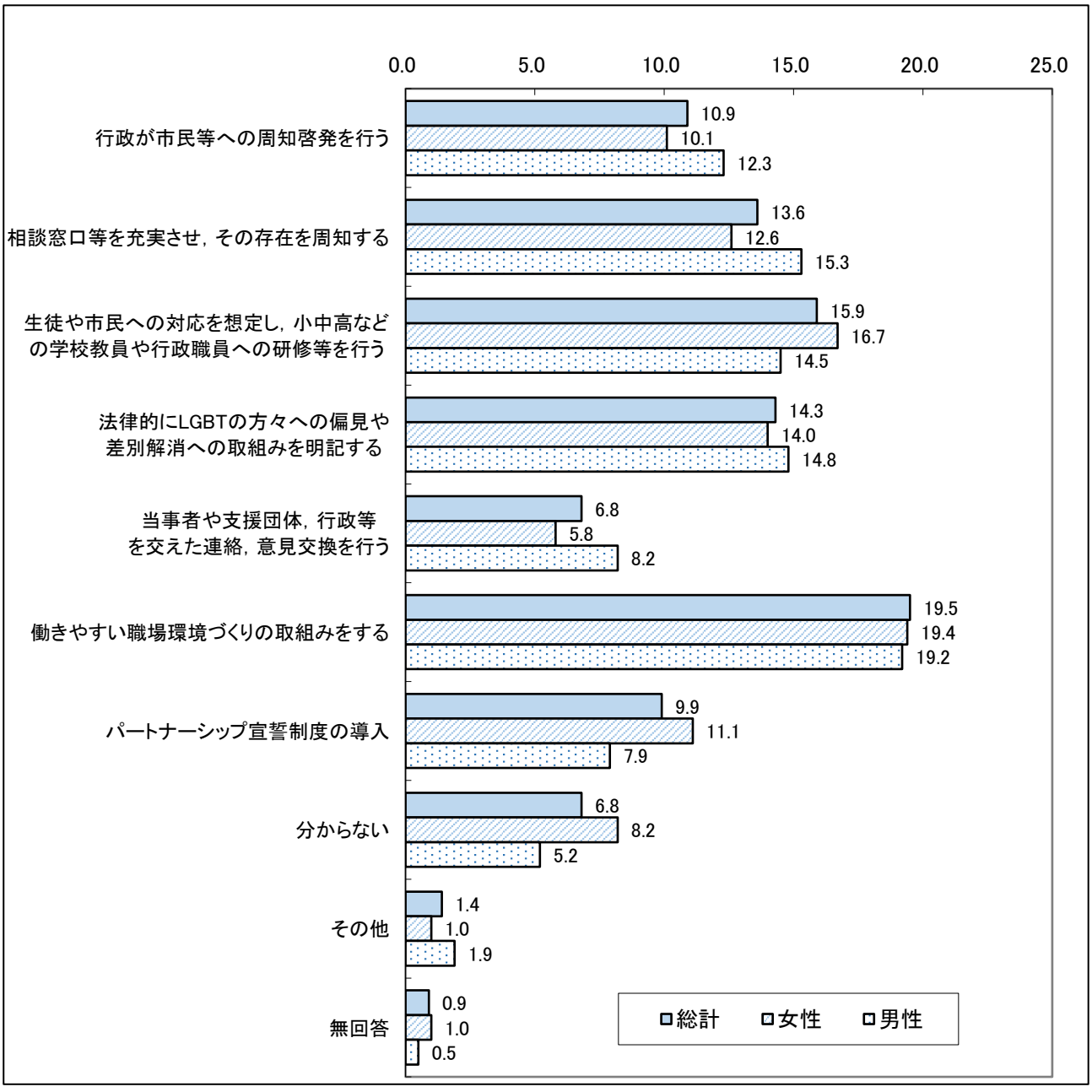
LGBTの方々に対する偏見や差別をなくす，または生活しやすくするためにはどのような対策が必要かについては，「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」が19.5%と最も高く，次いで「生徒や市民への対応を想定し，小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」が15.9%，「法律的にLGBTの方々への偏見や差別解消への取組みを明記する」が14.3%となっている。

男女別に見てみると，男女ともに「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」が最も高く，女性が19.4%，男性が19.2%となっている。

また，男女間で最も差があるのが「パートナーシップ宣誓制度の導入」で女性が11.1%，男性が7.9%となっており，3.2ポイントの差が生じている。

年代別に見ると，男女ともにすべての年代において高くなっているのが，「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」となっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝868



【問32】あなたは日常生活で外国の方と接する機会がありますか。

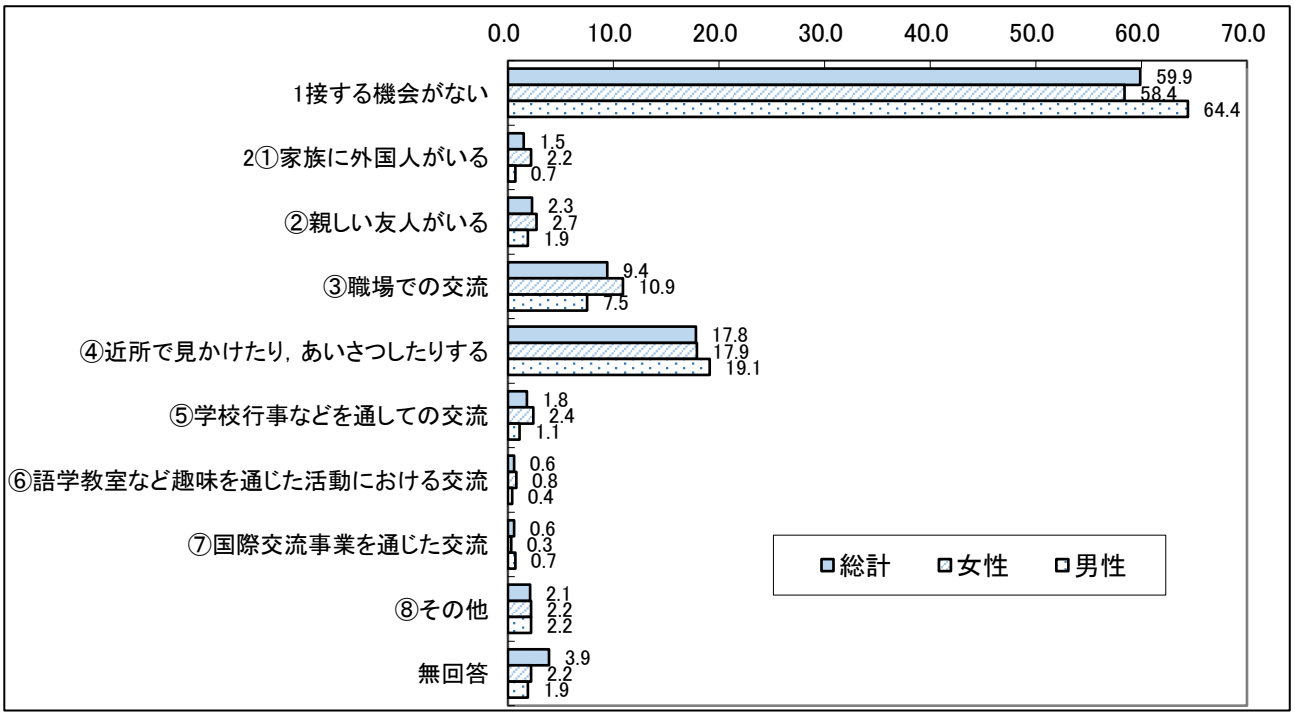
日常生活で外国の方と接する機会があるかについては，「接する機会がない」が59.9％と最も高く，次いで「近所で見かけたり，あいさつしたりする」が17.8％，「職場での交流」が9.4％となっている。

男女で比較してみても，ほぼ同程度の傾向にある。

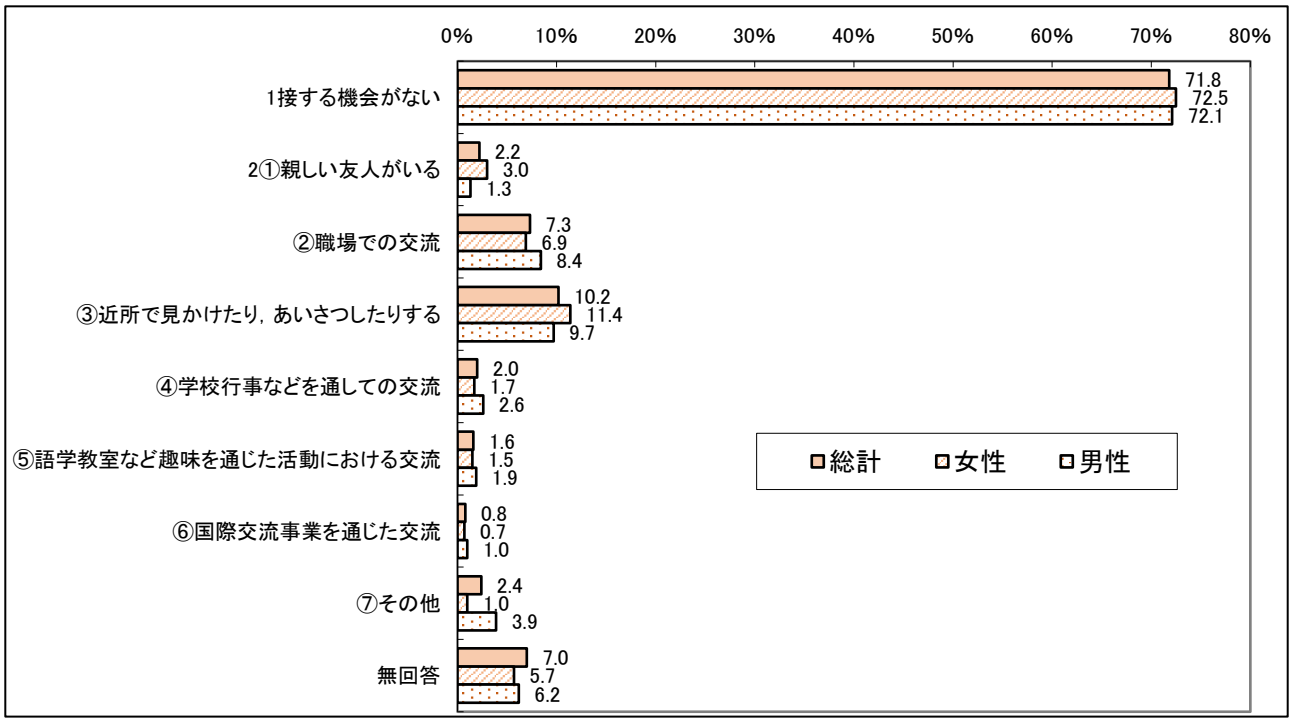
前回調査と比較してみると，「接する機会がない」が71.8％から59.9％と11.9ポイント減少しており，外国の方と接する機会が増えている。

年代別に見ると，「機会がない」が最も高いのは30歳代男性で77.8％となっており，逆に最も低いのは40歳代女性で40.8％となっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



【平成 30 年度調査】　ｎ＝742



【問３３】あなたは次のA～Gについてどう思いますか，

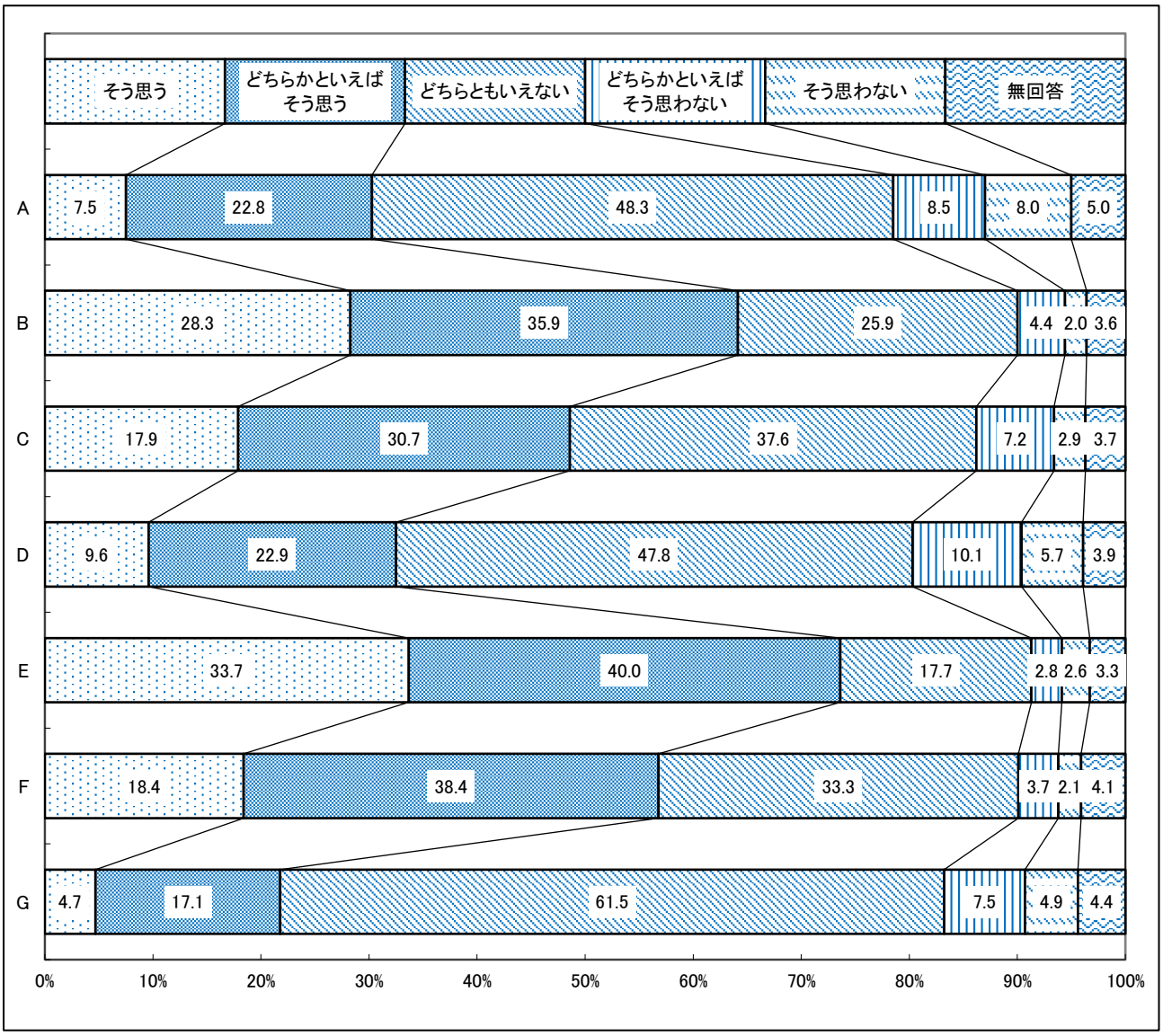
多文化共生関係をどう思うかについて，「そう思う」が最も多かったのは「E 日本に住む外国人は日本の習慣，ルールを守って生活するべきだ」で33.7%となっている。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「思う傾向」でもEが最も多い。

一方，「そう思わない」が最も多いのが「A 外国人に親しみを感じる」で8.0%であり，「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「思わない傾向」でもAが最も多くなっている。

「どちらともいえない」が最も多かったのは「G 南九州市は外国人にとって生活しやすいまちだ」で61.5%となっている。

【令和６年度調査】　ｎ＝615



A　外国人に親しみを感じる
B　南九州市に来る外国人観光客が増えることは好ましいことだ
C　南九州市で働く外国人が増えることは好ましいことだ
D　隣近所に住む外国人が増えることは好ましいことだ
E　日本に住む外国人は日本の習慣，ルールを守って生活するべきだ
F　南九州市役所は多文化共生の地域づくりを積極的に取り組むべきだ
G　南九州市は外国人にとって生活しやすいまちだ

A　外国人に親しみを感じる

「どちらともいえない」が48.3%と最も多い。男女別に見ると，男女ともに「どちらともいえない」が多く，女性では５割を超えている。

年代別に見ると，18～29歳女性は「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」という「思う傾向（以下同じ。）」が16.7%，「どちらかといえばそう思わない」・「そう思わない」という「思わない傾向（以下同じ。）」が22.3%と他の年代に比べて大きな差がない。

また，40歳代男性は，「思う傾向」が最も高く50.0%となっている。

B　南九州市に来る外国人観光客が増えることは好ましいことだ

「どちらかといえばそう思う」が35.9%と最も多い。男女別に見ても，ほぼ同じ傾向にある。

年代別に見ると，「思う傾向」が最も高いのは86.9%で30歳代女性が最も高く，逆に「思わない傾向」が最も高いのは18～29歳男性で12.5%となっている。

C　南九州市で働く外国人が増えることは好ましいことだ

「どちらともいえない」が37.6%と最も多い。男女別に見ると，「思う傾向」が男性の方が4.3ポイント高く，「思わない傾向」についても男性が2.6ポイント高くなっている。

年代別に見ると，「思う傾向」が最も高いのは73.9%で30歳代女性が最も高く，逆に「思わない傾向」が最も高いのは18～29歳男性で25.0%となっている。

D　隣近所に住む外国人が増えることは好ましいことだ

「どちらともいえない」が47.8%と最も多い。男女別に見ても，ほぼ同じ傾向にある。

年代別に見ると，「思う傾向」が最も高いのは52.2%で30歳代女性が最も高く，逆に「思わない傾向」が最も高いのは30歳代男性で35.3%となっている。

E　日本に住む外国人は日本の習慣，ルールを守って生活するべきだ

「どちらかといえばそう思う」が40.0%と最も多い。男女別に見ると，女性では「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を下回っているのに対し，男性では「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を上回っている。

年代別に見ると，「思う傾向」が最も高いのは86.7%で70歳以上男性が最も高く，逆に「思わない傾向」が最も高いのは18～29歳男性で37.5%となっている。

F　南九州市役所は多文化共生の地域づくりを積極的に取り組むべきだ

「どちらかといえばそう思う」が38.4%と最も多い。男女別に見ると，「どちらともいえない」については，女性が男性より6.3ポイント高くなっている。また，「思う傾向」については男性が女性より7.4ポイント高くなっている。

年代別に見ると，「思う傾向」が最も高いのは70.0%で40歳代男性が最も高く，逆に「思わない傾向」が最も高いのは30歳代男性で17.7%となっている。

G　南九州市は外国人にとって生活しやすいまちだ

「どちらとも言えない」が61.5%と最も多い。男女別に見ると，「思わない傾向」は男性の方が7.2ポイント高くなっている。

「思う傾向」が最も高いのは40歳代男性で30.0%となっており，逆に「思わない傾向」が最も高いのは50歳代男性で40.0%となっている。

【問４２】最後に，男女共同参画社会づくりに関することについて，行政に対してどのようなことを望みますか。

【男女共同参画に関する意見】
男女共同参画社会づくり活動について，PR すべきです。PR 活動が低いと思う!!
自治会役員にしても,男性が当然という，なかなか破れない雰囲気がある。それを言い出せない自分が駄目だなぁと思います。40-50 代でも積極的な女性がいらっしゃるのでもったいない。何の変革も望めない!!と日頃から残念に思っている。 若い世代は家事(負担)分担が少しずつ進んでいると思いますが，ある程度年のいった家庭では，例えば夫はフロに入って，食事は妻が準備するのを当然のごとく待っている,という話をよく聞きます。
男女平等で働きやすい社会が好ましい。
フリーイラスト素材を男女共同参画の啓発に関するポスターやチラシに活用し,様々な人の目に触れる場所（学校や自治会や自治体,アパートなど集合住宅など）での掲示や配布を行うなど。
働く人が家庭と仕事を両立できるような社会づくり。
管理職の男女比を無くす対策。最低でも男性，女性とも 30%以上にして欲しい。
鹿児島は男尊女卑が強い場所だと思われています。イメージを取り除きたいと思う人が一人でも増えると良いです。会合などでも男性比率が高いのは気にかかります。
もっと自治会の集まりで男女共同参画についての話を夫婦揃って参加し聞きたいと思っています。昭和に生まれた男性は,特に主人はすぐ女のくせにという人です。女は何でもハイと返事をしないと駄目です。 機会があれば二人で話を聞きに行きたいと思います。
学校の講話などにも，積極的に話題にあげて欲しい。 子どもの頃から，接する機会を作って欲しい。（〇才児健診の時などにも。親対象）
市の PR 事業に女性の目線を積極的に。
男女共同参画社会づくり，今までどんなことをするのか，はずかしながら知りませんでした。今回ちょっとは分かりました。良かったです。
私達の世代はまだ女性は家庭を守り夫に従う事が求められました。家事は全て妻の仕事，そして仕事もする。義を言うなの世界でした。今でも夫婦の生活ではその傾向が強いです。夫婦共長年の習慣から抜け出せずに暮らしています。時々離婚がよぎります。只，これからの不安，子どもの事など考えます。今更と思います。もう少し思いやりを持ってくれればと思います。若いときと体力が違い，昔のように動けません。 男性達の教育をお願いしたいです。料理のこと，体力の事，お互いの趣味のことを理解すること，独立した時間を持てるように協力する事など何度も教育して欲しいと思います。男性が変われば結婚したい女性も，子どもを欲しい家族も増えると思います。
市の広報などで呼び掛ける中，段々と時代と共に男女共同参画作りも人口減少の中，外国人を含め進めざるをえないと思う。
問 1 にある”男性は仕事、女性は家庭を守るべき”という考え方はまだまだ強いと思うが，男性・女性に関わらず，人間として生きやすい社会になっていって欲しいと思う。40 年間サラリーマンをやっていたが，仕事をする中で，辛かったり，大変だったりする事も多かったし，家庭で家事や子育てをする事も大変だと思うので，お互いに理解し合える事が大事なのではないでしょうか。
国籍問わず，誰もが住みやすい環境づくりを目指してもらいたい。

あまり考えた事がない。
多様性を学ぶ学校教育の充実。 人手不足の解消が全ての充実した生活，心のゆとりに繋がる気がします。
今後は男女共同参画事業に参加をしてみたいと思います。
男尊女卑が地方ほど根強く残っていて，若い女性にとって住みづらい雰囲気があると思います。男性への家事推進をして欲しい。
子どもを預けられる施設の充実を願います。急な仕事、用事の際や仕事が土日出勤の場合の時間外に託児できる施設や制度が欲しい。 長期の育児休暇の場合，仕事への復帰ができにくくなるのでテレワーク等の充実が出来る事を望みます。
世の中には多種多様な人がいて，信念も価値観も持っている能力も一人一人異なります。どのような社会が理想なのかは一概には言えません。男女共同参画に違和感を覚える人もいるでしょう。大切なのは，多様性を認めて柔軟な社会を作ることだと思います。最終的には個人を尊重する。年齢・性別・障がいの有無に関わらず各人が，自分にとってベストな生き方を選択，実現するのに制限のない社会づくりを望みます。
多様性に対応できる仕組み，対策が欲しい！
南九州市独自の主体的な活動を推進するべきと考えます
問 2 での次の用語を知っていますかとありましたが，知らない用語の意味が分からないのが多く，行政の方で用語の意味について説明の冊子が欲しいです。
男女共同参画という文字として目にすることはありますが，仕組み，内容など全く分かりません。知る機会が欲しいと思います。目指しているものは何でしょうか？自分達世代にどんな影響があるのか，知りたいです。
移住者を呼び込むのに良い施策,特典などに力を入れる。 外国人労働者も参加出来るイベントを企画する。
まだ考えが変えられる年齢を目標として LINE や SNS を積極的に使用して広報することをした方がいいと思います。 子どもはまだまだ思考を固くしていない状態なのでぜひ小中学生時代で押しつけ過ぎず，こんな考えも持って良いというのを教えてあげて欲しい。
男女共，住みやすい町だと思える町であって欲しい!!
行政も SNS で広報すべきと思います
今の若い人には封建的な考え方はなくなりつつあるように見えますが，老人の方々にはまだその考えが残っているようですね。この世代のギャップを埋めることも大事かなと思います。その為に行政が出来る事はないものですかね。
男女平等にしようという考えでなく，人間平等という考え方を持って欲しい。男の人にしかできないこと，女の人にしかできないことはあるのだから，必要以上に家事に対して男性を取り込むことばかり話し合うべきではない。適材適所を考える必要がある。質問の内容が偏見から始まっているように感じるところがあった。
父子家庭への理解と支援をもっと考えるべきだ。母子家庭は色々と補助があるが父子にはないのでは？

家事・育児などはお互い協力しあうようになってきて，以前よりも少しずつ意識が変わってきていると思う。教育の場や公の場で，特に保育園・幼稚園・小学校などの保育士さんや教師がしっかり研修を積んで多様性を尊重し違いを認め合える雰囲気を作る事が大切だと思う。
男女共同参画社会という言葉は聞いたことはありますが，言葉の意味などはっきりと分からないです。問２の用語　知らないことばかりで，国などが決めた言葉であるとは思いますが，市民は分からないことばかりです。
問 23　学校教育の設問内容にあることは，今はそのようなことはほとんどないように思います。保育園，幼稚園では，性別による色分けがまだまだあるように思うので，無意識のうちにすり込まれていくことがあるように感じます。
子どもを産めるのが女性だけということもあり男は仕事，女は家事･育児という昔の考え方は根強く，女性が仕事を持つには負担が大きくなることも多いです。家庭では男女が協力し合い職場では女性が働きやすく，能力を発揮して多様な人材が活躍できるよう，そして少子高齢化，経済不況などに対応できるような社会づくりを期待します。南九州市が消滅せず発展していくよう住みやすく働きやすい社会を望みます。
男女共同参画社会といっても男性にしかできない仕事，女性にしかできない仕事を確認した上で行政指導してほしい。男女どんな仕事も同じと考えるのは不平等の平等ではないか。
男女共同参画づくりに関しては男女が平等に協力し，助け合って社会づくり，家庭作りをすることはとても大切なことだと思います。と同時に男性に出来る事，女性にできること，それぞれにありますので，”らしさ”は変わらず持ち続けてほしいと願います。
高齢化社会が進む中で住みやすいまちづくり，目上を尊び，年下を愛でる地域社会を作る中で，分け隔てなく男女を問わず生活できる場の形成を図ることが大切ではないかと思います。 役所は住民の相談窓口だと思います。その中で気軽に相談できる課，係があれば。 役所，地域にある企業では男女の差別があると聞いたことがありません。 本市は，農業が主体の町ですから，男女を問わず働ける行政の取り組みが必要ではないでしょうか。どの職種においてもいえることだと思います。旧３町の各々の違いがあり男女共同参画社会のことだけではなくすべてのことに対して今後住みやすく働きがいのある地域づくりの政策を望みます。
各自治会や地区公民館などでの活動内容や役員についてなど何十年も前の考え方が多く，今の共働きや片親世帯の増加等に対応されていない点が多くみられる。また，自治会費等も使用方法について決まりがないため，役員によって支出にばらつきがあったり，見直すべき点は多くあると思います。
お互いの立場を尊重しあって生活する事が大切。 気は長く，心はまるく，腹立てず，相互扶助の精神が大事と思う。
常日頃よりのお仕事ご苦労様です。 この計画は素晴らしい事ですが，正直な所，どの程度進んでいるのか市報等でしか知りえません。実際の所，一次産業が大半を占める市ではあらゆる観点からして市民の意識を高めるには時間かけてじっくり取り組む必要があるかと思います。 外国人の就農の場を見かけますが，受け入れ農家や市にとっても貴重な存在だと思います。生活環境が変わり大変な苦労があると思われます。各地で問題も起きています。市では，JA 等と連携し，就農者のあらゆる実態（休日の生活、病気）を把握されているのか，受け入れ先への指導等，素人ながら気になりました。外国人の方々が安心して生活出来る様，また次回も南九州市へ希望されたら良いかなと思います。色々な就農の手続ルート等問題がある？
いろいろなシチュエーションを想定して取り組んでいらっしゃると思います。年齢，性別に関係なく自分，相手に優しい社会になっていくことを切に望んでいます。
研修会等あれば積極的に参加するよう努める
行政発信ではなく，地域からの運動が起こせれば，社会が変わる可能性が高まるのでは思います。

無理に男女共同参画基本計画を意識する必要もないが 他県から転入した身からすると，まず集落の集まり全てにおいて男は男だけ・女は女だけ・子どもは子どもだけ・と座る場所が完全に分かれることに驚いた。 全てにおいて男，年長者が上という意識もかなりの衝撃。男女共同参画というよりは地域性を強く感じる。集落民みんなで足並みを揃えて，個人で目立つような動きはしないこと(要は没個性)。女は余計な口を出さず，いつも心穏やかに集落のために尽くさなければならない。という押し付けも大変辛く窮屈な生活だったが，その方がこの土地ではうまく回ることも多いんだろうと何となく体感してきて悲しいことにその環境に慣れている。
子どもたちに男女平等など教育することも必要だが，中年以上の年代の常識と現代の常識の差を無くす取り組みが必要だと思う。
まず何よりも仕事に対しての経営者の意識改革，男性たちの意識改革が必要。あらゆる役職に対してあまりにも女性の進出割合が低い（政界も地方議会もしかり）。その背景に男尊女卑，女は家庭の意識が鹿児島はまだまだ残っている気がします。
夫婦同じ環境で仕事して，義理父母も一緒にいるのでストレスが溜まる。夫は甘い環境で育ち，子育ても自分の株が上がる時ばかり参加，私は心休まる暇がない。田舎ならではの昔の考えであきれる。
このアンケート自分だけ(配偶者は郵送されてない)である事が，まず男女平等っていう事に反してる気がします。
同性同士で長く交際をしています。でも家族にも言えません。当然親しい友人にも。とても社会が受け入れてくれるとは思えず，明るみに出てしまったらどうしようと不安です。 また，将来も見通せません。社会的には一人世帯で年齢を重ねていくことになり，何かあったときでもお互いに何もできません。保証人とか身元引受けとか。何が変われば生きやすくなるのか全然わかりません。
男性と女性とで給付されるお金や給料面で差が出たり，家事育児の負担が女性の方が当たり前に大きかったり，共働きだからといっても給料も家事育児も平等にするのは難しいと思います。 保育料を高額支払っていても仕事が休みの日は預けられず自分の時間が持てないと自分の精神面体力面も持たずギリギリのところにいらっしゃる方も少なくないと思います。 また，どれだけ税金を納めても納めた税金に対して使える制度がないのであれば，(使える制度があったのに教えてもらえなかった)せめて子育て支援やサービスが充実している市に税金を納めたい，移住したいと思うのは当然だと思います。 近頃それをひしひしと感じます。 もっとたくさんの意見を聞いてできる部分から少しずつ改善していただけるよう，私自身、今後もアンケートに回答させていただきます。
もっと分かりやすく，多くの人に広めて行くべきだと思います。幹部に広めていくべきだと思います。
男性は仕事，女性は家事をしっかりと伝えるべきだと思う。 女性の社会進出等が宜しいとされているから未婚率が高いし，子育てでも子どもが疲弊している。社会進出ではなく女性は子育てについての楽しみを知ってもらう必要がある。また学童に預けている親が多く，親の愛情を感じず育っている。子育ての時期は女性は子育てをしっかりするべきだと思う。このままでは３度目の知覧中いじめ事件がおこると思う。また，ＰＴＡ等ももっとやるべきだと思う。発表会もなしで運動会も半日，学校の先生の怠慢が目立つ。今，女性の社会進出ということが良いこととされているが，私は，男は仕事，女は家事を押すことにより子育てをする人も増えると思う。過疎で人口が減っている南九州市にはこれが必要。
今回男女共同参画を拝見しました。解答する欄がほとんどなく困ったこと。この質問状はあらかじめ送る人の年齢，家族構成等を調べた上で質問状を送った方が良いのではないですか？私の回答では参考にならないのでは。ましては回答するのに困ります。

【その他意見】
アンケートは苦手です。私たちの自治会も両隣の自治会も高齢者が多く，空家も多くなりました。昔ほど活気がなくなりました。魅力ある南九州市が実現できるのでしょうか？
人間（男女と考えず）として協力・思いやり平和を，皆幸せに暮らせますように。頑張ってきた年寄りがスムーズに施設で生活できますようにお願いします。 77 才の私にはアンケート難しいでした。ごめんなさい。
今回の意識調査は 98 才の老人にはなんと答えたら良いのか，難しい調査でした。（娘が代筆）
知覧は昔から「文化の町」といわれる程，質の高い町である！小学生でも知らない大人の人にすれ違っても会釈できる子が多い！と今でも信じている！ 人を助ける気持ちや暴力のない町づくりが良い社会に繋がるはず。 明るく！楽しく！元気よく！胸の張れる社会づくりを守って欲しい！
南九州市で生活して 20 数年，高年齢で今回の調査は自分でチェックする項目に「？」がつく項目でしんどかった。
できれば質問の内容をまとめてほしいです。
心に余裕が持てる生活が送れるよう，様々な支援や取り組みを行って欲しい
人として仲間意識を自覚する必要を感じて欲しい。 （町内会や友達，常に話しコミュニケーションをとる） 両親も子どもと話し合い，壁を作らずに接して欲しい。 生誕の意義説明，命の尊さ等，国全体，地域で検討を。
年を取り，夫に先立たれて 30 年。今 76 歳，子ども達は自分の家庭があり，寂しい。年寄りだが，お金がまだまだ必要だから働かないといけないし，頑張るしかない。年金少ない，２ヶ月に１回 15 万，１月 7.5 万足りないよ。
少子化対策を手厚くするべし
ごみ収集について，分別が多くわかりづらい。ごみによっては少ししかなく，保管が大変。ごみ収集所に少しのごみは保管ができるようにして欲しい。
私が初めて就職してから 40 年ほどたちますが，時給こそ上がってきていますが，毎年何かしらの税金が増えてきてます。こちらのアンケートによる人件費，紙や配達にかかる費すべて税金ですよね？アンケートよりは市町村などの公費の使い道，残りのお金をちゃんと積み立ててあるかなどの報告などでは？税が少なくなればいきづらさも少しはなくなりますよ。
若い世代に行政の交代をして欲しい
風通しの良い誰もが住みやすい地域を希望します。現在，障害者の子どもと幸せに暮らしていますが，いずれ年老いたときに障害者の子どもが安心して暮らせる地域であって欲しいと望んでいます。
市が率先し，住みやすい追求したアンケートをとり益々の住みよい村づくりを目指し没落集落を復活させなければならないと思う。（空き家，空き地ばかりが目立つ）
一人親では就学支援金など収入額などの設定額撤廃の検討などしてほしい。正社員で働いていても金銭面では子どもが大きくなってきたら負担が増えてくるから。
カウンターの接客対応にとても差があると感じます。とても対応の良い方，無表情で怒っているのかな？と思う方もいます。やはり聞きやすい窓口であってほしいと思います。
一人暮らしの生活の中で気になる事にあった時，市役所の各課に相談するとまともに話してくれない。相手の立場になって考えて意見して欲しい。せめて助言を貰えたら参考にして解決策ができると思いますが。

広報「南九州」について，「くらしのカレンダー」の月計画表の時間（時刻）正しいもので知らせて欲しい。相談に行ったら「あれは間違いだよ」と言われた。長く待ちました。何人もウロウロしながら。
外国人は来なくていい（住んで欲しくない）川口市のようなクルド人等移民により，日本人の生活が脅かされている。 中国人や韓国人の反日教育に対して，本当に彼らにはこの世から消えて欲しい。 日本人学生よりも外国の方が「宝」と言った岸田政権に対して，とてもびっくりした。日本人が日本人らしく生活出来るように見直すべきだ。日本を守るのは日本人，外国人は要らない。（米軍は含まない） 生活保護も外人にはホイホイだす日本，日本人を守ってください。ここは日本です。
これから先の時代全ての高校，大学の授業料無償化になると，少しは生活が豊かになるかと思います。新社会制度に期待します。
風通しの良い誰もが住みやすい地域を希望します。現在，障害者の子どもと幸せに暮らしていますが，いずれ年老いた時に障害者の子どもが安心して暮らせる地域であって欲しいと望んでいます。
スポーツジムのような施設があって欲しい，温水プールも欲しい。
南九州市に住まわれている方と交流する方法はないのかと考える事があります。 （南九州市の職場で働いている方々は市民の方と交流するチャンスがありますか？）
市職員の自立規範を求める。モラルが欠けている。悲しいことです。
日本人なので話ができる間柄で笑顔で毎日暮らせるまちづくりにして欲しいです。
子育て世帯にもっとお金を欲しい。物価が高くなりどんどん減っていく。もっともっと頑張って欲しいです。
これからますます高齢化社会になると思われますが，市，市民で話し合う必要かと思う。
集団のお見合いの場を多くして地元に残る若者が居住しやすい町づくりをお願いしたい
地域の中で住みやすい環境の中で生活できるまちづくりを希望します。（特定の施設があり，生活しにくい場面があります）
南九州市主催の行事やイベントもマンネリ化していて「わくわく」することが少ない気がします。

Ⅴ．集計結果

Ⅴ.集計結果

問１　男性は仕事、女性は家庭を守るべきという考えについて

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
賛成	26	4.2%	8	2.4%	16	6.3%	0	0.0%	2	12.5%
どちらかというと賛成	124	20.2%	56	16.6%	64	25.3%	1	12.5%	3	18.8%
どちらかというと反対	231	37.6%	139	41.1%	84	33.2%	2	25.0%	6	37.5%
反対	197	32.0%	112	33.1%	77	30.4%	5	62.5%	3	18.8%
無回答	37	6.0%	23	6.8%	12	4.7%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２　次の用語を知っているか

問２-Ａ　男女共同参画社会

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	289	47.0%	152	45.0%	127	50.2%	2	25.0%	8	50.0%
聞いたことがある	222	36.1%	134	39.6%	76	30.0%	5	62.5%	7	43.8%
知らない	96	15.6%	46	13.6%	48	19.0%	1	12.5%	1	6.3%
無回答	8	1.3%	6	1.8%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-Ｂ　男女共同参画社会基本法

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	109	17.7%	56	16.6%	50	19.8%	1	12.5%	2	12.5%
聞いたことがある	226	36.7%	127	37.6%	87	34.4%	2	25.0%	10	62.5%
知らない	269	43.7%	149	44.1%	111	43.9%	5	62.5%	4	25.0%
無回答	11	1.8%	6	1.8%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-Ｃ　南九州市男女共同参画推進条例

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	63	10.2%	33	9.8%	28	11.1%	0	0.0%	2	12.5%
聞いたことがある	153	24.9%	83	24.6%	59	23.3%	3	37.5%	8	50.0%
知らない	380	61.8%	211	62.4%	160	63.2%	5	62.5%	4	25.0%
無回答	19	3.1%	11	3.3%	6	2.4%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-Ｄ　女性差別撤廃条約

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	109	17.7%	60	17.8%	45	17.8%	2	25.0%	2	12.5%
聞いたことがある	225	36.6%	129	38.2%	84	33.2%	3	37.5%	9	56.3%
知らない	264	42.9%	137	40.5%	119	47.0%	3	37.5%	5	31.3%
無回答	17	2.8%	12	3.6%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-Ｅ　南九州市男女共同参画基本計画

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	68	11.1%	34	10.1%	33	13.0%	0	0.0%	1	6.3%
聞いたことがある	154	25.0%	80	23.7%	64	25.3%	2	25.0%	8	50.0%
知らない	374	60.8%	212	62.7%	149	58.9%	6	75.0%	7	43.8%
無回答	19	3.1%	12	3.6%	7	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-Ｆ　男女雇用機会均等法

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	314	51.1%	171	50.6%	136	53.8%	3	37.5%	4	25.0%
聞いたことがある	172	28.0%	96	28.4%	66	26.1%	3	37.5%	7	43.8%
知らない	108	17.6%	59	17.5%	43	17.0%	2	25.0%	4	25.0%
無回答	21	3.4%	12	3.6%	8	3.2%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-Ｇ　ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者からの暴力）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	499	81.1%	290	85.8%	194	76.7%	6	75.0%	9	56.3%
聞いたことがある	82	13.3%	34	10.1%	41	16.2%	2	25.0%	5	31.3%
知らない	25	4.1%	9	2.7%	15	5.9%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	9	1.5%	5	1.5%	3	1.2%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-Ｈ　セクシャル・ハラスメント（セクハラ）（性的嫌がらせ）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	500	81.3%	285	84.3%	200	79.1%	6	75.0%	9	56.3%
聞いたことがある	88	14.3%	40	11.8%	40	15.8%	2	25.0%	6	37.5%
知らない	20	3.3%	8	2.4%	11	4.3%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	7	1.1%	5	1.5%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-Ｉ　配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	240	39.0%	146	43.2%	86	34.0%	3	37.5%	5	31.3%
聞いたことがある	235	38.2%	121	35.8%	104	41.1%	3	37.5%	7	43.8%
知らない	127	20.7%	64	18.9%	59	23.3%	2	25.0%	2	12.5%
無回答	13	2.1%	7	2.1%	4	1.6%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-J　ワークライフ・バランス（仕事と生活の調和）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	172	28.0%	97	28.7%	69	27.3%	2	25.0%	4	25.0%
聞いたことがある	217	35.3%	113	33.4%	92	36.4%	4	50.0%	8	50.0%
知らない	207	33.7%	114	33.7%	87	34.4%	2	25.0%	4	25.0%
無回答	19	3.1%	14	4.1%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-K　ジェンダー（社会的文化的に作られた性差）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	347	56.4%	205	60.7%	136	53.8%	3	37.5%	3	18.8%
聞いたことがある	160	26.0%	79	23.4%	68	26.9%	4	50.0%	9	56.3%
知らない	94	15.3%	45	13.3%	44	17.4%	1	12.5%	4	25.0%
無回答	14	2.3%	9	2.7%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-L　男女の人権の尊重

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	364	59.2%	193	57.1%	158	62.5%	4	50.0%	9	56.3%
聞いたことがある	179	29.1%	105	31.1%	67	26.5%	3	37.5%	4	25.0%
知らない	48	7.8%	24	7.1%	21	8.3%	1	12.5%	2	12.5%
無回答	24	3.9%	16	4.7%	7	2.8%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-M　ＬＧＢＴ（自らの性に違和感を覚える人、性同一障害等の人々）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	352	57.2%	203	60.1%	139	54.9%	3	37.5%	7	43.8%
聞いたことがある	146	23.7%	77	22.8%	60	23.7%	4	50.0%	5	31.3%
知らない	100	16.3%	48	14.2%	48	19.0%	1	12.5%	3	18.8%
無回答	17	2.8%	10	3.0%	6	2.4%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-N　多文化共生

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	154	25.0%	89	26.3%	59	23.3%	1	12.5%	5	31.3%
聞いたことがある	206	33.5%	119	35.2%	78	30.8%	4	50.0%	5	31.3%
知らない	241	39.2%	119	35.2%	113	44.7%	3	37.5%	6	37.5%
無回答	14	2.3%	11	3.3%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-O　女性活躍推進法

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	125	20.3%	70	20.7%	51	20.2%	1	12.5%	3	18.8%
聞いたことがある	258	42.0%	138	40.8%	108	42.7%	5	62.5%	7	43.8%
知らない	218	35.4%	122	36.1%	88	34.8%	2	25.0%	6	37.5%
無回答	14	2.3%	8	2.4%	6	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-P　政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	61	9.9%	30	8.9%	30	11.9%	0	0.0%	1	6.3%
聞いたことがある	196	31.9%	96	28.4%	93	36.8%	2	25.0%	5	31.3%
知らない	340	55.3%	199	58.9%	126	49.8%	6	75.0%	9	56.3%
無回答	18	2.9%	13	3.8%	4	1.6%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-Q　LGBT理解増進法

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	61	9.9%	38	11.2%	22	8.7%	0	0.0%	1	6.3%
聞いたことがある	154	25.0%	81	24.0%	68	26.9%	1	12.5%	4	25.0%
知らない	380	61.8%	207	61.2%	157	62.1%	7	87.5%	9	56.3%
無回答	20	3.3%	12	3.6%	6	2.4%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-R　ポジティブアクション

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	42	6.8%	28	8.3%	14	5.5%	0	0.0%	0	0.0%
聞いたことがある	149	24.2%	83	24.6%	61	24.1%	1	12.5%	4	25.0%
知らない	409	66.5%	215	63.6%	175	69.2%	7	87.5%	12	75.0%
無回答	15	2.4%	12	3.6%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-S　ダイバーシティ

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	64	10.4%	34	10.1%	29	11.5%	1	12.5%	0	0.0%
聞いたことがある	179	29.1%	98	29.0%	74	29.2%	4	50.0%	3	18.8%
知らない	355	57.7%	195	57.7%	144	56.9%	3	37.5%	13	81.3%
無回答	17	2.8%	11	3.3%	6	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問２-T　GGI（ジェンダーギャップ指数）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	40	6.5%	22	6.5%	18	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
聞いたことがある	124	20.2%	67	19.8%	52	20.6%	2	25.0%	3	18.8%
知らない	437	71.1%	239	70.7%	179	70.8%	6	75.0%	13	81.3%
無回答	14	2.3%	10	3.0%	4	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問３　ワークライフバランスの満足度

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
満足している	121	19.7%	66	19.5%	52	20.6%	1	12.5%	2	12.5%
やや満足している	204	33.2%	107	31.7%	87	34.4%	2	25.0%	8	50.0%
どちらともいえない	165	26.8%	86	25.4%	69	27.3%	5	62.5%	5	31.3%
あまり満足していない	81	13.2%	49	14.5%	32	12.6%	0	0.0%	0	0.0%
満足していない	35	5.7%	25	7.4%	10	4.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	9	1.5%	5	1.5%	3	1.2%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問４　結婚・家庭・離婚について

問４-A　結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	305	49.6%	193	57.1%	103	40.7%	4	50.0%	5	31.3%
どちらかといえばそう思う	125	20.3%	66	19.5%	55	21.7%	3	37.5%	1	6.3%
どちらともいえない	104	16.9%	53	15.7%	44	17.4%	1	12.5%	6	37.5%
どちらかといえばそう思わない	44	7.2%	12	3.6%	30	11.9%	0	0.0%	2	12.5%
そう思わない	32	5.2%	11	3.3%	19	7.5%	0	0.0%	2	12.5%
無回答	5	0.8%	3	0.9%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問４-B　結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	217	35.3%	138	40.8%	73	28.9%	3	37.5%	3	18.8%
どちらかといえばそう思う	119	19.3%	69	20.4%	45	17.8%	4	50.0%	1	6.3%
どちらともいえない	160	26.0%	86	25.4%	68	26.9%	1	12.5%	5	31.3%
どちらかといえばそう思わない	58	9.4%	18	5.3%	35	13.8%	0	0.0%	5	31.3%
そう思わない	55	8.9%	24	7.1%	30	11.9%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	6	1.0%	3	0.9%	2	0.8%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問４-C　離婚は個人の選択であるから、離婚しても問題ない

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	288	46.8%	174	51.5%	105	41.5%	3	37.5%	6	37.5%
どちらかといえばそう思う	128	20.8%	69	20.4%	55	21.7%	3	37.5%	1	6.3%
どちらともいえない	128	20.8%	68	20.1%	55	21.7%	2	25.0%	3	18.8%
どちらかといえばそう思わない	36	5.9%	11	3.3%	23	9.1%	0	0.0%	2	12.5%
そう思わない	29	4.7%	13	3.8%	13	5.1%	0	0.0%	3	18.8%
無回答	6	1.0%	3	0.9%	2	0.8%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問５　子育ての不安や悩みについて

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　特に悩みや不安はない	236	19.8%	112	15.7%	114	25.7%	6	60.0%	4	16.7%
2-1　子どもとの時間を十分にとれない	125	10.5%	73	10.2%	49	11.1%	0	0.0%	3	12.5%
2-2　子どもとの接し方に自信がなくなることがある	149	12.5%	97	13.6%	48	10.8%	1	10.0%	3	12.5%
2-3　子育てについて，配偶者・パートナーと意見が合わない	104	8.7%	62	8.7%	40	9.0%	0	0.0%	2	8.3%
2-4　子どもの受験や将来のことなどについて，配偶者・パートナーと意見が合わない	59	5.0%	30	4.2%	28	6.3%	0	0.0%	1	4.2%
2-5　配偶者・パートナーなど周りの協力が得られない	58	4.9%	45	6.3%	12	2.7%	1	10.0%	0	0.0%
2-6　自分の子育てについて，祖父母・親族や近隣の人，職場などまわりの見る目が気になる	44	3.7%	31	4.3%	13	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
2-7　子育てについて相談できる人や場所がない	45	3.8%	28	3.9%	14	3.2%	1	10.0%	2	8.3%
2-8　急な用事で子どもを預けられる場所がない	107	9.0%	76	10.7%	28	6.3%	1	10.0%	2	8.3%
2-9　子どもの病気など何か問題がおこったとき，自分のせいにされる	36	3.0%	27	3.8%	9	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
2-10　急な子どもの病気などのときの対応に困る	147	12.4%	96	13.5%	48	10.8%	0	0.0%	3	12.5%
2-11　その他	24	2.0%	13	1.8%	11	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	56	4.7%	23	3.2%	29	6.5%	0	0.0%	4	16.7%
合計	1,190	100.0%	713	100.0%	443	100.0%	10	100.0%	24	100.0%

問６　育児の社会支援に対する考え方

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
基本的に家族が行うもので，社会の支援は必要ない	22	3.6%	10	3.0%	11	4.3%	0	0.0%	1	6.3%
基本的に家族が行うものだが，社会が支援する必要がある	397	64.6%	227	67.2%	156	61.7%	6	75.0%	8	50.0%
家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要があ	144	23.4%	76	22.5%	64	25.3%	0	0.0%	4	25.0%
家族は可能な範囲で行い，基本的には社会が担うべきである	11	1.8%	5	1.5%	5	2.0%	0	0.0%	1	6.3%
わからない	27	4.4%	14	4.1%	10	4.0%	2	25.0%	1	6.3%
無回答	14	2.3%	6	1.8%	7	2.8%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問７　介護の社会支援に対する考え方

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
基本的に家族が行うもので，社会の支援は必要ない	5	0.8%	2	0.6%	2	0.8%	0	0.0%	1	6.3%
基本的に家族が行うものだが，社会が支援する必要がある	191	31.1%	97	28.7%	89	35.2%	1	12.5%	4	25.0%
家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要があ	353	57.4%	205	60.7%	134	53.0%	5	62.5%	9	56.3%
家族は可能な範囲で行い，基本的には社会が担うべきである	43	7.0%	22	6.5%	20	7.9%	0	0.0%	1	6.3%
わからない	16	2.6%	7	2.1%	7	2.8%	2	25.0%	0	0.0%
無回答	7	1.1%	5	1.5%	1	0.4%	0	0.0%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問8　（既婚者・事実婚者への質問）

	A　家事		B　育児		C　介護		D　地域活動への参加	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　夫	5	1.1%	0	0.0%	4	0.9%	166	37.2%
2　妻	302	67.7%	201	45.1%	120	26.9%	57	12.8%
3　夫と妻が同程度	85	19.1%	110	24.7%	97	21.7%	155	34.8%
4　夫・妻以外の家族	1	0.2%	5	1.1%	3	0.7%	5	1.1%
5　家族全員で分担	40	9.0%	27	6.1%	51	11.4%	26	5.8%
6　家族以外の人		0.0%	1	0.2%	13	2.9%	0	0.0%
7　該当しない	3	0.7%	73	16.4%	132	29.6%	21	4.7%
無回答	10	2.2%	29	6.5%	26	5.8%	16	3.6%
合計	446	100.0%	446	100.0%	446	100.0%	446	100.0%

問９　いきいきと暮らすことができるために何が必要か

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　男女の役割分担についての社会通念，慣習，しきたりを改めること	159	9.9%	89	10.0%	66	10.2%	2	9.5%	2	4.9%
2　仕事に生活を合わせるという，仕事中心の社会全体の仕組みを改めること	73	4.6%	33	3.7%	38	5.9%	1	4.8%	1	2.4%
3　男性が家事に参画するライフスタイルについて抵抗感をなくすこと	117	7.3%	75	8.4%	33	5.1%	3	14.3%	6	14.6%
4　男性も女性も生活面・経済面で自立できるようになること	178	11.1%	95	10.6%	76	11.7%	3	14.3%	4	9.8%
5　家族の間で互いの立場を理解し，家事などの分担をするように十分に話し合うこと	222	13.8%	123	13.8%	89	13.8%	2	9.5%	8	19.5%
6　家事などについて，性別によらず，身に付けること	218	13.6%	144	16.1%	68	10.5%	2	9.5%	4	9.8%
7　男性の男女共同参画に対する関心を高めること	50	3.1%	24	2.7%	24	3.7%	2	9.5%	0	0.0%
8　女性の男女共同参画に対する関心を高めること	21	1.3%	7	0.8%	11	1.7%	0	0.0%	3	7.3%
9　学校，職場，社会など様々な場で男女平等や相互理解についての学習機会を増やすこと	114	7.1%	62	6.9%	50	7.7%	1	4.8%	1	2.4%
10　労働時間を短縮したり，休暇制度を普及させること	112	7.0%	58	6.5%	53	8.2%	0	0.0%	1	2.4%
11　自宅でも仕事ができるように在宅勤務などを普及させること	44	2.7%	26	2.9%	16	2.5%	0	0.0%	2	4.9%
12　育児や介護支援の充実など，育児や介護を社会で支える制度を充実させること	269	16.8%	147	16.4%	110	17.0%	4	19.0%	8	19.5%
13　わからない	26	1.6%	11	1.2%	13	2.0%	1	4.8%	1	2.4%
合計	1603	100.0%	894	100.0%	647	100.0%	21	100.0%	41	100.0%

問10　収入になる仕事をしているか

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　常勤の勤め	166	27.0%	71	21.0%	87	34.4%	5	62.5%	3	18.8%
2　非常勤の勤め	106	17.2%	79	23.4%	23	9.1%	1	12.5%	3	18.8%
3　農業・林業・漁業等の自営業	61	9.9%	34	10.1%	24	9.5%	0	0.0%	3	18.8%
4　商業・工業・建設業・サービス業・その他自営業	42	6.8%	20	5.9%	22	8.7%	0	0.0%	0	0.0%
5　その他の職業	9	1.5%	2	0.6%	7	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
6　主婦・主夫	50	8.1%	49	14.5%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
7　学生	6	1.0%	3	0.9%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
8　無職	150	24.4%	67	19.8%	76	30.0%	1	12.5%	6	37.5%
無回答	25	4.1%	13	3.8%	10	4.0%	1	12.5%	1	6.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問11　※問10で職業上の区分1，3，4，5を選んだ方のみ

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　管理職	41	14.7%	10	7.9%	29	20.7%	1	20.0%	1	16.7%
2　雇用者	131	47.1%	61	48.0%	64	45.7%	4	80.0%	2	33.3%
3　自営業主	42	15.1%	18	14.2%	23	16.4%	0	0.0%	1	16.7%
4　家族従業者	43	15.5%	36	28.3%	6	4.3%	0	0.0%	1	16.7%
5　その他	16	5.8%	1	0.8%	14	10.0%	0	0.0%	1	16.7%
無回答	5	1.8%	1	0.8%	4	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
合計	278	100.0%	127	100.0%	140	100.0%	5	100.0%	6	100.0%

問12　※問10で1～5を選んだ方のみ
あなたの職場では性別による処遇の差がありますか（複数回答可）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
性別による処遇の差はない	234	45.9%	122	46.9%	103	44.4%	5	71.4%	4	36.4%
性別によって賃金に差がある	39	7.6%	22	8.5%	16	6.9%	0	0.0%	1	9.1%
性別によって昇進，昇格に差がある	19	3.7%	10	3.8%	9	3.9%	0	0.0%	0	0.0%
性別によって能力の評価に差がある	23	4.5%	15	5.8%	8	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
性別によって幹部職員への登用に差がある	20	3.9%	6	2.3%	14	6.0%	0	0.0%	0	0.0%
女性を一人前の社員，従業員，職員として見ていない	6	1.2%	3	1.2%	3	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
男性を一人前の社員，従業員，職員として見ていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
女性には補助的な仕事しかやらせない	11	2.2%	4	1.5%	7	3.0%	0	0.0%	0	0.0%
男性には補助的な仕事しかやらせない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
女性は育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある	9	1.8%	5	1.9%	4	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
男性は育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある	24	4.7%	6	2.3%	17	7.3%	1	14.3%	0	0.0%
女性は結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	14	2.7%	8	3.1%	6	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
男性は結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	3	0.6%	1	0.4%	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	11	2.2%	4	1.5%	6	2.6%	1	14.3%	0	0.0%
男性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	1	0.2%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
同じ職場で夫と妻が共に働いている場合，妻のほうが働き続けにくい雰囲気がある	4	0.8%	2	0.8%	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
同じ職場で夫と妻が共に働いている場合，夫のほうが働き続けにくい雰囲気がある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
女性は教育・訓練を受ける機会が少ない	6	1.2%	1	0.4%	5	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
男性は教育・訓練を受ける機会が少ない	1	0.2%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
女性は経営方針に対して意見を言いにくい雰囲気がある	19	3.7%	14	5.4%	4	1.7%	0	0.0%	1	9.1%
男性は経営方針に対して意見を言いにくい雰囲気がある	3	0.6%	0	0.0%	2	0.9%	0	0.0%	1	9.1%
その他	10	2.0%	6	2.3%	4	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	53	10.4%	30	11.5%	19	8.2%	0	0.0%	4	36.4%
合計	510	100.0%	260	100.0%	232	100.0%	7	100.0%	11	100.0%

問13　※問10で1～5を選んだ方のみ
会社の就業規則に相当するものがありますか

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
文章化された取り決めがある	196	51.0%	103	50.0%	87	53.4%	2	33.3%	4	44.4%
文章化されていないが，合意している取り決めがある	48	12.5%	27	13.1%	19	11.7%	1	16.7%	1	11.1%
取り決めはない	71	18.5%	39	18.9%	31	19.0%	0	0.0%	1	11.1%
取り決めがあるかどうかわからない	39	10.2%	20	9.7%	15	9.2%	3	50.0%	1	11.1%
無回答	30	7.8%	17	8.3%	11	6.7%	0	0.0%	2	22.2%
合計	384	100.0%	206	100.0%	163	100.0%	6	100.0%	9	100.0%

問14　※問13で1，2と回答したかたのみ
その取り決めは守られているか

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
守られている	141	57.8%	73	56.2%	64	60.4%	0	0.0%	4	80.0%
どちらかというと守られている	88	36.1%	50	38.5%	34	32.1%	3	100.0%	1	20.0%
どちらかというと守られていない	12	4.9%	5	3.8%	7	6.6%	0	0.0%	0	0.0%
守られていない	2	0.8%	1	0.8%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	0.4%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	244	100.0%	130	100.0%	106	100.0%	3	100.0%	5	100.0%

問15　※問10で5～8を選んだ方のみ
仕事をしていないのはどのような理由からですか（複数回答可）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
特に理由はない	27	9.2%	19	11.2%	8	6.8%	0	0.0%	0	0.0%
経済的に働く必要がないから	17	5.8%	6	3.6%	11	9.3%	0	0.0%	0	0.0%
職業を持たない方が自分のやりたいことができるから	11	3.7%	7	4.1%	4	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
家庭で家事・育児に専念するのが当然だから	2	0.7%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
家事の負担が大きいから	3	1.0%	3	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
育児の負担が大きいから	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
健康や体力に自信がないから	48	16.3%	29	17.2%	19	16.1%	0	0.0%	0	0.0%
希望通りの仕事が得られないから	9	3.1%	6	3.6%	2	1.7%	0	0.0%	1	14.3%
仕事の募集そのものがないから	7	2.4%	3	1.8%	3	2.5%	0	0.0%	1	14.3%
配偶者や子どもなど家族が望まないから	4	1.4%	3	1.8%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
親や病気の家族の世話をするため	22	7.5%	19	11.2%	3	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
現在，学校に通っているから	3	1.0%	2	1.2%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
高齢だから	112	38.0%	57	33.7%	50	42.4%	1	100.0%	4	57.1%
働くことに向いていないから	2	0.7%	1	0.6%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
働くことが好きでないから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
やりがいのある仕事がないから	2	0.7%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
配偶者が数年おきに転勤するから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	16	5.4%	6	3.6%	10	8.5%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	2	0.7%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	2.4%	5	3.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	14.3%
合計	295	100.0%	169	100.0%	118	100.0%	1	100.0%	7	100.0%

問16　※問10で5～8を選んだ方のみ
収入になる仕事をしたいと思われますか

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
すぐにでも仕事をしたい	18	8.7%	8	6.7%	9	11.3%	0	0.0%	1	16.7%
将来的には仕事をしたい	28	13.6%	18	15.1%	9	11.3%	0	0.0%	1	16.7%
仕事をしたいとは思わない	80	38.8%	46	38.7%	32	40.0%	0	0.0%	2	33.3%
わからない	56	27.2%	28	23.5%	27	33.8%	1	100.0%	0	0.0%
無回答	24	11.7%	19	16.0%	3	3.8%	0	0.0%	2	33.3%
合計	206	100.0%	119	100.0%	80	100.0%	1	100.0%	6	100.0%

問17　何か地域のために役立ちたいと思うか

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常にそう思っている	43	7.0%	16	4.7%	26	10.3%	1	12.5%	0	0.0%
かなりそう思っている	96	15.6%	34	10.1%	58	22.9%	0	0.0%	4	25.0%
少しそう思っている	317	51.5%	184	54.4%	123	48.6%	5	62.5%	5	31.3%
あまりそうは思わない	126	20.5%	86	25.4%	36	14.2%	1	12.5%	3	18.8%
全くそうは思わない	22	3.6%	14	4.1%	7	2.8%	1	12.5%	0	0.0%
無回答	11	1.8%	4	1.2%	3	1.2%	0	0.0%	4	25.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問18　現在地域活動等に参加していますか（複数回答可）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比		構成比	人数	構成比	人数	構成比
特になにもしていない	244	29.6%	149	34.2%	84	23.9%	6	54.5%	5	20.8%
自治会，町内会などの地区を単位とした団体における活動	252	30.6%	103	23.6%	143	40.6%	2	18.2%	4	16.7%
女性会，老人会，青年団などの団体活動	95	11.5%	62	14.2%	29	8.2%	0	0.0%	4	16.7%
子ども会，PTA，スポーツ少年団などの子どもの活動に関わる団体活動	64	7.8%	36	8.3%	26	7.4%	2	18.2%	0	0.0%
消費者運動，環境保護運動などの住民運動	7	0.9%	4	0.9%	2	0.6%	0	0.0%	1	4.2%
民生委員・児童委員，体育指導員などの公的な委員活動	26	3.2%	14	3.2%	10	2.8%	0	0.0%	2	8.3%
子育て支援や高齢者介護，障害者福祉などを目的としたグループ活動	9	1.1%	6	1.4%	2	0.6%	1	9.1%	0	0.0%
NPO法人などの非営利活動	6	0.7%	4	0.9%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
特定の団体やグループに属さず，個人として地域に貢献する活動	15	1.8%	5	1.1%	9	2.6%	0	0.0%	1	4.2%
スポーツや趣味，文化振興などに関わるサークル活動	73	8.9%	37	8.5%	34	9.7%	0	0.0%	2	8.3%
その他	16	1.9%	8	1.8%	7	2.0%	0	0.0%	1	4.2%
無回答	16	1.9%	8	1.8%	4	1.1%	0	0.0%	4	16.7%
合計	823	100.0%	436	100.0%	352	100.0%	11	100.0%	24	100.0%

問19　住んでいる地域に下記のような雰囲気や習慣がありますか（複数回答可）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
特になにもない	224	17.3%	129	18.1%	88	16.4%	4	40.0%	3	8.3%
地域活動をするときに，子どもがいない世帯や，中高年の一人住まいの世帯，若い独身者を活動の一員として初めから期待していないような雰囲気がある	23	1.8%	10	1.4%	13	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
地域の清掃作業などで，世帯の男性ではなく女性が参加すると負担金を払う習慣がある	39	3.0%	22	3.1%	15	2.8%	1	10.0%	1	2.8%
女性や若い人は，男性や年長者の意見に従ったほうがよい（従うものだ）という雰囲気がある	98	7.6%	63	8.9%	31	5.8%	0	0.0%	4	11.1%
団体の長や代表などには男性がなるほうがよい（なるものだ）という雰囲気がある	150	11.6%	72	10.1%	74	13.8%	1	10.0%	3	8.3%
会議等で女性が自分の意見を発言することに対して批判的な雰囲気がある	37	2.9%	24	3.4%	10	1.9%	0	0.0%	3	8.3%
女性は様々な役割や仕事の経験を積む機会から遠ざけられている雰囲気がある	26	2.0%	11	1.5%	15	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
様々な役割分担の責任者には男性が就き，女性は補佐役に就くことが多い	110	8.5%	54	7.6%	53	9.9%	0	0.0%	3	8.3%
集落・公民館・PTAなどの役員名簿には夫の名前を載せるが，実際には妻が役割を果たしていることが多い	73	5.6%	49	6.9%	18	3.3%	1	10.0%	5	13.9%
女性が役職に就きたがらない	109	8.4%	44	6.2%	61	11.3%	2	20.0%	2	5.6%
会合や行事の湯茶・食事の準備や後片付けは女性の役割という雰囲気がある	186	14.4%	110	15.5%	71	13.2%	0	0.0%	5	13.9%
地域のために慣習を見直すなど，変革を求める人を煙たがる雰囲気がある	63	4.9%	36	5.1%	25	4.6%	0	0.0%	2	5.6%
地元（市内）出身でない人を何年経っても「よその人」として区別する雰囲気がある	59	4.6%	38	5.3%	21	3.9%	0	0.0%	0	0.0%
地域での生活に関わる事柄について，互いに助け合うために，自分ができることで，貢献しようとする意識があまりない	54	4.2%	26	3.7%	26	4.8%	0	0.0%	2	5.6%
無回答	44	3.4%	23	3.2%	17	3.2%	1	10.0%	3	8.3%
合計	1,295	100.0%	711	100.0%	538	100.0%	10	100.0%	36	100.0%

問20　次のような場で男女は平等になっていると思われますか

問20-A　家庭の中で

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常に平等になっている	77	12.5%	37	10.9%	37	14.6%	2	25.0%	1	6.3%
かなり平等になっている	191	31.1%	93	27.5%	89	35.2%	2	25.0%	7	43.8%
少し平等になっている	174	28.3%	88	26.0%	81	32.0%	3	37.5%	2	12.5%
あまり平等になっていない	105	17.1%	77	22.8%	26	10.3%	1	12.5%	1	6.3%
全く平等になっていない	36	5.9%	27	8.0%	7	2.8%	0	0.0%	2	12.5%
無回答	32	5.2%	16	4.7%	13	5.1%	0	0.0%	3	18.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問20-B　自治会，公民館などの地域社会で

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常に平等になっている	22	3.6%	10	3.0%	11	4.3%	0	0.0%	1	6.3%
かなり平等になっている	136	22.1%	57	16.9%	71	28.1%	2	25.0%	6	37.5%
少し平等になっている	233	37.9%	140	41.4%	91	36.0%	2	25.0%	0	0.0%
あまり平等になっていない	140	22.8%	83	24.6%	48	19.0%	4	50.0%	5	31.3%
全く平等になっていない	33	5.4%	22	6.5%	10	4.0%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	51	8.3%	26	7.7%	22	8.7%	0	0.0%	3	18.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問20-C　職場の中で

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常に平等になっている	53	8.6%	29	8.6%	24	9.5%	0	0.0%	0	0.0%
かなり平等になっている	170	27.6%	91	26.9%	71	28.1%	2	25.0%	6	37.5%
少し平等になっている	187	30.4%	98	29.0%	82	32.4%	5	62.5%	2	12.5%
あまり平等になっていない	86	14.0%	54	16.0%	29	11.5%	1	12.5%	2	12.5%
全く平等になっていない	16	2.6%	6	1.8%	9	3.6%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	103	16.7%	60	17.8%	38	15.0%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問20-D　学校教育の中で

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常に平等になっている	44	7.2%	22	6.5%	22	8.7%	0	0.0%	0	0.0%
かなり平等になっている	181	29.4%	103	30.5%	72	28.5%	1	12.5%	5	31.3%
少し平等になっている	196	31.9%	109	32.2%	80	31.6%	6	75.0%	1	6.3%
あまり平等になっていない	52	8.5%	30	8.9%	21	8.3%	1	12.5%	0	0.0%
全く平等になっていない	15	2.4%	6	1.8%	8	3.2%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	127	20.7%	68	20.1%	50	19.8%	0	0.0%	9	56.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問20-E　法律や制度で

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常に平等になっている	36	5.9%	10	3.0%	25	9.9%	0	0.0%	1	6.3%
かなり平等になっている	134	21.8%	64	18.9%	64	25.3%	2	25.0%	4	25.0%
少し平等になっている	218	35.4%	131	38.8%	82	32.4%	2	25.0%	3	18.8%
あまり平等になっていない	120	19.5%	75	22.2%	41	16.2%	4	50.0%	0	0.0%
全く平等になっていない	25	4.1%	12	3.6%	12	4.7%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	82	13.3%	46	13.6%	29	11.5%	0	0.0%	7	43.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問20-F　社会通念・慣習・しきたりなどで

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常に平等になっている	14	2.3%	2	0.6%	12	4.7%	0	0.0%	0	0.0%
かなり平等になっている	83	13.5%	37	10.9%	40	15.8%	1	12.5%	5	31.3%
少し平等になっている	210	34.1%	108	32.0%	98	38.7%	2	25.0%	2	12.5%
あまり平等になっていない	193	31.4%	124	36.7%	64	25.3%	4	50.0%	1	6.3%
全く平等になっていない	44	7.2%	30	8.9%	12	4.7%	1	12.5%	1	6.3%
無回答	71	11.5%	37	10.9%	27	10.7%	0	0.0%	7	43.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-A　「男性は仕事，女性は家事・育児」と役割を分担するほうがよい

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	20	3.3%	9	2.7%	11	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
どちらかといえばそう思う	65	10.6%	18	5.3%	47	18.6%	0	0.0%	0	0.0%
どちらともいえない	162	26.3%	89	26.3%	64	25.3%	3	37.5%	6	37.5%
どちらかといえばそう思わない	109	17.7%	58	17.2%	47	18.6%	1	12.5%	3	18.8%
そう思わない	245	39.8%	157	46.4%	80	31.6%	4	50.0%	4	25.0%
無回答	14	2.3%	7	2.1%	4	1.6%	0	0.0%	3	18.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-B　男の子は男らしく，女の子は女らしく育てるほうがよい

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	45	7.3%	16	4.7%	28	11.1%	0	0.0%	1	6.3%
どちらかといえばそう思う	141	22.9%	46	13.6%	91	36.0%	0	0.0%	4	25.0%
どちらともいえない	177	28.8%	106	31.4%	64	25.3%	2	25.0%	5	31.3%
どちらかといえばそう思わない	78	12.7%	53	15.7%	22	8.7%	3	37.5%	0	0.0%
そう思わない	162	26.3%	111	32.8%	45	17.8%	3	37.5%	3	18.8%
無回答	12	2.0%	6	1.8%	3	1.2%	0	0.0%	3	18.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-C　妻や子どもを養うのは，男性の責任である

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	62	10.1%	18	5.3%	40	15.8%	0	0.0%	4	25.0%
どちらかといえばそう思う	157	25.5%	62	18.3%	92	36.4%	1	12.5%	2	12.5%
どちらともいえない	149	24.2%	89	26.3%	54	21.3%	1	12.5%	5	31.3%
どちらかといえばそう思わない	62	10.1%	42	12.4%	16	6.3%	4	50.0%	0	0.0%
そう思わない	173	28.1%	121	35.8%	47	18.6%	2	25.0%	3	18.8%
無回答	12	2.0%	6	1.8%	4	1.6%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-D　女性は結婚したら自分自身のことより，家族を中心に考えるべきである

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	25	4.1%	10	3.0%	14	5.5%	1	12.5%	0	0.0%
どちらかといえばそう思う	106	17.2%	46	13.6%	56	22.1%	0	0.0%	4	25.0%
どちらともいえない	180	29.3%	85	25.1%	87	34.4%	2	25.0%	6	37.5%
どちらかといえばそう思わない	108	17.6%	65	19.2%	37	14.6%	4	50.0%	2	12.5%
そう思わない	183	29.8%	124	36.7%	56	22.1%	1	12.5%	2	12.5%
無回答	13	2.1%	8	2.4%	3	1.2%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-E　女性は仕事を持つのはよいが，家事，育児もきちんとすべきである

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	30	4.9%	16	4.7%	12	4.7%	1	12.5%	1	6.3%
どちらかといえばそう思う	141	22.9%	68	20.1%	70	27.7%	0	0.0%	3	18.8%
どちらともいえない	186	30.2%	94	27.8%	81	32.0%	4	50.0%	7	43.8%
どちらかといえばそう思わない	99	16.1%	58	17.2%	38	15.0%	1	12.5%	2	12.5%
そう思わない	149	24.2%	96	28.4%	50	19.8%	2	25.0%	1	6.3%
無回答	10	1.6%	6	1.8%	2	0.8%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-F　結婚したら，妻が夫の姓を名乗るのは当然だと思う

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	82	13.3%	32	9.5%	43	17.0%	1	12.5%	6	37.5%
どちらかといえばそう思う	99	16.1%	48	14.2%	49	19.4%	0	0.0%	2	12.5%
どちらともいえない	220	35.8%	129	38.2%	83	32.8%	2	25.0%	6	37.5%
どちらかといえばそう思わない	54	8.8%	32	9.5%	20	7.9%	2	25.0%	0	0.0%
そう思わない	151	24.6%	93	27.5%	55	21.7%	3	37.5%	0	0.0%
無回答	9	1.5%	4	1.2%	3	1.2%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-G　実の親，義理の親に限らず，親の介護は女性がするべきである

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	7	1.1%	4	1.2%	2	0.8%	0	0.0%	1	6.3%
どちらかといえばそう思う	23	3.7%	12	3.6%	10	4.0%	0	0.0%	1	6.3%
どちらともいえない	170	27.6%	75	22.2%	89	35.2%	0	0.0%	6	37.5%
どちらかといえばそう思わない	80	13.0%	39	11.5%	38	15.0%	3	37.5%	0	0.0%
そう思わない	327	53.2%	205	60.7%	111	43.9%	5	62.5%	6	37.5%
無回答	8	1.3%	3	0.9%	3	1.2%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-H　男性の方が女性より，管理職としての素質がある

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	19	3.1%	6	1.8%	9	3.6%	0	0.0%	4	25.0%
どちらかといえばそう思う	61	9.9%	30	8.9%	29	11.5%	1	12.5%	1	6.3%
どちらともいえない	236	38.4%	129	38.2%	102	40.3%	2	25.0%	3	18.8%
どちらかといえばそう思わない	59	9.6%	34	10.1%	20	7.9%	3	37.5%	2	12.5%
そう思わない	228	37.1%	132	39.1%	91	36.0%	2	25.0%	3	18.8%
無回答	12	2.0%	7	2.1%	2	0.8%	0	0.0%	3	18.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-I　職場で来客にお茶を出すのは女性がしたほうがよい

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	36	5.9%	16	4.7%	18	7.1%	0	0.0%	2	12.5%
どちらかといえばそう思う	113	18.4%	48	14.2%	61	24.1%	0	0.0%	4	25.0%
どちらともいえない	171	27.8%	96	28.4%	69	27.3%	2	25.0%	4	25.0%
どちらかといえばそう思わない	69	11.2%	41	12.1%	24	9.5%	3	37.5%	1	6.3%
そう思わない	212	34.5%	130	38.5%	77	30.4%	3	37.5%	2	12.5%
無回答	14	2.3%	7	2.1%	4	1.6%	0	0.0%	3	18.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-J　育児休業は，男性より女性がとった方がよい

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	67	10.9%	33	9.8%	28	11.1%	1	12.5%	5	31.3%
どちらかといえばそう思う	158	25.7%	81	24.0%	76	30.0%	0	0.0%	1	6.3%
どちらともいえない	173	28.1%	96	28.4%	68	26.9%	3	37.5%	6	37.5%
どちらかといえばそう思わない	55	8.9%	33	9.8%	19	7.5%	2	25.0%	1	6.3%
そう思わない	152	24.7%	90	26.6%	59	23.3%	2	25.0%	1	6.3%
無回答	10	1.6%	5	1.5%	3	1.2%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問21-K　介護休業は，男性より女性がとった方がよい

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	31	5.0%	14	4.1%	14	5.5%	0	0.0%	3	18.8%
どちらかといえばそう思う	84	13.7%	35	10.4%	47	18.6%	0	0.0%	2	12.5%
どちらともいえない	228	37.1%	118	34.9%	101	39.9%	2	25.0%	7	43.8%
どちらかといえばそう思わない	63	10.2%	43	12.7%	16	6.3%	3	37.5%	1	6.3%
そう思わない	199	32.4%	124	36.7%	71	28.1%	3	37.5%	1	6.3%
無回答	10	1.6%	4	1.2%	4	1.6%	0	0.0%	2	12.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問22　男女共同参画に関する講演・研修等に参加したことがありますか

	合計		女性		男性	回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
よく参加している	7	1.1%	3	0.9%	4	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
参加したことがある	115	18.7%	63	18.6%	49	19.4%	1	12.5%	2	12.5%
参加したことがない	473	76.9%	264	78.1%	193	76.3%	7	87.5%	9	56.3%
無回答	20	3.3%	8	2.4%	7	2.8%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問23　次の項目が学校教育での男女平等意識の推進を妨げることになると思うか
問23-A　性別により進路指導をすること

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常にそう思う	84	13.7%	51	15.1%	31	12.3%	1	12.5%	1	6.3%
かなりそう思う	92	15.0%	59	17.5%	32	12.6%	1	12.5%	0	0.0%
少しそう思う	91	14.8%	42	12.4%	44	17.4%	3	37.5%	2	12.5%
あまりそうは思わない	161	26.2%	80	23.7%	74	29.2%	1	12.5%	6	37.5%
全くそうは思わない	167	27.2%	95	28.1%	66	26.1%	2	25.0%	4	25.0%
無回答	20	3.3%	11	3.3%	6	2.4%	0	0.0%	3	18.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問23-B　名簿，整列，点呼などが男女別になっていること

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常にそう思う	53	8.6%	31	9.2%	21	8.3%	1	12.5%	0	0.0%
かなりそう思う	67	10.9%	41	12.1%	23	9.1%	0	0.0%	3	18.8%
少しそう思う	126	20.5%	71	21.0%	52	20.6%	3	37.5%	0	0.0%
あまりそうは思わない	213	34.6%	114	33.7%	94	37.2%	3	37.5%	2	12.5%
全くそうは思わない	135	22.0%	72	21.3%	56	22.1%	1	12.5%	6	37.5%
無回答	21	3.4%	9	2.7%	7	2.8%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問23-C　ランドセルや学習用具など，男女の色分けがされていること

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常にそう思う	52	8.5%	32	9.5%	19	7.5%	1	12.5%	0	0.0%
かなりそう思う	78	12.7%	44	13.0%	32	12.6%	0	0.0%	2	12.5%
少しそう思う	123	20.0%	73	21.6%	46	18.2%	2	25.0%	2	12.5%
あまりそうは思わない	188	30.6%	94	27.8%	84	33.2%	4	50.0%	6	37.5%
全くそうは思わない	149	24.2%	82	24.3%	64	25.3%	1	12.5%	2	12.5%
無回答	25	4.1%	13	3.8%	8	3.2%	0	0.0%	4	25.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問23-D　生徒会や学級委員の選出を性別により固定化していること

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常にそう思う	83	13.5%	48	14.2%	33	13.0%	1	12.5%	1	6.3%
かなりそう思う	92	15.0%	49	14.5%	38	15.0%	1	12.5%	4	25.0%
少しそう思う	112	18.2%	66	19.5%	41	16.2%	2	25.0%	3	18.8%
あまりそうは思わない	146	23.7%	76	22.5%	67	26.5%	2	25.0%	1	6.3%
全くそうは思わない	160	26.0%	86	25.4%	68	26.9%	2	25.0%	4	25.0%
無回答	22	3.6%	13	3.8%	6	2.4%	0	0.0%	3	18.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問23-E　「男らしく」「女らしく」ふるまうように言うこと

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
非常にそう思う	69	11.2%	42	12.4%	26	10.3%	1	12.5%	0	0.0%
かなりそう思う	88	14.3%	51	15.1%	35	13.8%	1	12.5%	1	6.3%
少しそう思う	172	28.0%	92	27.2%	70	27.7%	4	50.0%	6	37.5%
あまりそうは思わない	166	27.0%	85	25.1%	78	30.8%	1	12.5%	2	12.5%
全くそうは思わない	98	15.9%	56	16.6%	38	15.0%	1	12.5%	3	18.8%
無回答	22	3.6%	12	3.6%	6	2.4%	0	0.0%	4	25.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問24　職場や学校，地域でセクシャルハラスメントをされた経験はありますか
問24-A　容姿，年齢，結婚などについて，あれこれと話題にされた

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
経験がある	140	22.8%	99	29.3%	40	15.8%	0	0.0%	1	6.3%
経験はないが，見聞きしたことがある	252	41.0%	127	37.6%	116	45.8%	5	62.5%	4	25.0%
経験も，見聞きしいたこともない	194	31.5%	101	29.9%	85	33.6%	3	37.5%	5	31.3%
無回答	29	4.7%	11	3.3%	12	4.7%	0	0.0%	6	37.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問24-B　からだをじろじろと見られた

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
経験がある	51	8.3%	48	14.2%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
経験はないが，見聞きしたことがある	204	33.2%	109	32.2%	87	34.4%	5	62.5%	3	18.8%
経験も，見聞きしたこともない	327	53.2%	170	50.3%	147	58.1%	3	37.5%	7	43.8%
無回答	33	5.4%	11	3.3%	16	6.3%	0	0.0%	6	37.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問24-C　宴会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要された

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
経験がある	89	14.5%	72	21.3%	16	6.3%	1	12.5%	0	0.0%
経験はないが，見聞きしたことがある	186	30.2%	95	28.1%	85	33.6%	3	37.5%	3	18.8%
経験も，見聞きしいたこともない	305	49.6%	159	47.0%	135	53.4%	4	50.0%	7	43.8%
無回答	35	5.7%	12	3.6%	17	6.7%	0	0.0%	6	37.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問24-D　性的な冗談や卑猥なことを話題にされた

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
経験がある	122	19.8%	85	25.1%	35	13.8%	1	12.5%	1	6.3%
経験はないが，見聞きしたことがある	189	30.7%	90	26.6%	92	36.4%	4	50.0%	3	18.8%
経験も，見聞きしいたこともない	272	44.2%	150	44.4%	113	44.7%	3	37.5%	6	37.5%
無回答	32	5.2%	13	3.8%	13	5.1%	0	0.0%	6	37.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問24-E　異性にわざと体を触られた

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
経験がある	74	12.0%	67	19.8%	6	2.4%	0	0.0%	1	6.3%
経験はないが，見聞きしたことがある	183	29.8%	89	26.3%	86	34.0%	5	62.5%	3	18.8%
経験も，見聞きしいたこともない	324	52.7%	169	50.0%	146	57.7%	3	37.5%	6	37.5%
無回答	34	5.5%	13	3.8%	15	5.9%	0	0.0%	6	37.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問24-F　しつこく交際を求められた

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
経験がある	26	4.2%	22	6.5%	2	0.8%	0	0.0%	2	12.5%
経験はないが，見聞きしたことがある	162	26.3%	90	26.6%	66	26.1%	4	50.0%	2	12.5%
経験も，見聞きしいたこともない	392	63.7%	213	63.0%	169	66.8%	4	50.0%	6	37.5%
無回答	35	5.7%	13	3.8%	16	6.3%	0	0.0%	6	37.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問24-G　性的な画像，動画を見せてきた（見ているところを目撃した）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
経験がある	27	4.4%	15	4.4%	11	4.3%	1	12.5%	0	0.0%
経験はないが，見聞きしたことがある	103	16.7%	45	13.3%	54	21.3%	2	25.0%	2	12.5%
経験も，見聞きしいたこともない	452	73.5%	266	78.7%	173	68.4%	5	62.5%	8	50.0%
無回答	33	5.4%	12	3.6%	15	5.9%	0	0.0%	6	37.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問24-H　地位を利用して性的な関係を迫られた

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
経験がある	13	2.1%	10	3.0%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
経験はないが，見聞きしたことがある	77	12.5%	39	11.5%	33	13.0%	3	37.5%	2	12.5%
経験も，見聞きしいたこともない	492	80.0%	277	82.0%	202	79.8%	5	62.5%	8	50.0%
無回答	33	5.4%	12	3.6%	15	5.9%	0	0.0%	6	37.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問24-I　性的な噂を流された

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
経験がある	17	2.8%	9	2.7%	7	2.8%	1	12.5%	0	0.0%
経験はないが，見聞きしたことがある	86	14.0%	43	12.7%	40	15.8%	2	25.0%	1	6.3%
経験も，見聞きしいたこともない	479	77.9%	273	80.8%	192	75.9%	5	62.5%	9	56.3%
無回答	33	5.4%	13	3.8%	14	5.5%	0	0.0%	6	37.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25　次の行為を暴力だと思うか

問25-A　平手で打つ

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	432	70.2%	249	73.7%	171	67.6%	4	50.0%	8	50.0%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	150	24.4%	75	22.2%	69	27.3%	4	50.0%	2	12.5%
暴力にあたると思わない	10	1.6%	3	0.9%	6	2.4%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	23	3.7%	11	3.3%	7	2.8%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-B　足でける

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	501	81.5%	280	82.8%	205	81.0%	6	75.0%	10	62.5%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	78	12.7%	44	13.0%	32	12.6%	2	25.0%	0	0.0%
暴力にあたると思わない	10	1.6%	2	0.6%	7	2.8%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	26	4.2%	12	3.6%	9	3.6%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-C　身体を傷つける可能性のあるものでなぐる

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	557	90.6%	312	92.3%	229	90.5%	7	87.5%	9	56.3%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	28	4.6%	17	5.0%	9	3.6%	1	12.5%	1	6.3%
暴力にあたると思わない	10	1.6%	1	0.3%	8	3.2%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	20	3.3%	8	2.4%	7	2.8%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-D　なぐるふりをして，おどす

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	367	59.7%	217	64.2%	135	53.4%	8	100.0%	7	43.8%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	195	31.7%	100	29.6%	92	36.4%	0	0.0%	3	18.8%
暴力にあたると思わない	27	4.4%	9	2.7%	17	6.7%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	26	4.2%	12	3.6%	9	3.6%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-E　刃物などを突き付けて，おどす

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	567	92.2%	311	92.0%	238	94.1%	8	100.0%	10	62.5%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	18	2.9%	15	4.4%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
暴力にあたると思わない	8	1.3%	2	0.6%	5	2.0%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	22	3.6%	10	3.0%	7	2.8%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-F　嫌がっているのに性的な行為を強要する

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	543	88.3%	305	90.2%	220	87.0%	8	100.0%	10	62.5%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	39	6.3%	19	5.6%	20	7.9%	0	0.0%	0	0.0%
暴力にあたると思わない	11	1.8%	3	0.9%	7	2.8%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	22	3.6%	11	3.3%	6	2.4%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-G　見たくないのに，性的な画像，動画，雑誌等を見せる

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	487	79.2%	285	84.3%	185	73.1%	8	100.0%	9	56.3%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	87	14.1%	37	10.9%	49	19.4%	0	0.0%	1	6.3%
暴力にあたると思わない	19	3.1%	5	1.5%	13	5.1%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	22	3.6%	11	3.3%	6	2.4%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-H　何を言っても長期間無視し続ける

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	371	60.3%	211	62.4%	149	58.9%	5	62.5%	6	37.5%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	185	30.1%	104	30.8%	75	29.6%	3	37.5%	3	18.8%
暴力にあたると思わない	34	5.5%	12	3.6%	20	7.9%	0	0.0%	2	12.5%
無回答	25	4.1%	11	3.3%	9	3.6%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-I　電話やメールを細かく監視する

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	401	65.2%	237	70.1%	153	60.5%	4	50.0%	7	43.8%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	160	26.0%	76	22.5%	77	30.4%	4	50.0%	3	18.8%
暴力にあたると思わない	29	4.7%	13	3.8%	15	5.9%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	25	4.1%	12	3.6%	8	3.2%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-J　食事を与えられない

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	510	82.9%	287	84.9%	206	81.4%	8	100.0%	9	56.3%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	67	10.9%	34	10.1%	32	12.6%	0	0.0%	1	6.3%
暴力にあたると思わない	15	2.4%	6	1.8%	8	3.2%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	23	3.7%	11	3.3%	7	2.8%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-K　大声でどなる

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	379	61.6%	228	67.5%	141	55.7%	4	50.0%	6	37.5%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	200	32.5%	97	28.7%	96	37.9%	4	50.0%	3	18.8%
暴力にあたると思わない	14	2.3%	3	0.9%	9	3.6%	0	0.0%	2	12.5%
無回答	22	3.6%	10	3.0%	7	2.8%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-L　常に命令口調で話す

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どんな場合も暴力にあたる	401	65.2%	238	70.4%	147	58.1%	8	100.0%	8	50.0%
暴力にあたる場合と，そうでない場合がある	173	28.1%	83	24.6%	89	35.2%	0	0.0%	1	6.3%
暴力にあたると思わない	20	3.3%	7	2.1%	11	4.3%	0	0.0%	2	12.5%
無回答	21	3.4%	10	3.0%	6	2.4%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問25-M　家に生活費を入れない

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	461	75.0%	262	77.5%	181	71.5%	8	100.0%	10	62.5%
聞いたことがある	100	16.3%	50	14.8%	50	19.8%	0	0.0%	0	0.0%
知らない	31	5.0%	15	4.4%	15	5.9%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	23	3.7%	11	3.3%	7	2.8%	0	0.0%	5	31.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問26　暴力の経験があるか

問26-A　なぐったり，けったり，物を投げつけたり，突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
何度もあった	20	3.3%	15	4.4%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
1，2度あった	58	9.4%	41	12.1%	15	5.9%	0	0.0%	2	12.5%
まったくない	510	82.9%	277	82.0%	218	86.2%	8	100.0%	7	43.8%
無回答	27	4.4%	5	1.5%	15	5.9%	0	0.0%	7	43.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問26-B　人格を否定するような暴言，精神的な嫌がらせ，脅迫など

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
何度もあった	27	4.4%	20	5.9%	6	2.4%	0	0.0%	1	6.3%
1，2度あった	45	7.3%	29	8.6%	16	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
まったくない	511	83.1%	281	83.1%	215	85.0%	8	100.0%	7	43.8%
無回答	32	5.2%	8	2.4%	16	6.3%	0	0.0%	8	50.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問26-C　嫌がっているのに性的な行為を強要された

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
何度もあった	13	2.1%	12	3.6%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
1，2度あった	33	5.4%	22	6.5%	10	4.0%	0	0.0%	1	6.3%
まったくない	538	87.5%	298	88.2%	225	88.9%	8	100.0%	7	43.8%
無回答	31	5.0%	6	1.8%	17	6.7%	0	0.0%	8	50.0%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問27　※問26で経験ありと回答（1または2）
だれかに打ち明けたり相談したりしましたか（複数回答可）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　相談しなかった（できなかった）	61	43.3%	41	40.2%	20	54.1%	0	－	0	0.0%
2－1　配偶者暴力支援センター	4	2.8%	3	2.9%	1	2.7%	0	－	0	0.0%
2－2　警察	5	3.5%	4	3.9%	1	2.7%	0	－	0	0.0%
2－3　法務局・地方法務局，人権擁護委員	2	1.4%	1	1.0%	1	2.7%	0	－	0	0.0%
2－4　市家庭相談室家庭相談員	2	1.4%	2	2.0%	0	0.0%	0	－	0	0.0%
2－5　他の市町村の相談窓口	2	1.4%	1	1.0%	1	2.7%	0	－	0	0.0%
2－6　1～5以外の公的な機関に相談	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	－	0	0.0%
2－7　民間の専門家や専門機関	3	2.1%	3	2.9%	0	0.0%	0	－	0	0.0%
2－8　医療関係者	4	2.8%	3	2.9%	1	2.7%	0	－	0	0.0%
2－9　学校関係者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	－	0	0.0%
2-10　家族や親戚	26	18.4%	21	20.6%	4	10.8%	0	－	1	50.0%
2-11　友人，知人	25	17.7%	21	20.6%	3	8.1%	0	－	1	50.0%
2-12　その他	1	0.7%	0	0.0%	1	2.7%	0	－	0	0.0%
無回答	6	4.3%	2	2.0%	4	10.8%	0	－	0	0.0%
合計	141	100.0%	102	100.0%	37	100.0%	0	－	2	100.0%

問28　問27で誰にも相談しなかったのはなぜですか（複数回答可）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どこに相談してよいのかわからなかった	17	11.0%	11	11.2%	6	10.7%	0	－	0	－
恥ずかしくてだれにも言えなかった	14	9.1%	13	13.3%	1	1.8%	0	－	0	－
相談してもむだだと思った	21	13.6%	13	13.3%	8	14.3%	0	－	0	－
仕返しを受けたり，もっとひどい暴力を受けると思った	6	3.9%	4	4.1%	2	3.6%	0	－	0	－
加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	1	0.6%	0	0.0%	1	1.8%	0	－	0	－
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	3	1.9%	1	1.0%	2	3.6%	0	－	0	－
自分さえがまんすれば，なんとかこのままやっていけると思った	22	14.3%	15	15.3%	7	12.5%	0	－	0	－
世間体が悪いから	7	4.5%	3	3.1%	4	7.1%	0	－	0	－
他人を巻き込みたくないと思った	7	4.5%	4	4.1%	3	5.4%	0	－	0	－
他人に知られるとこれまでどおりのつきあいができなくなると思った	5	3.2%	1	1.0%	4	7.1%	0	－	0	－
そのことについて思い出したくなかった	6	3.9%	2	2.0%	4	7.1%	0	－	0	－
自分にも悪いところがあると思ったから	15	9.7%	11	11.2%	4	7.1%	0	－	0	－
相手の行為は愛情の表現だと思った	3	1.9%	1	1.0%	2	3.6%	0	－	0	－
相談するほどのことではないと思った	19	12.3%	13	13.3%	6	10.7%	0	－	0	－
その他	4	2.6%	3	3.1%	1	1.8%	0	－	0	－
無回答	4	2.6%	3	3.1%	1	1.8%	0	－	0	－
合計	154	100.0%	98	100.0%	56	100.0%	0	－	0	－

問29　今までに自分の身体，心の性または性的志向に悩んだことがありますか。

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
悩んだことがある	43	7.0%	21	6.2%	21	8.3%	1	12.5%	0	0.0%
悩んだことはない	552	89.8%	313	92.6%	229	90.5%	7	87.5%	3	18.8%
無回答	20	3.3%	4	1.2%	3	1.2%	0	0.0%	13	81.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問30　LGBTの方にとって，偏見や差別などにより，生活しづらい社会だと思うか。

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
思う	116	18.9%	71	21.0%	43	17.0%	2	25.0%	0	0.0%
どちらかと言えば思う	237	38.5%	138	40.8%	95	37.5%	3	37.5%	1	6.3%
どちらかと言えば思わない	134	21.8%	72	21.3%	59	23.3%	2	25.0%	1	6.3%
思わない	85	13.8%	41	12.1%	43	17.0%	1	12.5%	0	0.0%
無回答	43	7.0%	16	4.7%	13	5.1%	0	0.0%	14	87.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問31　※問30で1，2と回答した方
LGBTに対する偏見や差別をなくす，または生活しやすくするためにはどのような対策が必要か（複数回答可）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
行政が市民等への周知啓発を行う	95	10.9%	49	10.1%	45	12.3%	1	5.9%	0	0.0%
相談窓口等を充実させ，その存在を周知する	118	13.6%	61	12.6%	56	15.3%	1	5.9%	0	0.0%
生徒や市民への対応を想定し，小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う	138	15.9%	81	16.7%	53	14.5%	4	23.5%	0	0.0%
法律的にLGBTの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する	124	14.3%	68	14.0%	54	14.8%	2	11.8%	0	0.0%
当事者や支援団体，行政等を交えた連絡，意見交換を行う	59	6.8%	28	5.8%	30	8.2%	1	5.9%	0	0.0%
働きやすい職場環境づくりの取り組みをする	169	19.5%	94	19.4%	70	19.2%	5	29.4%	0	0.0%
パートナーシップ宣誓制度の整備	86	9.9%	54	11.1%	29	7.9%	3	17.6%	0	0.0%
分からない	59	6.8%	40	8.2%	19	5.2%	0	0.0%	0	0.0%
その他	12	1.4%	5	1.0%	7	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	0.9%	5	1.0%	2	0.5%	0	0.0%	1	100.0%
合計	868	100.0%	485	100.0%	365	100.0%	17	100.0%	1	100.0%

問32　日常生活で外国人と接する機会があるか（複数回答可）

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1　機会がない	395	59.9%	215	58.4%	172	64.4%	6	75.0%	2	12.5%
2－1　家族に外国人がいる	10	1.5%	8	2.2%	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
2－2　親しい友人がいる	15	2.3%	10	2.7%	5	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
2－3　職場での交流	62	9.4%	40	10.9%	20	7.5%	2	25.0%	0	0.0%
2－4　近所で見かけたり，あいさつしたりする	117	17.8%	66	17.9%	51	19.1%	0	0.0%	0	0.0%
2－5　学校行事などを通しての交流	12	1.8%	9	2.4%	3	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
2－6　語学教室など趣味を通じた活動における交流	4	0.6%	3	0.8%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
2－7　国際交流事業を通じた交流	4	0.6%	1	0.3%	2	0.7%	0	0.0%	1	6.3%
2－8　その他	14	2.1%	8	2.2%	6	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	26	3.9%	8	2.2%	5	1.9%	0	0.0%	13	81.3%
合計	659	100.0%	368	100.0%	267	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問33　多文化共生について

問33-A　外国人に親しみを感じる

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	46	7.5%	27	8.0%	18	7.1%	0	0.0%	1	6.3%
どちらかといえばそう思う	140	22.8%	74	21.9%	64	25.3%	2	25.0%	0	0.0%
どちらともいえない	297	48.3%	170	50.3%	121	47.8%	5	62.5%	1	6.3%
どちらかといえばそう思わない	52	8.5%	33	9.8%	18	7.1%	0	0.0%	1	6.3%
そう思わない	49	8.0%	23	6.8%	25	9.9%	1	12.5%	0	0.0%
無回答	31	5.0%	11	3.3%	7	2.8%	0	0.0%	13	81.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問33-B　南九州市に来る外国人観光客が増えることは好ましいことだ

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	174	28.3%	89	26.3%	82	32.4%	2	25.0%	1	6.3%
どちらかといえばそう思う	221	35.9%	135	39.9%	83	32.8%	2	25.0%	1	6.3%
どちらともいえない	159	25.9%	94	27.8%	63	24.9%	2	25.0%	0	0.0%
どちらかといえばそう思わない	27	4.4%	10	3.0%	15	5.9%	1	12.5%	1	6.3%
そう思わない	12	2.0%	4	1.2%	7	2.8%	1	12.5%	0	0.0%
無回答	22	3.6%	6	1.8%	3	1.2%	0	0.0%	13	81.3%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問33-C　南九州市で働く外国人が増えることは好ましいことだ

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	110	17.9%	53	15.7%	56	22.1%	1	12.5%	0	0.0%
どちらかといえばそう思う	189	30.7%	110	32.5%	77	30.4%	2	25.0%	0	0.0%
どちらともいえない	231	37.6%	139	41.1%	88	34.8%	3	37.5%	1	6.3%
どちらかといえばそう思わない	44	7.2%	22	6.5%	20	7.9%	1	12.5%	1	6.3%
そう思わない	18	2.9%	8	2.4%	9	3.6%	1	12.5%	0	0.0%
無回答	23	3.7%	6	1.8%	3	1.2%	0	0.0%	14	87.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問33-D　隣近所に住む外国人が増えることは好ましいことだ

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	59	9.6%	32	9.5%	26	10.3%	1	12.5%	0	0.0%
どちらかといえばそう思う	141	22.9%	79	23.4%	61	24.1%	1	12.5%	0	0.0%
どちらともいえない	294	47.8%	171	50.6%	119	47.0%	3	37.5%	1	6.3%
どちらかといえばそう思わない	62	10.1%	34	10.1%	25	9.9%	2	25.0%	1	6.3%
そう思わない	35	5.7%	16	4.7%	18	7.1%	1	12.5%	0	0.0%
無回答	24	3.9%	6	1.8%	4	1.6%	0	0.0%	14	87.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問33-E　日本に住む外国人は日本の習慣，ルールを守って生活するべきだ

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	207	33.7%	95	28.1%	108	42.7%	4	50.0%	0	0.0%
どちらかといえばそう思う	246	40.0%	144	42.6%	99	39.1%	2	25.0%	1	6.3%
どちらともいえない	109	17.7%	76	22.5%	32	12.6%	1	12.5%	0	0.0%
どちらかといえばそう思わない	17	2.8%	10	3.0%	5	2.0%	1	12.5%	1	6.3%
そう思わない	16	2.6%	8	2.4%	8	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	20	3.3%	5	1.5%	1	0.4%	0	0.0%	14	87.5%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問33-F　南九州市役所は多文化共生の地域づくりを積極的に取り組むべきだ

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	113	18.4%	58	17.2%	54	21.3%	1	12.5%	0	0.0%
どちらかといえばそう思う	236	38.4%	129	38.2%	105	41.5%	2	25.0%	0	0.0%
どちらともいえない	205	33.3%	124	36.7%	77	30.4%	4	50.0%	0	0.0%
どちらかといえばそう思わない	23	3.7%	11	3.3%	10	4.0%	1	12.5%	1	6.3%
そう思わない	13	2.1%	8	2.4%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	25	4.1%	8	2.4%	2	0.8%	0	0.0%	15	93.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

問33-G　南九州市は外国人にとって生活しやすいまちだ

	合計		女性		男性		回答しない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	29	4.7%	15	4.4%	14	5.5%	0	0.0%	0	0.0%
どちらかといえばそう思う	105	17.1%	62	18.3%	42	16.6%	1	12.5%	0	0.0%
どちらともいえない	378	61.5%	219	64.8%	153	60.5%	6	75.0%	0	0.0%
どちらかといえばそう思わない	46	7.5%	18	5.3%	26	10.3%	1	12.5%	1	6.3%
そう思わない	30	4.9%	14	4.1%	16	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	27	4.4%	10	3.0%	2	0.8%	0	0.0%	15	93.8%
合計	615	100.0%	338	100.0%	253	100.0%	8	100.0%	16	100.0%

Ⅵ．男女共同参画社会についての

市民意識調査　原稿

男女共同参画社会づくりのための市民意識調査

～あなたのご意見をお聴かせください～

―調査の趣旨とご協力のお願い―

日頃から，市政の推進につきましては，ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

本市においては，2020年（令和2年）3月に策定した「第2次南九州市　男女共同参画基本計画」に基づき，市民の皆様と連携し，男女共同参画を総合的かつ計画的に推進して参りました。

このたび，前回調査から5年経過するにあたり，男女共同参画に関する市民の皆様の意識や実態を把握し，今後の施策をさらに効果的に進めるため，男女共同参画社会づくりのための市民意識調査を実施することになりました。

ご多忙のところお手数をおかけいたしますが，趣旨をご理解いただき，ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

令和6年12月９日　　南九州市長　塗木　弘幸

◆　この調査は，18 歳以上の市民 2,000 名を無作為に選ばせていただき，ご協力をお願いしております。回答は無記名で，統計的な処理をいたしますので，個人を特定されることはございません。プライバシー保護には細心の配慮をいたしますので，あなたご自身のお考えや現状をお答えください。

～ご記入にあたってのお願い～

1　この調査のご記入は，**封筒のあて名の方ご本人**にお願いします。

2　回答は，調査票に直接ご記入ください。

3　回答は，調査票のあてはまる項目の番号に直接○（まる）をつけてください。

4　質問によっては，ある条件に該当する方だけにご回答いただくものがありますので，説明に従って最後までおすすみください。

5　すべてのご記入が終わりましたら，お手数ですが，記入もれがないかお確かめのうえ，同封の返信用封筒（切手は要りません）に入れ，**令和７年１月１０日（金）までに**郵便ポストに投函してください。

インターネットでも回答できます。

個人 ID＿＿＿＿＿＿＿＿

※インターネットで回答した方は提出不要です。

<問い合わせ先>

南九州市役所　まちづくり推進課　共生・協働推進係

〒８９７－0392　南九州市知覧町郡６２０４番地

電話　0993－８３－２５１１（内線2222）

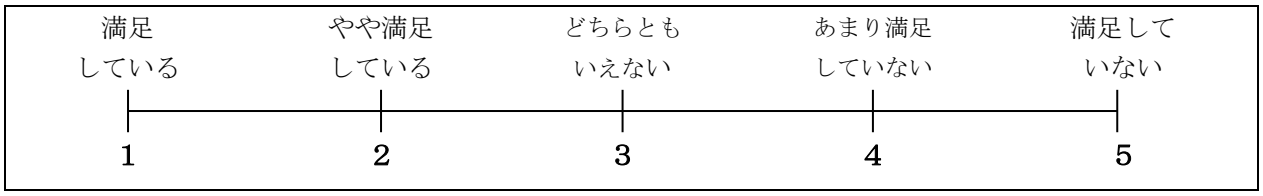
【問１】あなたは，《男性は仕事，女性は家庭を守るべき》という考え方についてどのように思いますか。あてはまる番号を１つお選びください。（○は１つ）

１　賛成 ２　どちらかというと賛成 ３　どちらかというと反対 ４　反対

【問２】あなたは，次の用語を知っていますか。次のA～Tのそれぞれについて，右欄の１～３のうちあてはまる番号を1つずつお選びください。

	知っている	聞いたことがある	知らない
A　男女共同参画社会	1	2	3
B　男女共同参画社会基本法	1	2	3
C　南九州市男女共同参画推進条例	1	2	3
D　女性差別撤廃条約	1	2	3
E　南九州市男女共同参画基本計画	1	2	3
F　男女雇用機会均等法	1	2	3
G　ドメスティック・バイオレンス(ＤＶ)(配偶者からの暴力)	1	2	3
H　セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)(性的嫌がらせ)	1	2	3
I　配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律	1	2	3
J　ワークライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
K　ジェンダー(社会的文化的に作られた性差)	1	2	3
L　男女の人権の尊重	1	2	3
M　ＬＧＢＴ（自らの性に違和感を覚える人，性同一性障害等の人々）　※今回は「ＬＧＢＴ」という表現で調査を行います	1	2	3
N　多文化共生	1	2	3
O　女性活躍推進法	1	2	3
P　政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	1	2	3
Q　ＬＧＢＴ理解増進法	1	2	3
R　ポジティブアクション	1	2	3
S　ダイバーシティ	1	2	3
T　ＧＧＩ（ジェンダーギャップ指数）	1	2	3

【問３】あなたは，ご自分の暮らしを振り返ったときに，仕事（家事などの家庭内労働を含む）とご自身の趣味などの個人生活のバランス（使っている時間など）について満足していますか。あてはまる番号を１つお選びください。（○は１つ）



【問４】あなたは，結婚，家庭，離婚についてどう思われますか。次のA～Cのそれぞれについて，右欄の１～５のうちあてはまる番号を1つずつお選びください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
A　結婚は個人の自由であるから，結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
B　結婚しても，必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
C　離婚は個人の選択であるから，離婚しても問題ない	1	2	3	4	5

【問５】子育てをする上での不安や悩みはどこにあると思われますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。（現在子育て中の方は，実際のお気持ちをお答えください。）
※子育ての経験が現在なくても，あなたのお考えにもっとも近い番号をお選びください。

１　特に悩みや不安はない

２　悩みや不安がある（次の項目からいくつでもお選びください。）

1　子どもとの時間を十分にとれない
2　子どもとの接し方に自信がなくなることがある
3　子育てについて，配偶者・パートナーと意見が合わない
4　子どもの受験や将来のことなどについて，配偶者・パートナーと意見が合わない
5　配偶者・パートナーなど周りの協力が得られない
6　自分の子育てについて，祖父母・親族や近隣の人，職場などまわりの見る目が気になる
7　子育てについて相談できる人や場所がない
8　急な用事で子どもを預けられる場所がない
9　子どもの病気など何か問題がおこったとき，自分のせいにされる
10　急な子どもの病気などのときの対応に困る
11　その他（　　）

【問６】育児に対する社会の支援などについて，あなたのご意見をお伺いします。あてはまる番号を１つお選びください。（○は１つ）

1	基本的に家族が行うもので，社会の支援は必要ない
2	基本的には家族が行うものだが，社会が支援する必要がある
3	家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある
4	家族は可能な範囲で行い，基本的には社会が担うべきである
5	わからない

【問７】介護に対する社会の支援などについて，あなたのご意見をお伺いします。あてはまる番号を１つお選びください。（○は１つ）

1	基本的に家族が行うもので，社会の支援は必要ない
2	基本的には家族が行うものだが，社会が支援する必要がある
3	家族だけでは負担が大きいので，社会が積極的に支援する必要がある
4	家族は可能な範囲で行い，基本的には社会が担うべきである
5	わからない

★現在，結婚されている方（事実婚を含みます）におたずねします。それ以外の方は問９へお進みください★

【問８】あなたの家では，現在，次のような事柄を主に誰が行っていますか。A～Dのそれぞれについて，右欄の１～７のうちあてはまる番号を１つずつお選びください。

※育児・介護については，現在該当していなくても，過去に経験があれば経験をもとにお答えください。

	夫	妻	夫と妻が同程度	夫・妻以外の家族	家族全員で分担	家族以外の人	該当しない
A　家事	1	2	3	4	5	6	7
B　育児（子どもの世話，用事）	1	2	3	4	5	6	7
C　介護・看護	1	2	3	4	5	6	7
D　自治会や公民館などの地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	7

【問９】今後，男性も女性も，家事・子育て・介護・地域活動・仕事などに，自分の意思で積極的に関わり，いきいきと暮らすことができるようになるためには，どのようなことが必要だと思われますか。特に必要と思われる事項の番号を３つ以内でお選びください。（○は3つまで）

1　男女の役割分担についての社会通念，慣習，しきたりを改めること
2　仕事に生活を合わせるという，仕事中心の社会全体の仕組みを改めること
3　男性が家事に参画するライフスタイルについて抵抗感をなくすこと
4　男性も女性も生活面・経済面で自立できるようになること
5　家族の間で互いの立場を理解し，家事などの分担をするように十分に話し合うこと
6　家事などについて，性別によらず，身に付けることができるような育て方をすること
7　男性の男女共同参画に対する関心を高めること
8　女性の男女共同参画に対する関心を高めること
9　学校･職場･社会など様々な場で男女平等や相互理解についての学習機会を増やすこと
10　労働時間を短縮したり，休暇制度を普及させること
11　自宅でも仕事ができるように在宅勤務などを普及させること
12　育児や介護支援の充実など，育児や介護を社会で支える制度を充実させること
13　わからない

【問１０】あなたの仕事（１年間に３０日以上従事，出産休暇，育児又は介護休業中の方を含む）を教えてください。（○は１つ）

1　常勤の勤め（正社員，正職員，会社役員，従業員など）　――――――→　**問１１へ**
2　非常勤の勤め（臨時職員，パート，アルバイト，嘱託など）　――――→　**問１２へ**
3　農業・林業・漁業等の自営業（経営者，家業の手伝い，内職など）　―→　**問１１へ**
4　商業，工業，建設業，サービス業，その他自由業等の自営業（経営者，家業の手伝い，内職など）　――――――――→　**問１１へ**
5　その他の職業　――――――――→　**問１１へ**
6　主婦・主夫（家事専業）　――――→　**問１５へ**
7　学生　――――――――――――→　**問１５へ**
8　無職　――――――――――――→　**問１５へ**

★問１０で１，３，４，５を選んだ方におたずねします★

【問１１】　あなたの職業上の区分を教えてください。（○は１つ）

1　管理職（企業，工場，各種法人，組合等の経営者・役員・課長以上の管理職など）
2　雇用者（管理職以外の正社員・正職員・従業員など）
3　自営業主（事業の経営主）
4　家族従業者（家業の手伝いなど）
5　その他

★問１０で１，２，３，４，５を選んだ方におたずねします。それ以外の方は問１５へお進みください★

【問１２】あなたが働いている場では，仕事の内容などについて，次にあげるような性別による処遇の差がありますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。※自営業の方は該当しない項目もありますが，該当するものがあればお選びください。

１　性別による処遇の差はない

２　性別による処遇の差はある（次の項目からいくつでもお選びください。）

1　性別によって賃金に差がある
2　性別によって昇進，昇格に差がある
3　性別によって能力の評価に差がある
4　性別によって幹部職員への登用に差がある
5　女性を一人前の社員，従業員，職員として見ていない
6　男性を一人前の社員，従業員，職員として見ていない
7　女性には補助的な仕事しかやらせない
8　男性には補助的な仕事しかやらせない
9　女性は育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある
10　男性は育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある
11　女性は結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
12　男性は結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
13　女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
14　男性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
15　同じ職場で夫と妻が共に働いている場合，妻のほうが働き続けにくい雰囲気がある
16　同じ職場で夫と妻が共に働いている場合，夫のほうが働き続けにくい雰囲気がある
17　女性は教育・訓練を受ける機会が少ない
18　男性は教育・訓練を受ける機会が少ない
19　女性は経営方針に対して意見を言いにくい雰囲気がある
20　男性は経営方針に対して意見を言いにくい雰囲気がある
21　その他（　　）

【問１３】あなたが働いている場では，働く時間，給料，休業日や休暇，仕事の分担などについての取り決め（会社の就業規則，農業の家族経営協定などに類するもの）がありますか。あてはまる番号を１つお選びください。（○は１つ）

１　文章化された取り決めがある　――――――――→　**問１４へ**
２　文章化されていないが，合意している取り決めがある
　（口約束，暗黙の了解も含む）　――――――――→　**問１４へ**
３　取り決めはない　――――――――――――――→　**問１７へ**
４　取り決めがあるかどうかわからない　――――――――→　**問１７へ**

★問１３で１，２と回答した方におたずねします★

【問１４】その取り決めは守られていますか。あてはまる番号を1つお選びください。（○は１つ）

1	守られている	→ 問１７へ
2	どちらかというと守られている	→ 問１７へ
3	どちらかというと守られていない	→ 問１７へ
4	守られていない	→ 問１７へ

★現在，収入になる仕事をしていない方に対し次の 問１５ ・ 問１６ をおたずねします★

【問１５】あなたが，現在，仕事をしていないのはどのような理由からですか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

1　特に理由はない

2　仕事をしていないのには理由がある（次の項目からいくつでもお選びください。）

1　経済的に働く必要がないから
2　職業を持たない方が自分のやりたいことができるから
3　家庭で家事・育児に専念するのが当然だから
4　家事の負担が大きいから
5　育児の負担が大きいから
6　健康や体力に自信がないから
7　希望通りの仕事が得られないから
8　仕事の募集そのものがないから
9　配偶者や子どもなど家族が望まないから
10　親や病気の家族の世話をするため
11　現在，学校に通っているから
12　高齢だから
13　働くことに向いていないから
14　働くことが好きでないから
15　やりがいのある仕事がないから
16　配偶者が数年おきに転勤するから
17　その他（　　）
18　わからない

【問１６】あなたは収入になる仕事をしたいと思われますか。あてはまる番号を１つお選びください。（○は１つ）

1	すぐにでも仕事をしたい
2	将来的には仕事をしたい
3	仕事をしたいとは思わない
4	わからない

★全員におたずねします★

【問１７】あなたは，日ごろ，何か地域のために役立ちたいと思われますか。あてはまる番号を１つお選びください。（○は１つ）

１　非常にそう思っている
２　かなりそう思っている
３　少しそう思っている
４　あまりそうは思わない
５　全くそうは思わない

【問１８】あなたは，現在，何か地域活動等に参加していますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

１　特になにもしていない
２　参加している
　１　自治会，地区公民館などの地区を単位とした団体における活動
　２　女性（婦人）会，老人会，青年団などの団体活動
　３　子ども会，ＰＴＡ，スポーツ少年団などの子どもの活動に関わる団体活動
　４　消費者運動，環境保護運動などの住民運動
　５　民生委員・児童委員，スポーツ推進員などの公的な委員活動
　６　子育て支援や高齢者介護，障害者福祉などを目的としたグループ活動
　７　ＮＰＯ法人などの非営利活動
　８　特定の団体やグループに属さず，個人として地域に貢献する活動
　９　スポーツや趣味，文化振興などに関わるサークル活動
　10　その他（具体的に：　　）

【問１９】あなたが住んでいる地域では，次のような雰囲気や慣習がありますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

１　特になにもない

２　次のような雰囲気や慣習がある（次の項目からいくつでもお選びください。）

1　地域活動をするときに，子どもがいない世帯や，中高年の一人住まいの世帯，若い独身者を活動の一員として初めから期待していないような雰囲気がある

2　地域の清掃作業などで，世帯の男性ではなく女性が参加すると負担金を払う慣習がある

3　女性や若い人は，男性や年長者の意見に従ったほうがよい（従うものだ）という雰囲気がある

4　団体の長や代表などには男性がなるほうがよい（なるものだ）という雰囲気がある

5　会議等で女性が自分の意見を発言することに対して批判的な雰囲気がある

6　女性は様々な役割や仕事の経験を積む機会から遠ざけられている雰囲気がある

7　様々な役割分担の責任者には男性が就き，女性は補佐役に就くことが多い

8　集落・公民館・ＰＴＡなどの役員名簿には夫の名前を載せるが，実際には妻が役割を果たしていることが多い

9　女性が役職に就きたがらない

10　会合や行事の湯茶・食事の準備や後片付けは女性の役割という雰囲気がある

11　地域のために慣習を見直すなど，変革を求める人を煙たがる雰囲気がある

12　地元（市内）出身でない人を何年経っても「よその人」として区別する雰囲気がある

13　地域での生活に関わる事柄について，互いに助け合うために，自分ができることで貢献しようとする意識があまりない

【問２０】あなたは次のような場で男女は平等になっていると思われますか。次のＡ～Ｆのそれぞれについて，右欄の１～５のうちあてはまる番号を１つずつお選びください。

	非常に平等になっている	かなり平等になっている	少し平等になっている	あまり平等になっていない	全く平等になっていない
A　家庭の中で	1	2	3	4	5
B　自治会，地区公民館などの地域社会で	1	2	3	4	5
C　職場の中で	1	2	3	4	5
D　学校教育の中で	1	2	3	4	5
E　法律や制度で	1	2	3	4	5
F　社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5

【問２１】あなたは，次のようなことについてどう思われますか。次のA～Kのそれぞれについて，右欄の１～５のうちあてはまる番号を1つずつお選びください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
A　「男性は仕事，女性は家事・育児」と役割を分担するほうがよい	1	2	3	4	5
B　男の子は男らしく，女の子は女らしく育てるほうがよい	1	2	3	4	5
C　妻や子どもを養うのは，男性の責任である	1	2	3	4	5
D　女性は結婚したら自分自身のことより，家族を中心に考えるべきである	1	2	3	4	5
E　女性は仕事を持つのはよいが，家事，育児もきちんとすべきである	1	2	3	4	5
F　結婚したら，妻が夫の姓を名乗るのは当然だと思う	1	2	3	4	5
G　実の親，義理の親に限らず，親の介護は女性がするべきである	1	2	3	4	5
H　男性の方が女性より，管理職としての素質がある	1	2	3	4	5
I　職場で来客にお茶を出すのは女性がしたほうがよい	1	2	3	4	5
J　育児休業は，男性より女性がとった方がよい	1	2	3	4	5
K　介護休業は，男性より女性がとった方がよい	1	2	3	4	5

【問２2】あなたは，男女共同参画に関する講演・研修等に参加したことがありますか。あてはまる番号を１つお選びください。（○は１つ）

1　よく参加している
2　参加したことがある
3　参加したことがない

【問２３】あなたは，次にあげるようなことが，学校教育での男女平等意識の推進を妨げることになると思いますか。次にあげるA～Eについて，右欄の１～５のうちあてはまる番号を１つずつお選びください。

	非常にそう思う	かなりそう思う	少しそう思う	あまりそうは思わない	全くそうは思わない
A　性別により進路指導をすること（例：男子は理系，女子は文系，就職指導で女子の職種を限定するなど）	1	2	3	4	5
B　名簿，整列，点呼など男女別になっていること（例：男子が先，女子が後）	1	2	3	4	5
C　ランドセルや学習用具など，男女の色分けがされていること	1	2	3	4	5
D　生徒会や学級委員等の選出を性別により固定化していること（例：委員長は男子，副委員長は女子）	1	2	3	4	5
E　「男らしく」「女らしく」ふるまうように言うこと	1	2	3	4	5

【問２４】近年，セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）が問題となっています。職場や学校，地域で次のようなことをされた経験はありますか。またそうしたことを見聞きしたことがありますか。次にあげるA～Ｉのそれぞれについて，右欄の１～３のうちあてはまる番号を１つずつお選びください。

	経験がある	経験はないが，見聞きしたことがある	経験も，見聞きしたこともない
A　容姿・年齢・結婚などについて，あれこれと話題にされた	1	2	3
B　からだをじろじろ見られた	1	2	3
C　宴会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要された	1	2	3
D　性的な冗談やひわいなことを話題にされた	1	2	3
E　異性にわざと体をさわられた	1	2	3
F　しつこく交際を求められた	1	2	3
G　性的な画像，動画を見せてきた（見ているところを目撃した）	1	2	3
H　地位を利用して性的な関係を迫られた	1	2	3
I　性的なうわさを流された	1	2	3

【問２５】あなたは次のようなことが親しい間柄（夫・妻，事実婚のパートナー，恋人，元配偶者，元パートナー，元恋人）の間で行われた場合，それを暴力だと思われますか。A～Mのそれぞれについて，右欄の１～３のうちあてはまる番号を１つずつお選びください。

	どんな場合も暴力にあたると思う	暴力にあたる場合と，そうでない場合があると思う	暴力にあたるとは思わない
A　平手で打つ	1	2	3
B　足でける	1	2	3
C　身体を傷つける可能性のあるものでなぐる	1	2	3
D　なぐるふりをして，おどす	1	2	3
E　刃物などを突きつけて，おどす	1	2	3
F　嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
G　見たくないのに，性的な画像，動画，雑誌等を見せる	1	2	3
H　何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
I　電話，メールなどを細かく監視する	1	2	3
J　食事を与えられない	1	2	3
K　大声でどなる	1	2	3
L　常に命令口調で話す	1	2	3
M　家に生活費を入れない	1	2	3

【問２６】あなたはこれまでに，あなたの配偶者・パートナー・恋人（元配偶者・元パートナー・元恋人も含む）から次のようなことをされたことがありますか。次のA～Cのそれぞれについて，右欄の１～３のうちあてはまる番号を１つずつお選びください。

★問２７，２８にご回答下さい★←	何度もあった	1，2度あった	まったくない
A　なぐったり，けったり，物を投げつけたり，突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
B　人格を否定するような暴言，交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた，あるいは，あなたもしくはあなたの家庭に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
C　嫌がっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

★問２６のＡ～Ｃのいずれかで１，２と回答した方におたずねします。それ以外の方は問２９へお進みください★

【問２７】あなたはそのことを，だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

１　どこにも，だれにも相談しなかった（できなかった）――――→　問２８へ

２　相談した・だれかに打ち明けた（次の項目からいくつでもお選びください。）

1　配偶者暴力相談支援センター（県女性センター，県男女共同参画センター，地域振興局，その他の施設）に相談した

2　警察に連絡・相談した

3　法務局・地方法務局，人権擁護委員に相談した

4　市家庭相談室相談員に相談した

5　他の市町村の相談窓口（女性相談など）に相談した

6　１～５以外の公的な機関に相談した

7　民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会，カウンセラー・カウンセリング機関，民間シェルターなど）に相談した

8　医療関係者（医師，看護師，助産師など）に相談した

9　学校関係者（教員，養護教員，スクールカウンセラーなど）に相談した

10　家族や親戚に相談した

11　友人，知人に相談した

12　その他（　　）

★問２７で１と回答した方におたずねします★

【問２８】どこにも，誰にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

1　どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから

2　恥ずかしくてだれにも言えなかったから

3　相談してもむだだと思ったから

4　相談したことがわかると，仕返しを受けたり，もっとひどい暴力を受けると思ったから

5　加害者に「誰にも言うな」とおどされたから

6　相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから

7　自分さえがまんすれば，なんとかこのままやっていけると思ったから

8　世間体が悪いから

9　他人を巻き込みたくなかったから

10　他人に知られると，これまでどおりのつきあい（仕事や学校，地域などの人間関係）ができなくなると思ったから

11　そのことについて思い出したくなかったから

12　自分にも悪いところがあると思ったから

13　相手の行為は愛情の表現だと思ったから

14　相談するほどのことではないと思ったから

15　その他（　　）

★全員におたずねします★

【問２９】あなたは，今までに自分の身体の性，心の性または性的指向（恋愛や性愛の対象がどのような性別に向いているか）に悩んだことがありますか。あてはまる番号を１つお選びください。（○は１つ）

１　悩んだことがある	２　悩んだことはない

【問３０】現在，LGBT（同性が好きな人や，自分の身体や心の性に違和感を覚える人，または性同一性障害などの人々のこと。以下同じ。）の方々にとって，偏見や差別などにより，生活しづらい社会だと思いますか。あてはまる番号を<u>１つ</u>お選びください。（○は１つ）

１　思う　――――――――――――――――――――→　**問３１へ**
２　どちらかと言えば思う　――――――――――→　**問３１へ**
３　どちらかと言えば思わない
４　思わない

★問３０で１，２と回答した方におたずねします。それ以外の方は問３２へお進みください★

【問３１】LGBTの方々に対する偏見や差別をなくす，または生活しやすくするためにはどのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号を<u>いくつでも</u>お選びください。

１　行政が市民等への周知啓発を行う
２　相談窓口等を充実させ，その存在を周知する
３　生徒や市民への対応を想定し，小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う
４　法律的にLGBTの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する
５　当事者や支援団体，行政等を交えた連絡，意見交換を行う
６　働きやすい職場環境づくりの取り組みをする
７　パートナーシップ宣誓制度の整備
８　分からない
９　その他（　　）

★全員におたずねします★

人口減少，少子高齢化社会の到来によって，国の施策により日本で生活する外国人が年々増加しています。そのため，外国人と互いの文化的差異を認め合い，地域社会で暮らす仲間として共に生活していく「多文化共生の地域づくり」の実現が求められるようになっています。

【問32】あなたは日常生活で外国の方と接する機会がありますか。あてはまる番号を<u>いくつでも</u>お選びください。

１　機会がない
２　機会がある（次の項目からいくつでもお選びください。）
１　家族に外国人がいる
２　親しい友人がいる
３　職場での交流
４　近所で見かけたり，あいさつしたりする
５　学校行事などを通しての交流
６　語学教室など趣味を通じた活動における交流
７　国際交流事業を通じた交流
８　その他（　　）

【問３３】あなたは次のA～Gについてどう思いますか。右欄の1～5のうちあてはまる番号を1つずつお選びください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
A　外国人に親しみを感じる	1	2	3	4	5
B　南九州市に来る外国人観光客が増えることは好ましいことだ	1	2	3	4	5
C　南九州市で働く外国人が増えることは好ましいことだ	1	2	3	4	5
D　隣近所に住む外国人が増えることは好ましいことだ	1	2	3	4	5
E　日本に住む外国人は日本の習慣，ルールを守って生活するべきだ	1	2	3	4	5
F　南九州市役所は多文化共生の地域づくりを積極的に取り組むべきだ	1	2	3	4	5
G　南九州市は外国人にとって生活しやすいまちだ	1	2	3	4	5

★最後に，あなたご自身のことについてお伺いします。《全員の方にお伺いします。》★

【問３４】　あなたの性別を教えてください。（ＬＧＢＴの方はご自分の主観でお選びください）

1　女性　　2　男性　　3　回答しない

【問３５】　あなたの年齢を教えてください。（○は１つ）

1　１８～２９歳　　2　３０～３９歳　　3　４０～４９歳　　4　５０～５９歳
5　６０～６９歳　　6　７０歳以上

【問３６】　あなたの世帯の構成は次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

1　一人暮らしの世帯　　2　夫と妻のみの世帯
3　親と子などの世帯　　4　親と子と孫などの世帯　　5　その他

【問３７】　あなたは現在結婚されていますか。（○は１つ）

1　結婚している　　2　事実婚している　　3　結婚していたが，離別した
4　結婚していたが，死別した　　5　結婚していない

★現在，結婚されている方（事実婚を含みます）におたずねします★

【問３８】ご夫妻のお仕事の状況について教えてください。（○は１つ）

1　どちらも仕事をしている（パートタイム，内職を含む）
2　自分のみ仕事をしている
3　配偶者（事実婚の方を含む）のみ仕事をしている
4　どちらも仕事をしていない

【問３９】　あなたには子どもさんがいらっしゃいますか。（○は１つ）

1　いる　　2　いない

★子どもさんがいらっしゃる方におたずねします★

【問４０】あなたのお子さんは何人ですか。（○は１つ）

1　１人　　2　２人　　3　３人　　4　４人以上

【問４１】あなたのお子さんは次のどれにあてはまりますか。

（当てはまるものに○）

1　乳児（１歳未満）　　2　幼児（１歳以上）　　3　小学生　　4　中学生
5　高校生，大学生（高専，短大，専門学校も含む）　　6　学校を卒業した未婚の子ども
7　結婚した子ども

【問４２】最後に，男女共同参画社会づくりに関することについて，行政に対してどのようなことを望みますか。その他ご意見・ご要望など，自由に意見をお書きください。

～　ご協力ありがとうございました　～

◆ご記入いただきました調査票は，記入もれがないかもう一度お確かめください。
◆同封の封筒にいれて，令和７年１月１０日（金）までにご返送ください。